2021

授業計画

Syllabus

宝塚大学　看護学部
助産学専攻科

2021年度授業科目・担当者一覧

看護学部　看護学科

Ⅰ　基礎分野

〈科目名〉	〈担当者名〉	〈ページ〉
生きた人間学	加畑公一郎 ……	21
統計学入門	平松　誠 ……	22
論理の世界	立花　達也 ……	23
心理学への招待	岩城　晶子 ……	24
情報心理学	岩城　晶子 ……	25
ヒトと生物学	堀家なな緒 ……	26
環境と生態	白井　文恵 ……	27
化学	堅中　泰樹 ……	28
キャリア教育Ⅰ	浮田／伊佐／岩城／八田 ……	29
キャリア教育Ⅱ	伊佐／浮田／岩城／八田 ……	30
人間関係概論	岩城　晶子 ……	31
教育学概論	伊佐　夏実 ……	32
発達心理学	大村　枝里 ……	33
ジェンダー論	伊佐　夏実 ……	34
情報化と社会	田島　悠史 ……	35
民俗学	鈴木　洋昭 ……	36
メディア社会学	北垣　博美 ……	37
医療ジャーナリズム論	佐々木　宏 ……	38
ヘルスケア・マーケティング	川島　隆志 ……	39
生活の中の法律	鈴木　眞澄 ……	40
文芸論	菊地　薫 ……	41
文章表現法Ⅰ	加畑／北垣 ……	42
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎 ……	43
ファッションアートサーヴェイ	角南登紀子 ……	44
マスコミと報道	加畑公一郎 ……	45
西洋美術の源流	森口まどか ……	46
伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	飯島　照仁 ……	47
伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	小林　秀加 ……	48
伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	池田　方彩 ……	49
英語Ⅰ（Reading 1）	浮田　恭子 ……	50
英語Ⅱ（Writing 1）	毛利　郁子 ……	51
英語Ⅱ（Writing 1）	池田美智子 ……	52
英語Ⅱ（Writing 1）	永田　節子 ……	53
英会話Ⅰ（Listening & Speaking 1）	池田美智子 ……	54
英会話Ⅱ（Listening & Speaking 2）	毛利　郁子 ……	55
英語Ⅲ（Reading 2）	毛利　郁子 ……	56
英語Ⅳ（Writing 2）	池田美智子 ……	57
フランス語Ⅰ	渋谷　直樹 ……	58
フランス語Ⅱ	渋谷　直樹 ……	59
中国語会話Ⅰ	潘　建秀 ……	60
中国語会話Ⅱ	潘　山海 ……	61
ビジネス中国語	潘　建秀 ……	62
イタリア語Ⅰ	中川　光 ……	63
イタリア語Ⅱ	小松　寛明 ……	64
ドイツ語Ⅰ	神竹　道士 ……	65
ドイツ語Ⅱ	神竹　道士 ……	66

Ⅱ　専門基礎分野

医療概論（生命倫理）	林　貴啓 ……	67
医療行動科学	日高　庸晴 ……	68
生涯教育論	伊佐　夏実 ……	69
癒しと芸術	フルイミエコ ……	70
栄養と健康	須田あゆみ ……	71
人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	片山　泰一 ……	72
人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	堅中　泰樹 ……	73
病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	高原　史郎 ……	74
病態治療学Ⅱ（内科系）	片山　泰一 ……	75
病態治療学Ⅲ（外科系）	高原　史郎 ……	76
生化学	堀家なな緒 ……	77
薬理学	内海　美保 ……	78
感染と免疫	白井　文恵 ……	79
疫学	日高　庸晴 ……	80
医療と情報（保健統計）	日高　庸晴 ……	81
運動と健康	大本　友香 ……	82
情報処理Ⅰ（入門編）	吉田　浩 ……	83
情報処理Ⅱ（応用編）	吉田　浩 ……	84
福祉情報技術	大西　雅裕 ……	85
医療と経済	川島　隆志 ……	86
カウンセリング	伊藤　俊樹 ……	87
社会保障と福祉	長谷川章子 ……	88

Ⅲ　専門分野

基礎看護学Ⅰ（概論）	澤田　京子 ……	89
基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	北島　洋子 ……	90
基礎看護学Ⅲ（健康教育）	尾ノ井美由紀 ……	91
基礎看護学Ⅳ－１（基礎看護技術）	平野／北島／梅川／瀬山 ……	92
基礎看護学Ⅳ－２（基礎看護技術）	北島／平野／梅川／瀬山 ……	93
基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	梅川／北島／平野／瀬山 ……	94
基礎看護学Ⅵ（看護過程）	平野加代子 ……	95
成人看護学Ⅰ（概論）	中川／房間 ……	96
成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	中川／國松／浅井 ……	97
成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	中川／房間／國松／浅井 ……	98
成人看護学Ⅳ（援助方法論）	中川／房間／國松／浅井 ……	99
老年看護学Ⅰ（概論）	山本　裕子 ……	100
老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	山本／高橋 ……	101

老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント） 山本／高橋 …… 102
老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン） 山本／高橋 …… 103
小児看護学Ⅰ（概論と保健） 松尾ひとみ …… 104
小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護） 松尾ひとみ …… 105
小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助） 松尾ひとみ …… 106
小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論） 松尾ひとみ …… 107
母性看護学Ⅰ（概論） 上山　直美 …… 108
母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療） 上山　直美 …… 109
母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント） 東尾／上山 …… 110
母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント） 東尾／上山 …… 111
精神看護学Ⅰ（精神保健） 精神看護学分野教員 …… 112
精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状） 精神看護学分野教員 …… 113
精神看護学Ⅲ（施設における援助） 精神看護学分野教員 …… 114
精神看護学Ⅳ（地域における援助） 精神看護学分野教員 …… 115
在宅看護論Ⅰ（概論） 尾ノ井美由紀 …… 116
在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法） 在宅看護論分野教員 …… 117
在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習） 久保田千代美 …… 118
在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論） 尾ノ井美由紀 …… 119
看護と芸術Ⅰ－①（絵画療法） 木村　千尋 …… 120
看護と芸術Ⅰ－②（音楽療法） 武田倫衣子 …… 121
看護と芸術Ⅰ－③（笑い療法） 古谷　昭雄 …… 122
看護と芸術Ⅰ－④（セラピーメイク） 福井　美余 …… 123
看護と芸術Ⅰ－⑤（陶芸療法） 上田　順平 …… 124
看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ） 森　合音 …… 125
看護教育学 澤田　京子 …… 126
海外看護活動論 杉野　美礼 …… 127
看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント） 片山／前田／卯川 …… 128
看護マネジメント学Ⅱ（看護管理） 大川眞紀子 …… 129
地域リハビリテーション論 三好　弘之 …… 130
移植コーディネーション論 高原　史郎 …… 131
看護研究の方法 日高／尾ノ井／中川／上山／北島／房間／平野／國松 …… 132
看護の探究（看護の統合） 看護学部専任教員 …… 133

Ⅳ　専門分野（臨地実習科目）

基礎看護学実習Ⅰ（対象理解） 北島／平野／梅川／瀬山／澤田 …… 135
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程） 平野／北島／梅川／瀬山／澤田 …… 136
成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期） 中川／房間／國松／浅井 …… 137
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期） 中川／房間／國松／浅井 …… 138
老年看護学実習 山本／高橋 …… 139
小児看護学実習 松尾ひとみ …… 140
母性看護学実習 上山／東尾 …… 141
精神看護学実習 精神看護学分野教員 …… 142
在宅看護論実習 在宅看護論分野教員 …… 143
総合実習 看護系教員 …… 144

助産学専攻科

Ⅰ　基礎助産学

〈科目名〕 〈担当者名〉 〈ページ〉
助産学概論 南田／小神野 …… 157
周産期の生理と病態Ⅰ 藤田圭以子 …… 158
周産期の生理と病態Ⅱ 堀　謙輔 …… 159
母子の心理社会学 生島　博之 …… 160

Ⅱ　助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ 小神野雅子 …… 161
助産診断・技術学Ⅱ 南田　智子 …… 162
助産診断・技術学Ⅲ 中尾　幹子 …… 163
助産診断・技術学Ⅳ 中尾　幹子 …… 164
助産診断・技術学演習Ⅰ 南田／小神野／中尾／阪田 …… 165
助産診断・技術学演習Ⅱ 南田／小神野／中尾／阪田 …… 166

Ⅲ　地域母子保健論

地域母子保健論 中尾　幹子 …… 167

Ⅳ　助産管理

助産管理学 南田／小神野 …… 169

Ⅴ　助産学実習

助産学実習Ⅰ 南田／小神野／中尾／阪田 …… 171
助産学実習Ⅱ 南田／小神野／中尾／阪田 …… 172
助産学実習Ⅲ 南田／小神野／中尾／阪田 …… 173
地域母子保健実習 南田／小神野／中尾／阪田 …… 174

Ⅵ　助産学実践関連

助産学研究 南田　智子 …… 175
アーバンヘルス特論 日高　庸晴 …… 176
アートとグリーフケア 小神野／坂下 …… 177
アタッチメント・ヨガ 小神野雅子 …… 178
アタッチメント・ベビーマッサージ 小神野雅子 …… 179

看護学部

看護学科

2021年度　授業計画（SYLLABUS）

目　　次

看護学部

2021年度授業科目・担当者一覧表…… 1
卒業要件 …… 11
教育課程（2019年度以降入学生） …… 12
教育課程（2012年度以降入学生） …… 14
実務家教員一覧 …… 16
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例 …… 19
Ⅰ　基礎分野 …… 21
Ⅱ　専門基礎分野 …… 67
Ⅲ　専門分野 …… 89
Ⅳ　専門分野（臨地実習科目） ……135

看護学部の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性とともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

(1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。

(2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。

(3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。

(4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

１．知識・理解

・入学後の就学に必要な基礎学力を有している。

・高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

２．思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

３．関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

４．態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

５．意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

６．表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」（カリキュラム・ポリシー）

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、５つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

１．基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。

加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

２．専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。

３．専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から６領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、８領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

４．学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

５．本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

宝塚大学看護学部看護学科は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力、資質を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

１．主体的行動力

・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

２．表現力

・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえで的確に発信することができる。

３．社会貢献力・コラボレーション力

・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

４．課題発見力・課題解決能力

・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。

・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

５．コミュニケーション力

・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

６．専門的知識・技能の活用力（看護実践力）

・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。

・アートを生かした癒しの看護が実践できる。

・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。

・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、１単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。（大学設置基準第21条）

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の３分の２以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は５分の４以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。「StudentGuide Book 2020」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2021年４月１日

宝塚大学

看護学部

2021（令和3）年度　学年暦

宝塚大学　看護学部
【大阪梅田キャンパス】

	日	月	火	水	木	金	土	備　　考
2021年4月					1	2	3	4/3　入学式 4/1～5　新入生ガイダンス期間
	(4)	5	6	7	8	9	10	4/2　前期履修届提出締切日 4/6　前期授業開始
	(11)	12	13	14	15	16	17	4/13～4/15 履修登録修正期間
	(18)	19	20	21	22	23	24	
	(25)	26	27	28	(29)	30		4/29 平常授業実施
5月							1	
	(2)	(3)	(4)	(5)	6	7	8	臨地実習(5月～7月)4年次生
	(9)	10	11	12	13	14	15	
	(16)	17	18	19	20	21	22	5/23　創立記念日
	(23)	24	25	26	27	28	29	
	(30)	31						
6月			1	2	3	4	5	
	(6)	7	8	9	10	11	12	
	(13)	14	15	16	17	18	19	
	(20)	21	22	23	24	25	26	
	(27)	28	29	30				
7月					1	2	3	総合実習(7月～8月)4年次生
	(4)	5	6	7	8	9	10	
	(11)	12	13	14	15	16	17	
	(18)	19	20	21	(22)	(23)	24	7/24・27　補講日
	(25)	26	27	28	29	30	31	7/26　前期授業終了 7/28～8/3　前期定期試験
8月	(1)	2	3	4	5	6	7	
	(8)	(9)	10	11	(12)	(13)	(14)	
	(15)	(16)	17	18	19	20	21	夏季休業（8/12～16）
	(22)	23	24	25	26	27	28	8/18～8/23　前期追・再試験
	(29)	30	31					基礎看護学実習Ⅰ(8月～9月)1年次生
9月				1	2	3	4	
	(5)	6	7	8	9	10	11	
	(12)	13	14	15	16	17	18	9/18～20　宝翔祭期間（予定） うち1日宝翔祭（予定）
	(19)	(20)	21	22	(23)	24	25	9/22　9月卒業者学位記授与式(予定) 9/24　後期ガイダンス 後期履修届提出締切日
	(26)	27	28	29	30			9/25　後期授業開始 臨地実習(9月～3月)3年次生

	日	月	火	水	木	金	土	備　　考
10月						(1)	(2)	10/1～4　履修登録修正期間
	(3)	4	5	6	7	8	9	
	(10)	11	12	13	14	15	16	
	(17)	18	19	20	21	22	23	
	(24)	25	26	27	28	29	30	
	(31)							
11月		1	2	(3)	4	5	6	11/3 平常授業実施
	(7)	8	9	10	11	12	13	
	(14)	15	16	17	18	19	20	
	(21)	22	(23)	24	25	26	27	11/23 平常授業実施
	(28)	29	30					
12月				1	2	3	4	
	(5)	6	7	8	9	10	11	
	(12)	13	14	15	16	17	18	
	(19)	20	21	22	23	24	25	
	(26)	27	(28)	(29)	(30)	(31)		年末年始休業（12/28～1/5）
2022年1月							(1)	
	(2)	(3)	(4)	(5)	6	7	8	
	(9)	(10)	11	12	13	14	15	1/15　補講日
	(16)	17	18	19	20	21	22	1/19　後期授業終了 1/20　補講日及び4年次生後期定期試験
	(23)	24	25	26	27	28	29	1/21～1/27　後期定期試験 1/28　4年次生追・再試験
	(30)	31						
2月			1	2	3	4	5	
	(6)	7	8	9	10	(11)	12	
	(13)	14	15	16	17	18	19	2/10～2/15　1･2年次生 追･再試験
	(20)	21	22	(23)	24	25	26	基礎看護学実習Ⅱ(2月～3月)2年次生
	(27)	28						
3月			1	2	3	4	5	
	(6)	7	8	9	10	11	12	3/12　学位記授与式(予定)
	(13)	14	15	16	17	18	19	
	(20)	(21)	22	23	24	25	26	次年度ガイダンス及び健康診断 （3/16～31の間のいずれかに設定予定）
	(27)	28	29	30	31			

曜日別の授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期		15	15	15	15	15	15
後期		15	15	15	15	15	15

… 授業日
… 定期試験

(印) … 祝日(平常授業実施日)
(印) … 日曜・祝日(休業日)
( ) … 大学施設閉館日

卒業要件

本学を卒業するためには４年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部
看護学科

2012年度以降入学生

基礎分野	28単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専門分野	71単位	以上
計	128単位	以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバーを付番しています。科目ナンバーは以下の規則によって付番されています。

科目領域		レベル		科目形式				科目番号（連番）
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	＋	1=1年次レベル 2=2年次レベル 3=3年次レベル 4=4年次レベル	＋	1=必修 2=選択必修 3=選択	＋	1=講義 2=講義･演習 3=演習 4=実習	＋	01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に載せています。

1　協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
2　ディスカッション、ディベート
3　グループワーク
4　プレゼンテーション
5　実習、フィールドワーク
6　その他（上記１～５に当てはまらないアクティブラーニング）

看護学部　看護学科　教育課程　【2019年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	備考 必修	備考 選択	備考 卒業要件
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1後	2		30	必修6単位	選択8単位以上 ※選択必修科目群より選択することも可	必修16単位 選択必修4単位以上 選択8単位以上 合計28単位以上
		統計学入門	KGE11201	1後	2		30			
		論理の世界	KGE13101	1前		2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1前		2	30			
		情報心理学	KGE13103	1前		2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2		30			
		環境と生態	KGE13104	1前		2	30			
		化学	KGE13105	1前		2	30			
	人間と社会	キャリア教育Ⅰ	KGE11202	1前	1		30	必修2単位		
		キャリア教育Ⅱ	KGE11203	2前	1		30			
		人間関係概論	KGE13106	1前		2	30			
		教育学概論	KGE23101	2前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1前		2	30			
		生活の中の法律	KGE13110	1前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1後		2	30	必修2単位		
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1前	2		30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3前		2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1前		2	30	選択必修2単位		
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1前		2	30			
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1通	2		60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2通		2	60	選択必修2単位		
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2通		2	60			
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2通		2	60			
		フランス語Ⅰ	KGE12301	1通		2	60			
		フランス語Ⅱ	KGE22304	2通		2	60			
		中国語会話Ⅰ	KGE12302	1通		2	60			
		中国語会話Ⅱ	KGE22305	2通		2	60			
		ビジネス中国語	KGE12303	1通		2	60			
		イタリア語Ⅰ	KGE12304	1通		2	60			
		イタリア語Ⅱ	KGE22306	2通		2	60			
		ドイツ語Ⅰ	KGE12305	1通		2	60			
		ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2通		2	60			
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1後	2		30	必修6単位	選択6単位以上	必修23単位 選択6単位以上 合計29単位以上
		医療行動科学	KSB13101	1後		2	30			
		生涯教育論	KSB23101	2後		2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1後	2		30			
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1前	2		60	必修14単位		
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1後	1		30			
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1後	1		30			
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2		60			
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2前	1		30			
		生化学	KSB11107	1後	1		30			
		薬理学	KSB21103	2前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30			
		疫学	KSB21104	2後	2		30			
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3前	2		30			
		運動と健康	KSB33201	3前		2	30			
	関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1前	1		30	必修3単位		
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1後		1	30			
		福祉情報技術	KSB23201	2前		2	30			
		医療と経済	KSB33101	3前		2	30			
		カウンセリング	KSB23102	2前		1	30			
		社会保障と福祉	KSB21105	2後	2		30			

通＝通年科目

看護学部　看護学科　教育課程　【2019年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	備考 必修	備考 選択	備考 卒業要件
専門分野	看護の基盤となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1前	1		30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1前	1		30			
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2後	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1前	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1後	2		60			
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2前	1		30			
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2前	1		30			
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1後	1		30	必修26単位		
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2後	2		60			
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2後	1		30			
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3前	2		60			
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2前	1		30			
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2後	1		15			
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2前	1		30			
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3前	1		30			
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2前	1		30			
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2後	1		15			
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2後	1		30			
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3前	1		30			
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2前	1		30			
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2後	1		15			
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2後	1		30			
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3前	1		30			
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2前	1		30			
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2後	1		15			
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2後	1		30			
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3前	1		30			
		在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	2前	1		15			
		在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	KSP21210	2後	1		15			
		在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	KSP31303	3前	1		30			
		在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	3前	1		30			
	看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3前		2	30	選択必修4単位以上		
		看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）	KSP32204	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）	KSP32205	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	KSP41101	4後	2		30	必修2単位		
		看護教育学	KSP42101	4後		1	15	必修1単位		
		海外看護活動論	KSP42102	4後		2	30			
		看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	KSP31102	3前	1		30			
		看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	KSP42103	4後		2	30	選択必修4単位以上		
		地域リハビリテーション論	KSP32101	3前		2	30			
		移植コーディネーション論	KSP42104	4後		2	30			
		看護研究の方法	KSP31204	3前	1		30	必修3単位		
		看護の探究（看護の統合）	KSP41201	4後	2		60			
	看護の技を修得する領域	基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1前	1		45	必修23単位		
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2後	2		90			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3後4前	3		135			
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3後4前	3		135			
		老年看護学実習	KSP31403	3後4前	4		180			
		小児看護学実習	KSP31404	3後4前	2		90			
		母性看護学実習	KSP31405	3後4前	2		90			
		精神看護学実習	KSP31406	3後4前	2		90			
		在宅看護論実習	KSP31407	3後4前	2		90			
		総合実習	KSP41401	4前	2		90			

看護学部　看護学科　教育課程　【2012年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	備考 必修	備考 選択	備考 卒業要件
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1後	2		30	必修6単位	選択10単位以上 ※選択必修科目群より選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択10単位以上 合計28単位以上
		統計学入門	KGE11201	1後	2		30			
		論理の世界	KGE13101	1前		2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1前		2	30			
		情報心理学	KGE13103	1前		2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2		30			
		環境と生態	KGE13104	1前		2	30			
		化学	KGE13105	1前		2	30			
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1前		2	30	—		
		教育学概論	KGE23101	2前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1前		2	30			
		生活の中の法律	KGE13110	1前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1後		2	30	必修2単位		
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1前	2		30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3前		2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1前		2	30	選択必修2単位		
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1前		2	30			
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1通	2		60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2通		2	60	選択必修2単位		
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2通		2	60			
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2通		2	60			
		フランス語Ⅰ	KGE12301	1通		2	60			
		フランス語Ⅱ	KGE22304	2通		2	60			
		中国語会話Ⅰ	KGE12302	1通		2	60			
		中国語会話Ⅱ	KGE22305	2通		2	60			
		ビジネス中国語	KGE12303	1通		2	60			
		イタリア語Ⅰ	KGE12304	1通		2	60			
		イタリア語Ⅱ	KGE22306	2通		2	60			
		ドイツ語Ⅰ	KGE12305	1通		2	60			
		ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2通		2	60			
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1後	2		30	必修6単位	選択6単位以上	必修23単位 選択6単位以上 合計29単位以上
		医療行動科学	KSB13101	1後		2	30			
		生涯教育論	KSB23101	2後		2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1後	2		30			
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1前	2		60	必修14単位		
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1後	1		30			
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1後	1		30			
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2		60			
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2前	1		30			
		生化学	KSB11107	1後	1		30			
		薬理学	KSB21103	2前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30			
		疫学	KSB21104	2後	2		30			
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3前	2		30			
		運動と健康	KSB33201	3前		2	30			
	関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1前	1		30	必修3単位		
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1後		1	30			
		福祉情報技術	KSB23201	2前		2	30			
		医療と経済	KSB33101	3前		2	30			
		カウンセリング	KSB23102	2前		1	30			
		社会保障と福祉	KSB21105	2後	2		30			

通＝通年科目

看護学部　看護学科　教育課程　【2012年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	時間数	備考 必修	備考 選択	備考 卒業要件
専門分野	看護の基盤となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1前	1		30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1前	1		30			
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2後	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1前	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1後	2		60			
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2前	1		30			
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2前	1		30			
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1後	1		30	必修26単位		
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2後	2		60			
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2後	1		30			
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3前	2		60			
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2前	1		30			
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2後	1		15			
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2前	1		30			
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3前	1		30			
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2前	1		30			
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2後	1		15			
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2後	1		30			
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3前	1		30			
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2前	1		30			
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2後	1		15			
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2後	1		30			
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3前	1		30			
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2前	1		30			
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2後	1		15			
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2後	1		30			
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3前	1		30			
		在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	2前	1		15			
		在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	KSP21210	2後	1		15			
		在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	KSP31303	3前	1		30			
		在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	3前	1		30			
	看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3前		2	30	選択必修4単位以上		
		看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）	KSP32204	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）	KSP32205	3前		2	30			
		看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	KSP41101	4後	2		30	必修2単位		
		看護教育学	KSP42101	4後		1	15	必修1単位		
		海外看護活動論	KSP42102	4後		2	30			
		看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	KSP31102	3前	1		30	選択必修4単位以上		
		看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	KSP42103	4後		2	30			
		地域リハビリテーション論	KSP32101	3前		2	30			
		移植コーディネーション論	KSP42104	4後		2	30			
		看護研究の方法	KSP31204	3前	1		30	必修3単位		
		看護の探究（看護の統合）	KSP41201	4後	2		60			
	看護の技を習得する領域	基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1前	1		45	必修23単位		
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2後	2		90			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3後4前	3		135			
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3後4前	3		135			
		老年看護学実習	KSP31403	3後4前	4		180			
		小児看護学実習	KSP31404	3後4前	2		90			
		母性看護学実習	KSP31405	3後4前	2		90			
		精神看護学実習	KSP31406	3後4前	2		90			
		在宅看護論実習	KSP31407	3後4前	2		90			
		総合実習	KSP41401	4前	2		90			

実務家教員一覧

担当教員	専任／非常勤	2021授業科目	科目ﾅﾝﾊﾞｰ	必修／選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
澤田　京子	専任	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	必修	1	30	総合病院で看護師として内科と外科での臨床経験がある。また、企業の健康管理室での健康教育に携わった。	臨床での事例を踏まえて、看護の役割・機能を教授する。また事例を用いて主な理論の活用についても教授する。
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	必修	1	30		
北島　洋子	専任	基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	必修	1	30	大学病院で看護師として小児科病棟に勤務し、血液疾患や悪性疾患の看護に携わった。また、腎泌尿器専門病院に勤務し、人工透析や糖尿病の看護を経験した。	小児期から成人期、老年期にわたる各発達段階に応じた看護を提供するための、基礎的な知識と技術、看護専門職としての基盤となる考え方を修得するための学習を支援する。
		基礎看護学Ⅳ－１（基礎看護技術）	KSP11202	必修	1	30		
		基礎看護学Ⅳ－２（基礎看護技術）	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	必修	1	30		
尾ノ井　美由紀	専任	基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	必修	1	30	総合病院で看護師として手術室、脳外科病棟と一般内科病棟で5年の臨床経験がある。また、保健所で保健師13年の経験がある。	病院入院中の療養者への臨床看護から退院へと、地域移行支援における看護師の役割から在宅療養中の本人及び家族への看護を教授する。また、疾病から健康の維持・増進と健康段階に合わせた看護提供の必要性を教授する。
		在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	必修	1	15		
		在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	必修	1	30		
平野 加代子	専任	基礎看護学Ⅳ－１（基礎看護技術）	KSP11202	必修	1	30	総合病院で看護師として急性期病棟(外科、内科、小児科、脳神経系)、助産師として産婦人科外来、産科病棟での臨床経験がある。また、看護学生の実習指導にも携わっていた。	臨床での事例を踏まえて基礎看護技術を教授する。また臨床で日常的に行われているフィジカルアセスメント・看護過程の展開や事例提供を行い、より臨床に近い状況を想定した授業内容を教授する。
		基礎看護学Ⅳ－２（基礎看護技術）	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	必修	1	30		
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	必修	1	30		
梅川　奈々	専任	基礎看護学Ⅳ－１（基礎看護技術）	KSP11202	必修	1	30	看護師として、総合病院の脳神経外科、整形外科、産婦人科等での臨床経験がある。	実践で使える技術の習得に向けて、根拠をふまえた基礎知識、技術について説明を行いつつ、デモンストレーションにも力を入れている。看護過程の展開の為に必要なスキルの基礎を教授する。
		基礎看護学Ⅳ－２（基礎看護技術）	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	必修	1	30		
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	必修	1	30		
瀬山 由美子	専任	基礎看護学Ⅳ－１（基礎看護技術）	KSP11202	必修	1	30	総合病院の看護師として脳外科、内科、手術部での臨床経験がある。	日常生活に関する援助の知識や診療に伴う看護技術について、自らの実践経験を踏まえ教授、指導する。また、指導に際しては具体的な根拠を適宜説明する。
		基礎看護学Ⅳ－２（基礎看護技術）	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	必修	1	30		
中川　ひろみ	専任	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	必修	1	30	大学病院で看護師、認定看護師、看護師長として内科と外科、集中治療室・救急部での臨床経験がある。成人期にある人々を対象とした看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ急性期、慢性期、終末期にある成人期の人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		
房間　美恵	専任	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	必修	1	30	総合病院で看護師、看護師長として腎臓内科や免疫内科、内分泌内科、呼吸器内科、泌尿器科などの臨床経験があり、看護学生の実習指導に携わってきた。	実臨床での具体的な事例をもとに、慢性の”病い”をかかえて生きる人々がもつ課題を理解し、問題解決への取り組みができるよう看護理論を踏まえながら解説を行う。
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		
國松　秀美	専任	成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	必修	2	60	総合病院で看護師、認定看護師、看護師長として、循環器・呼吸器内科・救命救急センター・集中治療室での臨床経験がある。シミュレーションを用いたスタッフ教育を実践してきた。また、新人看護師専任師長として、新人看護師教育に携わっている。	健康障害を持つ人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、患者の気がかりを中心とした情報を解釈・分析し、科学的根拠に基づいた看護が実践できるよう教授する。
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30		
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		

浅井　直子	専任	成人看護学Ⅲ （慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30	看護師として医療型障害児入所施設にて、呼吸器内科の臨床経験がある。、呼吸療法認定師として、スタッフ教育に携わってきた。	臨床での経験をもとに、呼吸ケアの知識や技術についての学習支援を促す。
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		
森永　聡美	専任	成人看護学Ⅲ （慢性期・終末期援助論）	KSP21205	必修	1	30	医学部付属病院、地域拠点病院で看護師として形成外科、婦人科、整形外科などの看護実践を経験した。特別養護老人ホームでは認知症高齢者の看護実践を経験した。 在任中は臨床指導者、現任教育委員として実習教育、現任教育に携わった。	臨床での実践経験をもとに、急性期～回復期、慢性期の看護について学生が対象者の個別性を考えるための支援をする。臨床指導者、現任教育の経験を生かし主体的な学生の学びを支援していきたい。
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	必修	2	60		
山本　裕子	専任	老年看護学Ⅰ （概論）	KSP21101	必修	1	30	看護師として、総合病院のICU病棟と消化器外科病棟における病院看護を実践してきた。さらに、介護老人保健施設において中間施設看護と認知症高齢者の看護に携わってきた。の経験を有する。	実践例を通して、対象者の多様性に則した対象者把握・アセスメント・看護援助の方法に関する思考過程を育成し個別看護について教授する。加えて、認知症高齢者のBPSDへの対応などについて具体的な看護援助を教授する。
		老年看護学Ⅱ （疾病と障害）	KSP21102	必修	1	15		
		老年看護学Ⅲ （理論とアセスメント）	KSP21206	必修	1	30		
		老年看護学Ⅳ （症状とケアプラン）	KSP31201	必修	1	30		
高橋　みどり	専任	老年看護学Ⅱ （疾病と障害）	KSP21102	必修	1	15	看護師として、総合病院の手術室、外科病棟等の臨床経験がある。	臨床での経験をもとに、高齢者の生きてきた生活背景や価値観を理解することや、高齢者の残された機能を維持する看護について教授する。
		老年看護学Ⅲ （理論とアセスメント）	KSP21206	必修	1	30		
		老年看護学Ⅳ （症状とケアプラン）	KSP31201	必修	1	30		
上山　直美	専任	母性看護学Ⅰ （概論）	KSP21105	必修	1	30	大学附属病院、国立病院、助産所、保健センターにおいて助産師としての臨床経験がある。	周産期の女性と新生児に対する心身、社会的な側面と特徴と看護ケアの指導、看護過程の展開について教授する。
		母性看護学Ⅱ （女性生殖・周産期医療）	KSP21106	必修	1	15		
		母性看護学Ⅲ （周産期アセスメント）	KSP21208	必修	1	30		
		母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	KSP31202	必修	1	30		
東尾　公子	専任	母性看護学Ⅲ （周産期アセスメント）	KSP21208	必修	1	30	助産師として、総合病院の産婦人科病棟、助産師外来の臨床経験がある。	臨床での経験を踏まえ、ウエルネスの視点で周産期の対象と新生児の看護について教授する。
		母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	KSP31202	必修	1	30		
牧野　裕子	専任	在宅看護論Ⅰ （概論）	KSP21109	必修	1	15	大学病院および公立病院看護師として、心臓血管外科、消化器外科、精神科看護の臨床経験がある。また、企業健康管理室にて従業員と家族に対する健康教育に携わってきた。	日常生活に即した、療養者と家族に対する疾病管理および健康の保持・増進にむけた健康支援の在り方と、疾病・障害をもつ療養者の在宅移行支援について講義する。
		在宅看護論Ⅱ （訪問看護の展開方法）	KSP21210	必修	1	15		
		在宅看護論Ⅲ （在宅ケアの演習）	KSP31303	必修	1	30		
大内　由梨	専任	基礎看護学Ⅲ （健康教育）	KSP21201	必修	1	30	大学病院・公立病院において、看護師としての臨床経験がある。また、企業健康管理室にて保健師として臨床経験がある。	病院入院中の療養者への臨床看護から退院へと、在宅療養中の本人及び家族への看護を教授する。また、疾病から健康の維持・増進と健康段階に合わせた看護提供の必要性を教授する。
		在宅看護論Ⅳ （地域ネットワーク論）	KSP31203	必修	1	30		

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡　例

2021年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

１．授業科目は以下の分野に分かれています。

Ⅰ．基礎分野

Ⅱ．専門基礎分野

Ⅲ．専門分野

Ⅳ．専門分野（臨地実習科目）

２．各分野においては、１年次履修科目、２年次履修科目、３年次履修科目、４年次履修科目にわけて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。

３．授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の２種類に分かれています。

Ⅰ　基　礎　分　野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生きた人間学	加畑公一郎	講義	1年次 後期	必修	2	30	KGE11101

科目の概要

さまざまな時代や環境の中で懸命に生きてきた人たちの言動には、私たちが社会のあり方や自分の生き方を考え直すための貴重な手がかりがちりばめられている。それらの事例を著作や報道資料などで紹介し、人間とは何か、社会とは何か、生きるとは何かを考えていくための読み解き方を教える。

到 達 目 標

●人間の生きる力は、医学的な健康だけではなく、体験・記憶・自負・信頼・希望などに支えられていることを説明できる。
●人間の尊厳とは何か、共に生きるとは何かについて、自分の考えを述べ、具体例に基づいて問題点を指摘することができる。
●相手の心を読み、共感し、お互いの意思を通わせるコミュニケーション技能を身につけることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	パラリンピックの父――失ったものを数えるな
第２回　AL 4	学びほぐす――現場ではマニュアルにないことが意味を持つ
第３回	戦時下の隣組――助け合いと自発的服従
第４回	ある詩人の孤独な闘い――「忘れられる」ことに抗う
第５回	仕事と社会――目の前にあるものへの向き合い方
第６回	悪ふざけ投稿――つながりたい症候群から脱却を
第７回　AL 4	キツネにだまされなくなった日本人
第８回	貧困は自己責任か――短大生が選んだ道とは
第９回	「不健康のままで生きさせて」――ある強制に立ち向かう
第10回	ブランド信仰――「ほんもの」の影に落とし穴
第11回	「どないかします」――心意気について
第12回	あわいの力――「能」から学ぶ人や自然と溶け合う作法
第13回　AL 4	人間の器量――横向く人間の大切さ
第14回	リトリートという生き方――かみしめる幸せ
第15回	役に立つとか役に立たないとか、何のこと

成績評価方法	成果物（授業中に数回実施する課題）100%
教科書	なし
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
事前学習(内容･時間)	新聞・テレビ・ネットなどで「生きる」をキーワードにした事例を集め、問題意識を磨くこと（２時間)。
事後学習(内容･時間)	前後の講義テーマは関連しているので、当日の講義のあと前回・前々回の復習をする（２時間)。
フィードバックの方法	提出された成果物を読み解き、ていねいで親身な講評・助言を本人に返す。
備考	**オフィスアワー**　メールで随時対応する。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統計学入門	平松　誠	講義・演習	1年次 後期	必修	2	30	KGE11201

科目の概要

医療においても使われる統計学の基礎知識について講義する。具体的には、まず統計学の歴史や看護統計の特徴などについて解説する。そして、データの特徴を要約する記述統計学と、標本データから母集団の特徴について推測する推測統計学の両方について解説する。単に計算の方法を教えるだけではなく、できるだけ統計学の理論についても言及する。

到 達 目 標

●記述統計学と推測統計学の基礎知識について他者に説明できる。
●量的データを用いて、基礎的な分析を行う能力を身につける。
●量的データの分析結果を読み取ることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	授業の進め方について説明し、統計学について解説する。
第２回	統計学の基礎：記述統計学と推測統計学、データと変数
第３回	１変数の記述統計（1）：度数分布表、ヒストグラム、グラフ
第４回	１変数の記述統計（2）：代表値
第５回	１変数の記述統計（3）：ばらつきの指標
第６回	２変数の記述統計（1）：クロス表
第７回	２変数の記述統計（2）：相関分析
第８回	推測統計への準備（1）：確率、確率変数、確率分布
第９回	推測統計への準備（2）：母集団と標本
第10回	推測統計への準備（3）：正規母集団の標本分布
第11回	推測統計（1）：点推定、区間推定
第12回	推測統計（2）：検定の考え方
第13回	推測統計（3）：χ^2検定
第14回	推測統計（4）：相関係数の検定、平均値の差の検定
第15回	まとめ：これまでの授業内容についての復習

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%					
教　科　書	『基本からわかる看護統計学入門 第２版』大木秀一（医歯薬出版株式会社）					
参　考　文　献	『社会調査のための統計学』神林博史・三輪哲（技術評論社）					
事前学習(内容･時間)	教科書の予習範囲を読んできて、分からないことがあればできるだけ調べてくること（１時間）。					
事後学習(内容･時間)	授業資料を読み直して、復習すること。成果物（課題）がある回にはそれに取り組むこと（３時間）。					
フィードバックの方法	小テストに対するフィードバックを授業中に随時行う。					
備　考	授業を聞くだけでなく、予習復習を毎回することを求める。			**オフィスアワー**	メールやチャットで質問を受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
論理の世界	立花　達也	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

自身の偏見や先入観にとらわれずに他者の主張を正しく理解し、自分の意見を正確に伝えるためには、論理的思考力と表現力が不可欠です。本科目では、正しく議論するための諸概念を説明した上で、学生自身が実際に議論を組み立て吟味することで、論理的スキルの習得を図ります。この講義では先に論理的に思考するための枠組みを説明し、後に論理的な文章を書くための技法を教授します。実際に文章を書き、自分で推敲してもらいます。

到 達 目 標

●議論の特徴をつかみ、その構造を説明することができる。
●議論の正しさ・誤りを、根拠をもって指摘することができる。
●自分の主張を論理的な議論として組み立て、文章化し、そして自身の文章を推敲することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	講義全体についてのオリエンテーション／「論理とは何か」（教科書第1章）
第２回	「論理とは何か」の補足（教科書第1章）／小テスト①
第３回	「接続表現」（教科書第2章）
第４回	「接続表現」の補足（教科書第2章）／小テスト②
第５回	「論理的に考える方法（1）：根拠の正しさと導出の妥当性」（教科書第3章）
第６回	「論理的に考える方法（2）：導出における論拠の役割」（教科書第3章）
第７回	「論理的に考える方法」の補足／小テスト③
第８回	「論証を図で示す（1）：単純論証・結合論証・合流論証」（教科書第4章）
第９回	「論証を図で示す（2）：三つの論証の組み合わせ」（教科書第4章）
第10回	「論証を図で示す」の補足／（教科書第4章）／小テスト④
第11回	中間まとめ／講義後半についてのオリエンテーション
第12回	「論理的に書く（1）：一文一義を守る」
第13回	「論理的に書く（2）：パラグラフ・ライティング」
第14回	「論理的に読む（1）：文章の論証図を書く／要約する」
第15回	「論理的に読む（2）：文章を書き直す」

成績評価方法	小テスト 40%　成果物 30%　定期試験（レポート）30%					
教科書	『看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル』福澤一吉（医学書院）					
参考文献	『一生使える！ 13歳からの論理ノート』小野田博一（PHP文庫）、『新版　論理トレーニング（哲学教科書シリーズ）』野矢茂樹（産業図書）					
事前学習(内容･時間)	教科書の指定した箇所を読んでおく（２時間）。					
事後学習(内容･時間)	課題があればそれを解く。なければ教科書の練習問題を自分で解く（２時間）。					
フィードバックの方法	Teamsを通した課題返却、チャット・DMを通した質問への対応を行う。					
備考				**オフィスアワー**	Teamsにて随時受け付ける。	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城　晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

本講義では、心理学分野の基本的な知識について紹介する。学生が心理学という学問領域での心の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。心についての基本的な考え方や、その健康・不健康、身近な生活の中での心のはたらき、人の行動のメカニズム、人間の性格とはどのような仕組みになっているのか等を毎回のテーマとして、素朴な疑問に対して、心理学の知識によって自分なりに考えたり、答えを見つけられることを目指し授業を行う。

到 達 目 標

●心理学の基礎、例えば外界を認知する仕組みや記憶のメカニズムなどについて基本的な知識を獲得し、説明できるようになること。
●学習や動機づけ理論についての学びを通して、人間の行動のメカニズムについて説明できるようになること。
●人間の心についての理解を、大学生活や医療・看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べることができるようになること。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション（心理学とは・その目的や歴史、心を捉える視点について）
第２回	心理学研究法（人間の心についてどのような方法で研究することができるのか？）
第３回	心と脳
第４回　AL 6	感覚・知覚①（われわれは周囲の世界をどのように把握しているか？）
第５回	感覚・知覚②（われわれは周囲の世界をどのように把握しているか？）
第６回　AL 6	記憶：覚えること・忘れることの仕組み①
第７回	記憶：覚えること・忘れることの仕組み②
第８回　AL 6	学習と行動：私たちの「行動」の仕組み①
第９回	学習と行動：私たちの「行動」の仕組み②
第10回　AL 6	動機づけ①
第11回	動機づけ②
第12回　AL 6	パーソナリティ：私たちの「性格」について①
第13回	パーソナリティ：私たちの「性格」について②
第14回　AL 6	心の適応①：ストレスと心理的障害、メンタルヘルス
第15回	心の適応②：発達の病理と様々な心理的援助

成 績 評 価 方 法	定期試験（レポート）70%　小テスト 30%
教　　科　　書	『看護を学ぶ人のための心理学　ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（2019）（弘文堂）
参　考　文　献	『よくわかる心理学』無藤隆・森敏昭編（2009）（ミネルヴァ書房）、 『よくわかる臨床心理学（改訂版）』下山晴彦編（2009）（ミネルヴァ書房）
事前学習(内容･時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する（２時間）。
事後学習(内容･時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして、内容を理解しておくこと（２時間）。
フィードバックの方法	コメントフォームで送信された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする。
備　　考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報心理学	岩城　晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

本講義では、心理学の様々な知見を紹介しながら、学問としての心理学における「心」の捉え方や研究結果について学び、人間の心について理解や考えを深めることを目的に授業を行う。たとえば、人間が外界から受け取る多くの刺激をどのように取り入れ処理しているか、他者とのコミュニケーションの中でどのように情報がやりとりされているか、他者や集団が個人の行動や思考にどういった影響を与えるか、等のテーマを取り上げ講義する。

到 達 目 標

●人間の情報処理における基本的なプロセスについて説明することができる。
●社会的関係や集団が個人の心にどのような影響を与えるか、自らの言葉を用いてまとめ、他者に伝えることができる。
●人間の心についての理解を4年間の大学生活や医療・看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション（心理学とは、その目的や歴史、心を捉える視点、研究法について）
第２回　AL 6	感覚と知覚①：われわれは周囲の世界の情報をどうやって取り入れているのか？
第３回	感覚と知覚②
第４回	言語と思考：われわれはどうやってものを考えているのか？
第５回　AL 6	感情①
第６回	感情②
第７回　AL 6	社会的認知：われわれは他者のことをどのように捉えているか？
第８回	社会的認知：説得と態度変容
第９回　AL 6	社会的影響：われわれはどのように他者からの影響を受けているのか？①
第10回	社会的影響：われわれはどのように他者からの影響を受けているのか？②
第11回	社会的影響：われわれはどのように他者からの影響を受けているのか？③
第12回	集団と組織・規範
第13回　AL 6	ＳＮＳの特性と心理的影響①
第14回	ＳＮＳの特性と心理的影響②
第15回	心理学と社会とのかかわり

成 績 評 価 方 法	定期試験（レポート）70%　小テスト 30%
教　　科　　書	『看護を学ぶ人のための心理学　ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（2019）（弘文堂）
参　考　文　献	『よくわかる心理学』無藤隆・森敏昭編（2009）（ミネルヴァ書房）、 『よくわかる社会心理学』山田一成・北村英哉編（2007）（ミネルヴァ出版）
事前学習(内容･時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する（２時間）。
事後学習(内容･時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読み内容を理解しておくこと（２時間）。
フィードバックの方法	コメントフォームで送信された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする。
備　　考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヒトと生物学	堀家なな緒	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

生物は細胞を基本単位としている。ヒトは、１個の受精卵という細胞から分裂を繰り返し、個体へと発生する。前半では、細胞が自身の持つ遺伝情報に基づき、必要なタンパク質を合成することで、様々な機能を発現していくという生命活動における基本原理の理解を目指す。後半では、細胞が組織を形成し、組織が組み合わさって構成される器官系の構造・機能を学ぶと共に、恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心にして講義する。

到 達 目 標

●ＤＮＡに記された遺伝子の情報からどのようにしてタンパク質が合成され、生命活動が営まれるのかを説明できる。
●内臓諸器官系である消化系、循環系、呼吸系、排出系の基本的構造とそれぞれの機能を述べることができる。
●内分泌系、神経系、免疫系の三者の相互作用で支えられる恒常性を維持する仕組みについて論述できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	細胞の基本構造（細胞小器官、生体膜）
第２回	遺伝子の本体（ＤＮＡの構造、染色体）
第３回	遺伝情報（複製、転写、翻訳）
第４回　AL 2	国家試験対策（遺伝子の本体、遺伝情報）
第５回	細胞増殖と体細胞分裂
第６回	代謝：好気的呼吸（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）、嫌気的呼吸（解糖）
第７回	消化系（栄養物質の吸収）
第８回	循環系（体液とその循環）
第９回	呼吸系（酸素の取り込みと二酸化炭素の排出）
第10回	生物学から生理学へ(酸塩基平衡)
第11回	排出系（代謝老廃物の排出と浸透圧調節）
第12回	生物学から生理学へ（血圧の調整）
第13回	内分泌系（内分泌腺、ホルモンの作用）
第14回	神経系（ニューロンとグリア細胞、伝導と伝達）
第15回	免疫系（自然免疫と獲得免疫）

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　小テスト 10%　成果物 10%					
教科書	『みんなの生命科学』北口哲也、塚原伸治、坪井貴司、前川文彦（化学同人）					
参考文献	『カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書 第１～３巻』D・サダヴァほか（講談社）					
事前学習(内容･時間)	次の回の学習のまとめを読み、練習問題を解いておく（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	小テストで問われた部分と配布資料を照らし合わせて読み、理解し、自分の言葉でまとめる（２時間)。					
フィードバックの方法	小テストの解答を解説します。					
備考				**オフィスアワー**	講義前10分、講義後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	―	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
環境と生態	白井　文恵	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

本講義では、環境要因が人々の健康に及ぼす影響について講義する。また、人間活動が地球環境に及ぼす影響について理解し、環境問題に対する取り組みや生態系の中での健康について考察できるよう講義する。

到 達 目 標

●人間の社会生活活動と環境の関わりを説明できる。
●環境要因が人々の健康に及ぼす影響を説明できる。
●日本だけでなく世界各地域特有の状況から、環境と生態のあり様についての考えを述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	講義オリエンテーション
第２回	人間の生活環境
第３回	環境の把握方法とその評価
第４回	生物学的環境要因①
第５回	生物学的環境要因②
第６回	水の衛生と健康
第７回	持続可能な開発目標（SDGs）と健康
第８回	持続可能な開発目標（SDGs）と環境
第９回	開発途上国での持続可能な開発目標（SDGs）
第10回	タンザニア連合共和国でのフィールドワークから
第11回	スーダン共和国でのフィールドワークから
第12回	開発途上国での持続可能な開発目標（SDGs）と健康のあり方について（課題提示）
第13回　AL 2	開発途上国での持続可能な開発目標（SDGs）と健康あり方について（個人あるいはグループ討論）
第14回　AL 3	開発途上国での持続可能な開発目標（SDGs）と健康あり方について（個人あるいはグループ発表）
第15回	講義のまとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）50%　成果物 50%					
教科書	指定なし					
参考文献	講義中に適宜提示します。					
事前学習(内容･時間)	講義中に次回の講義に関連する文献を紹介するので、目を通してください（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義内容を確認してください（２時間)。					
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の疑問点について説明を行います。					
備考				**オフィスアワー**	メールにて受け付けます。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
化学	堅中　泰樹	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

人体の働きを理解するためには、化学の体系的知識が不可欠である。原子や分子からはじめて、物質の量的表現、化学反応、水や溶液の化学を説明し、糖、脂質、タンパク質など人体を構成する物質を説明する。

到 達 目 標

●日常生活や医療分野における現象を化学の言葉を用いて正しく説明できる。
●物質の量的表現を理解し、正しく説明できる。
●生化学や医療分野で見られる化学的現象に興味を持ち、自己研鑽できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	科学における化学
第２回	原子の構造：原子
第３回	原子の構造：元素と周期表
第４回	原子と原子のつながり
第５回	モルと化学式、濃度の表し方
第６回	物質の状態と性質
第７回	化学反応と熱エネルギー
第８回	化学反応と化学平衡
第９回	水と溶液、透析と浸透圧
第10回	酸と塩基
第11回	酸化と還元
第12回	糖
第13回	脂質
第14回	アミノ酸
第15回	タンパク質

成績評価方法	定期試験（レポート）80%　成果物 20%					
教科書	『はじめて学ぶ化学』野島高彦（化学同人）					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	講義予定の部分の教科書を読む（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	教科書の練習問題を解く（２時間)。					
フィードバックの方法	成果物については、授業で返却します。ショートテストなどでは、授業中に答えを合わせ解説します。					
備考				**オフィスアワー**	授業の前後（各30分）	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	―	△	○	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育Ⅰ	浮田・伊佐 岩城・八田	講義	1年次 前期	必修	1	30	KGE11202

科目の概要

宝塚大学看護学部で学び始めるにあたり、将来看護職を担うために必要なビジョンや基礎的スキル、本学学生としての意識を高めるため、その基礎となる事項、およびサイエンスと日本語表現等を教授する。宝塚大学看護学部について探究的に認識を深めるグループワークや、自らのキャリアについて考えプレゼンテーションする機会を通して、学生が主体的にキャリア構想を展望できるよう授業する。

到 達 目 標

●宝塚大学看護学部で学ぶ自らの決意と将来への構想を持ち、それをプレゼンテーションとエッセイで表現できる。
●看護職に必要なサイエンス（理数）の基礎的スキル、および基礎的な日本語読解と表現のスキルを身につけ、使うことができる。
●集団の一員として適切に参画し、集団に貢献し、役割を分担してグループワークを行うことができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	オリエンテーション（看護学部での学び、キャリア教育の位置づけ、ノートづくり、入学前課題の提出）
第２回　AL 2	看護とアートについて（入学前教育の内容理解を深め、意見をまとめディスカッションする）
第３回　AL 3	大学を知る１（宝塚大学の歴史やポリシー等を理解し、学びの方向性を自ら考える）
第４回　AL 3	大学を知る２（看護学部の先生方へのインタビューをまとめる）
第５回　AL 4	大学を知る３（ポスターセッション）
第６回　AL 3	地域を知る（看護学部の所在する地域について知り、学生ができることを考える）
第７回　AL 3	看護師国家試験について（看護師国家試験の概要を知り、1年次から計画的かつ着実に学ぶ方法を考える）
第８回　AL 6	看護の学びとサイエンス１、日本を知る
第９回　AL 6	看護の学びとサイエンス２、世界を知る
第10回　AL 6	看護の学びとサイエンス３、日本語表現１
第11回　AL 6	看護の学びとサイエンス４、日本語表現２
第12回　AL 6	看護の学びとサイエンス５、理数分野まとめ小テスト
第13回　AL 3	キャリアデザインとキャリアアンカー１
第14回　AL 2	キャリアデザインとキャリアアンカー２
第15回　AL 4	キャリアデザインとキャリアアンカー３（発表）

成績評価方法	成果物 40%　定期試験（レポート）20%　定期試験（実技）20%　小テスト 20%						
教科書	なし						
参考文献	『大学生　学びのハンドブック』(世界思想社)						
事前学習(内容･時間)	前時の指示に基づき授業準備する（30分程度)。						
事後学習(内容･時間)	毎回提示された課題に取り組む（１時間程度)。						
フィードバックの方法	提出課題はルーブリックに基づき自己評価し、教員評価を付記してフィードバックする。						
備考	・成績評価の詳細はオリエンテーションで提示する。 ・文献や時事問題など、広く看護に関わるトピックについて自ら探究的に学ぶことを強く求める。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	○	○	○	—	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育Ⅱ	伊佐・浮田 岩城・八田	講義	2年次 前期	必修	1	30	KGE21201

科目の概要

宝塚大学看護学部における1年間の学びをふまえ、将来看護職を担うのに必要なビジョンと能力を高めることを目的とする。医療・看護分野の知見と現代的課題を知り、それらを踏まえたキャリアデザインを構想し、アカデミックな文章に表現できるよう教授する。また、地域に根差した視点から問題を発見し解決の方向を探る力を高めること、協働と貢献の意義の理解を通して、看護職としての社会人基礎力を高めるためのフィールドワークを実施する。

到 達 目 標

●医療・看護分野の文献を読み、自らのキャリアデザインと関連させて理解し、適切にクリティークできる。
●自らのキャリアデザイン構想を持ち、医療・看護分野の文献等で学んだことと関連させ、文章を書くことができる。
●適切な準備を踏まえて地域でフィールドワークを行い、地域における看護職者の役割をグループの一員として探究し表現できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回　AL 2	オリエンテーション
第２回　AL 3	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング：基礎編／看護とサイエンス：ヒトと病気①
第３回　AL 3	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング：応用編／看護とサイエンス：ヒトと病気②
第４回　AL 3	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング：基礎編／看護とサイエンス：ヒトと食生活①
第５回　AL 3	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング：応用編／看護とサイエンス：ヒトと食生活②
第６回　AL 3	看護実践・研究のためのプレゼンテーションの技法／看護とサイエンス：世界の環境問題
第７回　AL 1	看護師国家試験について
第８回　AL 1	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について１（事前講義）
第９回　AL 3	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について２（テーマの探求）
第10回　AL 3	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について３（フィールドワーク）
第11回　AL 3	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について４（まとめ）
第12回　AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について５（発表①）
第13回　AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について６（発表②）
第14回　AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について７（発表③）
第15回　AL 2	まとめ

成績評価方法	成果物 40%　定期試験（レポート）30%　定期試験（実技）30%						
教科書	なし						
参考文献	2018『看護職としての社会人基礎力の育て方（第２版）』箕浦とき子・高橋恵編（日本看護協会出版会）						
事前学習（内容・時間）	前時の指示に基づき授業準備する（30分）。						
事後学習（内容・時間）	授業内で提示された課題に取り組む（30分）。						
フィードバックの方法	提出課題はルーブリックに基づき自己評価し、教員評価を付記してフィードバックする。						
備考	・評価やフィールドワークの詳細については授業時に指示する。 ・実践を通して学ぶことを念頭に、日々の授業に臨むこと。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	○	○	○	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人間関係概論	岩城　晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13106

科目の概要

人間は様々な「関係」の中に生きる存在である。本授業では、臨床心理学分野の知見に基づき、家族など身近な他者との関係、友人関係、所属集団との関係、自分を取り巻く社会との関係、自分自身との「関係」の捉え方と特徴について紹介する。授業前半では、精神分析の主要概念と、赤ちゃんから高齢者までの生涯発達およびそれに伴う関係性の発展をテーマとして取り上げる。それを踏まえて、後半では個人のメンタルヘルスや、医療看護現場における人間関係、受容と共感や「語り」のアプローチ等について取り上げ、人間同士の関係について深く考える時間をもつ。

到 達 目 標

●心理学の基礎的内容のうち、特に人間関係の理解に必要とされる事柄について理解し、述べることができる。
●各発達段階における心理的特徴や、対人関係など日常生活の中で個人が自分の心を守る仕組みについて、説明することができる。
●自分自身の周囲にある様々な関係について、ある程度客観的に考えられるようになる。また、人間の心や関係性についての理解を医療・看護領域においてどのように活かすか、発展的に考え述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション（臨床心理学の目的と歴史、心の捉え方、研究法など）
第２回	臨床心理学と関連領域の様々な学派①：精神分析、行動学派、人間性心理学など
第３回　AL 6	臨床心理学と関連領域の様々な学派②：深層心理学的立場からの心の理解
第４回	人間の発達と関係性の発展（1）
第５回	人間の発達と関係性の発展（2）
第６回	人間の発達と関係性の発展（3）
第７回	人間の発達と関係性の発展（4）
第８回	人間の発達と関係性の発展（5）
第９回	人間の発達と関係性の発展（6）
第10回　AL 6	心の健康と病理：メンタルヘルス、ストレス、バーンアウト
第11回	医療・看護の場における人間関係①
第12回	医療・看護の場における人間関係②
第13回　AL 6	「語り」を聴く
第14回　AL 6	自分自身について知る①
第15回　AL 6	自分自身について知る②

成績評価方法	定期試験（レポート）70%　小テスト 30%
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学　ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（2019）（弘文堂）
参考文献	『こころを大切にする看護　燃え尽きを防ぐための臨床心理学』樫村通子（2015）（日本評論社）、 『よくわかる臨床心理学（改訂版）』下山晴彦編（2009）（ミネルヴァ書房）
事前学習(内容･時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する（２時間)。
事後学習(内容･時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして内容を理解しておくこと（２時間)。
フィードバックの方法	コメントフォームに記入された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする。
備考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
教育学概論	伊佐　夏実	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23101

科目の概要

教育学の対象は､学校教育のような制度化された側面だけでなく､家庭や地域で行われる人間形成としての側面も含んでいる。本講義では、教育学の基礎的知識や技能について概説し、人間の発達や学習の特質とともに、社会のなかで教育が果たしている機能についても検討する。

到 達 目 標

●人間の発達や学習についての基礎的な知識を身につけ、説明することができる。
●現代教育の課題について、自分なりの考えを説明することができる。
●教育に関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	教育学ってなんだろう?
第２回　AL 2	発達と教育：遺伝か環境か？
第３回　AL 2	子どもの成長・発達をめぐる諸問題
第４回　AL 2	現代の子育てと家族をめぐる諸問題①
第５回　AL 2	現代の子育てと家族をめぐる諸問題②
第６回　AL 2	学校教育の歴史と展開
第７回　AL 2	学力とは何か
第８回　AL 2	学力低下と学力格差
第９回　AL 2	格差・貧困と子どもの教育①
第10回　AL 2	格差・貧困と子どもの教育②
第11回　AL 2	階層の再生産と貧困の世代間連鎖
第12回　AL 2	外国にルーツのある子どもの教育
第13回　AL 2	教育におけるジェンダー
第14回　AL 2	特別支援教育
第15回　AL 2	インクルーシブな教育とは？

成績評価方法	成果物 60%　定期試験（レポート）40%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。					
参考文献	『教育社会学への招待』若槻健ほか（大阪大学出版会）					
事前学習(内容･時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時までに提出すること（２時間)。					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します。					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
発達心理学	大村　枝里	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

人間は、生まれてから死ぬまで“変化し続ける生きもの”です。その変化は、身体だけでなく、感情表現や物事の捉え方、行動、他者とのコミュニケーションなど様々です。それら全体をとらえ、人間の発達について探求していくのが発達心理学です。本講義では、胎児期から高齢期までの各発達段階の特徴・困難・課題、及び発達障害について講義し、発達に関する課題の支援や対応について考えていきます。

到 達 目 標

●人間の発達の各段階における、発達特性の基礎知識を獲得し、自分の言葉で説明できる。
●発達における課題や困難、発達障害の特性について理解し、自分の言葉で説明できる。
●ケース事例において、発達心理学の多様な観点から問題・課題を提起し、支援及び対応を考察できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 6	オリエンテーション・発達心理学とは
第２回　AL 6	胎児期・新生児期
第３回　AL 6	乳児期
第４回　AL 6	幼児期①
第５回　AL 6	幼児期②
第６回　AL 6	児童期
第７回　AL 6	発達障害①
第８回　AL 6	発達障害②
第９回　AL 6	発達障害③
第10回　AL 6	思春期
第11回　AL 6	青年期
第12回　AL 6	成人期①
第13回　AL 6	成人期②
第14回　AL 6	老年期
第15回　AL 6	各発達段階における発達的特性の振り返り・補足

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　小テスト 40%					
教科書	なし					
参考文献	授業内で適宜紹介します。					
事前学習(内容･時間)	講義終了時に、次回講義に関係するウェブサイトや動画を観て事前の理解を促すこと（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義終了後の確認問題をこなし、講義の内容を復習すること（２時間)。					
フィードバックの方法	小テストやコメントシートへの記入内容は授業内で解説します。					
備考	毎回の授業に関するコメントシートの記入・提出をもって出席とみなします。			**オフィスアワー**	火曜日の午前中、メールにて受け付けます。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ジェンダー論	伊佐　夏実	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

ジェンダーとは何か。私たちの日常生活に大きな影響を与えているにも関わらず、見ようとしなければ見えないもの、「あたりまえ」のものとして考えている性にまつわる事柄を、家族や労働、教育、メディアなど、身近な領域の身近な問題を素材に考える。それらを通して、自分が生きる社会を見つめなおすための、思考の枠組みを教授する。

到 達 目 標

●ジェンダーやセクシャリティの基本的概念について説明できる。
●現代社会におけるジェンダー課題について、自分なりの考えを説明できる。
●ジェンダーに関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	ジェンダーってなんだろう
第２回　AL 2	メディアの中のジェンダー
第３回　AL 2	家族とジェンダー：性役割と家族形成
第４回　AL 2	家族とジェンダー：母性って何？
第５回　AL 2	教育とジェンダー：教育達成のジェンダー差
第６回　AL 2	教育とジェンダー：学校における隠れたカリキュラム
第７回　AL 2	労働とジェンダー：働き方のジェンダー差
第８回　AL 2	労働とジェンダー：看護の仕事とジェンダー
第９回　AL 2	スポーツとジェンダー
第10回　AL 2	暴力とジェンダー
第11回　AL 2	犯罪とジェンダー
第12回　AL 2	精神疾患とジェンダー
第13回　AL 2	男らしさについて①
第14回　AL 2	男らしさについて②
第15回　AL 2	ジェンダーとセクシャリティ

成績評価方法	成果物 60%　定期試験（レポート）40%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。					
参考文献	『よくわかるジェンダースタディーズ　人文社会科学から自然科学まで』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）					
事前学習(内容･時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時までに提出すること（２時間)。					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します。					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報化と社会	田島　悠史	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13107

科目の概要

情報技術革新の進展と社会情勢により、私たちのライフスタイルも一気にオンライン化が普及するなど、情報化と社会の関係については、誰もが避けては通れない問題になりました。看護師ももちろん情報化の影響を強く受けるでしょう。この授業では、いろいろな「情報化」を紹介し、これからの社会における情報化とはどのようなものがあり、どのような影響が生まれるかを考察し、今後の方向について考えてもらうことを目的として講義します。

到 達 目 標

●これまでの社会における「情報化」とはどのようなものだったのかについて理解し、説明することができる。
●これからの社会における「情報化」とはどのようなものがあり、自らにどのような影響が生まれるかを考え、説明することができる。
●自らが考えをまとめ視覚的にも整った資料としてまとめることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション
第２回	みなさんの「なんとなく聞いた言葉」から考える
第３回	デジタルファブリケーションについて
第４回　AL 5	デジタルファブリケーションの課題
第５回	デジタルファブリケーション課題のフィードバック
第６回	プログラミングと看護について
第７回　AL 5	プログラミングに関する課題（プログラミングをやる訳ではありません）
第８回	プログラミング課題のフィードバック
第９回	SNSとTikTokとAIの関係性について
第10回	AIの話
第11回　AL 5	AIの課題
第12回	AI課題のフィードバック
第13回	最終課題の発表+「未来を考えること」について
第14回　AL 5	最終課題の実習時間
第15回	最終発表のフィードバックと全体の振り返り

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	特にありません。					
参考文献	特にありません。必要に応じて授業時に紹介します。					
事前学習(内容･時間)	講義時に指定した課題などに取り組むこと（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義時に指定した当日のコメントを書くこと（２時間)。					
フィードバックの方法	コメントについては講義中にフィードバックします。					
備考				**オフィスアワー**	随時メールにて受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	―	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
民俗学	鈴木　洋昭	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

柳田国男の民俗学を中心に学問の対象・方法・課題について説明する。「民俗」とは、人々の生活習慣である。生活の中の社会・経済・宗教・芸能など諸側面における習慣と伝統であり、知識・技術・観念などの生活の知恵といえる。そうした民俗の分析を通して、具体的には恋愛と結婚をテーマに、人生いかに生きるべきかを考えることにより、看護の現場や受講生自身の生涯設計に活用できるよう講義する。

到 達 目 標

●人間の生命活動を理解し、比較論的研究法や民俗誌的研究法といった民俗学的方法論を身につけ、説明できる。
●生活文化とその歴史的解明を行う中で、日本の伝統的な社会と文化を体系的に修得し、論ずることができる。
●われわれの今生きている現在が、「民俗」といかにかかわっているかを理解し、述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	はじめに
第２回	民俗学とは何か？
第３回	民俗とは何か？
第４回	柳田国男と民俗学
第５回	動作伝承と言語伝承
第６回	昔話と伝説
第７回	民俗学の方法論（１）
第８回	民俗学の方法論（２）
第９回	民俗学の方法論（３）
第10回	人生と儀礼（１）　誕生～成人
第11回	人生と儀礼（２）　恋愛
第12回	人生と儀礼（３）　結婚
第13回	人生と儀礼（４）　死
第14回	民俗学の近代化
第15回	まとめ　「応」の近代化論

成績評価方法	定期試験（レポート）70%　成果物 30%					
教科書	なし					
参考文献	その都度紹介する。					
事前学習(内容･時間)	講義時に紹介するテーマについて事前に調べる（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義終了後、講義から得られたものや感じたものを簡単にまとめる（２時間)。					
フィードバックの方法	レポートに対する講評を授業内で行います。					
備考				**オフィスアワー**	メールにて随時質問を受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
メディア社会学	北垣　博美	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13108

科目の概要

インターネットの登場、普及によって、これまでの新聞・雑誌やテレビに代わり、ネットが市民生活の主要な情報伝達手段となった。個人も情報の発信者となれるネット情報は一国の政権を揺るがす力を持つ一方で、情報の真偽が問題ともなっている。災害や戦争、事件・事故の報道の歴史的な歩みをたどりつつ、現代に生きる人間として、日々起きる社会現象を判断できる視座を養うべく講義する。一新聞記者の経験も踏まえながら、適宜、新聞紙面やビデオも活用する。

到 達 目 標

●メディアの使命と市民社会とのかかわり方を自分の具体的な経験と結びつけて説明できる。
●新聞やテレビの作られ方を理解し、説明できる。
●氾濫する情報の中から正しく役立つ情報を選ぶことができるようになる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	新聞の歩み①　近代日本の歴史と災害報道
第２回	新聞の歩み②　世論と報道　現代の領土問題
第３回	新聞の歩み③　新聞と小説　市民社会の登場
第４回	メディアとスポーツ・文化事業　宝塚と甲子園
第５回	文化財報道と展覧会　フェノロサと岡倉天心
第６回　AL 2	新聞の戦争責任　暗殺（テロ）による政治
第７回	テレビの時代①　一億総白痴化
第８回　AL 2	テレビの時代②　「あるある大事典」とその後
第９回　AL 4	報道と人権①　報道被害とマスコミ不信
第10回	報道と人権②　表現の自由とプライバシーの保護
第11回　AL 4	報道と人権③　表現の自由と名誉毀損訴訟
第12回　AL 2	メディアミックスの時代①　インターネットの登場と躍進
第13回	メディアミックスの時代②　ネットと新聞、ネットと出版
第14回	メディアミックスの時代③　メディア別評価
第15回	ジャーナリズムの行方　メディアリテラシーとは

成績評価方法	定期試験（筆記）100％					
教科書	特になし。					
参考文献	授業時に適宜紹介。					
事前学習(内容･時間)	講義中に言及された参考文献に接するよう努めること（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	渡されるレジュメと授業内容を基に、独自ノートを作ること（２時間)。					
フィードバックの方法	感想を書いてもらい、次回の授業で講評します。					
備考	新聞を読み、テレビのニュースにも接し、社会の動きに敏感になるよう努めてほしい。			**オフィスアワー**	授業前後	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療ジャーナリズム論	佐々木　宏	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

新型コロナウイルス、医療と福祉、社会の関係について新聞記事を通してジャーナリズムの視点から考える。世界を襲うコロナ感染、二人に一人はがんになり、人生100年、介護の在り方も大きな社会問題になる中、ジャーナリズムが医療をどのように取り上げているか、その意味について説明し、文章、発表などで「あるべき医療」を考え、一般教養も身につけられるよう講義する。

到 達 目 標

●医療に求められる社会的な視点について説明ができる。
●多様な観点から医療に従事する者としての意識を身につけ、表現ができる。
●プレゼンテーション力、文章的な表現力、コミュニケーション力を身につけられる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス（医療とコロナ社会）
第２回	新聞の読み方、文章の書き方
第３回	新聞から読み解く①（読者投稿欄から）
第４回	新聞から読み解く②（新型コロナウイルスについて①）・・・課題文提出
第５回	新聞から読み解く③（新型コロナウイルスについて②）
第６回	新聞から読み解く④（新型コロナウイルスについて③）
第７回	新聞から読み解く⑤（がん患者・家族の支援について①）・・・課題文提出
第８回	新聞から読み解く⑥（がん患者・家族の支援について②）
第９回	新聞から読み解く⑦（スポーツと医療＝東京・パラリンピックについて）・・・課題文提出
第10回	新聞から読み解く⑧（医療裁判について）
第11回	新聞から読み解く⑨（高齢化社会について）・・・課題文提出
第12回	新聞から読み解く⑩（薬害エイズについて）
第13回　AL 2	グループ討論①（プレゼンテーション）
第14回　AL 2	グループ討論②（プレゼンテーション）・・・課題文提出
第15回	総括・医療とコロナ社会を考える

成績評価方法	成果物 80%　小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	新聞もしくはTeamsのファイルに掲示した資料（記事コピー）に目を通す（毎回２時間)。					
事後学習(内容･時間)	課題文、レポートの添削で指摘されたことを再考する（毎回２時間)。					
フィードバックの方法	Teamsで返却、もしくは授業内で講評。					
備考	毎回、当日の朝刊もしくは過去の記事コピーなど資料を提供します。一般常識として知っておきたい「ことば力」のミニテストを行う予定。課題文も５回程度、提出を求めます。		**オフィスアワー**	授業終了後、Teamsのチャットなどで質問を受ける。		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスケア・マーケティング	川島　隆志	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13109

科目の概要

ヘルスケアとは、保健・医療・福祉すべてを網羅する言葉です。看護の対象も病気の人ばかりとは限りません。あらゆる健康レベルへの働きかけが看護の機能です。人へ働きかける際に重要になるのがマーケティングという考え方です。本科目は、マーケティングの基本的な考え方とヘルスケア産業にかかわる企業や人がどのようなマーケティング活動をしているのかを理解してもらい、今後の自身の看護活動に対する意識を形成するのに役立てるよう講義する。

到 達 目 標

●ヘルスケア産業の全体像(概要)を理解し、述べることができる。
●マーケティングの基本的な考え方を理解し、説明することができる。
●医療サービス産業の従事者として、マーケティング志向の考え方で論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	はじめに　本講義の概要
第２回	マーケティングの基本的な考え方
第３回	ヘルスケア産業の概要①（病院・診療所、医療従事者）
第４回	ヘルスケア産業の概要②（ヘルスケアに関わる企業）
第５回　AL 2	マーケティングの基礎（生活者のニーズ）
第６回　AL 2	マーケティングの基礎（生活者の実態①　人口動態など）
第７回　AL 2	マーケティングの基礎（生活者の実態②　出生・死亡など）
第８回　AL 2	マーケティングの基礎（生活者の実態③　世帯構造など）
第９回　AL 2	サプリメント・健康食品メーカーのマーケティング
第10回　AL 2	健康機器メーカーのマーケティング
第11回　AL 2	ベビー用品メーカーのマーケティング
第12回　AL 2	口腔ケア商品（デンタルケア）のマーケティング
第13回　AL 2	健診サービス企業のマーケティング
第14回　AL 2	総合病院のマーケティング
第15回	ヘルスケア・マーケティングのまとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）80%　成果物 20%						
教科書	厚生労働省のホームページより必要な資料をダウンロードしていただきます（講義で指示します)。						
参考文献	『国民衛生の動向　2020/2021』厚生労働統計協会（厚生労働統計協会）						
事前学習(内容･時間)	ダウンロード資料の予習と専門用語の下調べ（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	ダウンロード資料およびディスカッションについて復習する（２時間)。						
フィードバックの方法	課題は授業内で解説、返却します。						
備考	講義はしっかり、わかるまで視聴して下さい。				**オフィスアワー**	随時メールで受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	△	△	―	○	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生活の中の法律	鈴木　眞澄	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13110

科目の概要

「人間が人間であることだけで当然に認められる権利」を「人権」といい、国は個人の人権を護るために存在します。それを定めたのが憲法です。2020年は世界中がコロナ禍に翻弄されました。看護師は人間の「生命と身体」に直接たずさわる重要な専門職ですから、最も高度な憲法感覚が要求されます。この講義ではそうした看護師の視点を踏まえて憲法について分かりやすく説明します。

到 達 目 標

●憲法の基本的構造と理念について、説明できるようになる。
●人権保障にかなった行為とそうでない行為の区別ができるようになる。
●実際の紛争を解決するための思考方法（「法的三段論法」。リーガルマインドともいわれる）が身につき、述べることが出来る。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	憲法を学ぶ前に：法と道徳の違い。法的三段論法とは何か？
第２回	憲法総論（１）：憲法とは何か？立憲主義。日本国憲法の三大原理。
第３回	憲法総論（２）：明治憲法から日本国憲法へ。国民主権。八月革命？
第４回　AL 2	憲法総論（３）：天皇制をどう考えるか？生前退位は起きたが、女性天皇は可能か？
第５回	憲法総論（４）：平和主義。平和的生存権。戦争放棄という理念。
第６回　AL 2	憲法総論（５）：平和主義と憲法改正問題。
第７回	人権保障（１）：人権とは何か。個人の尊厳と平等。輸血拒否事件。安楽死事件。
第８回	人権保障（２）：精神的自由権。良心・信教・表現・学問の自由。スマホ社会の問題点を考える。
第９回　AL 2	人権保障（３）：経済的自由権と社会権。格差問題を考える。
第10回　AL 2	人権保障（４）：人身の自由。死刑制度を考える。
第11回　AL 2	人権保障（５）：参政権。民主主義。18歳投票権を考える。
第12回	権力分立（１）：「権力は腐敗する」。三権分立と地方分権の意味。
第13回	権力分立（２）：立法権。国会の役割り。
第14回	権力分立（３）：行政権(内閣)、司法権(裁判所)の役割り。
第15回	憲法の総まとめ：憲法全体を振り返る。

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物（課題）20%					
教科書	特に指定しない。毎回レジュメを出す。					
参考文献	特に指定しない。					
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容について事前に調べ、ノートに書きだしておく（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	課題に答えながら、講義の内容をノートにまとめておく（２時間)。					
フィードバックの方法	課題に対しては個別にコメントをして返却する。					
備考	定期試験はコロナの状況により、レポートになる場合もある。			**オフィスアワー**	毎回の講義の前後。Teamsでは、いつでも質問可能。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	△	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文芸論	菊地　薫	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13111

科目の概要

人は物語から逃れることはできません。小説や映画はもちろん、テレビや広告など様々なメディアの中に物語は存在します。物語は、あなたに話しかけるその人の言葉の中に、そして自分が語る言葉の中にもするっと入ってきます。この授業では、なぜ物語が人間の生と切り離せないのか、文芸の歴史をふまえた理解を促すとともに、具体的な作品の読解を通して、自覚的に物語を受容する力を身につけてもらうよう教授します。

到 達 目 標

●人間にとって物語とは何かを理解し、日常の中で物語がいかに機能しているかを読み取ることができる。
●近代小説が､それまでの物語を継承しつつ､それとは異なるジャンルとして生まれたものであることを具体的に説明できる。
●小説作品や映画作品について、その方法や技術を理解し、分析することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション
第２回	よくある話――物語の型（1）
第３回	よくある話――物語の型（2）
第４回　AL 3	近代小説と物語の関係（1）
第５回	近代小説と物語の関係（2）
第６回	近代小説と物語の関係（3）
第７回	近代小説と物語の関係（4）
第８回	近代小説と物語の関係（5）
第９回　AL 3	小説はどう語るのか（1）
第10回	小説はどう語るのか（2）
第11回	小説はどう語るのか（3）
第12回	小説はどう語るのか（4）
第13回	小説はどう語るのか（5）
第14回	メディアによる表現方法の違い
第15回	物語とイデオロギーの関係

成績評価方法	成果物 60%　定期試験（レポート）40%					
教科書	なし					
参考文献	授業で紹介します。					
事前学習(内容･時間)	授業で指定された作品を読み（観て)、自分なりの考えをまとめておく（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業の内容を復習して、小課題に取り組む（２時間)。					
フィードバックの方法	成果物（小課題）については授業で解説します。期末課題については、要点や書き方を事前に説明します。					
備考	授業で指定する映画作品のうち、最低1作品を自習時間に鑑賞する必要があります。			**オフィスアワー**	Teamsにて随時受け付けます。	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法Ⅰ	加畑公一郎 北垣　博美	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11103

科目の概要

自分が体験した出来事や日々の生活の中で感じたり考えたりしたことを第三者に伝えて理解・共感してもらうためには、わかりやすく表現する文章の技術が必要だ。すぐれた教材を読み、考え、自分でも文章を書く。そうした実践を通して文章作法の極意を教える。

到 達 目 標

●自分が相手に伝えたいことを簡潔で説得力ある文章で表現する力を身につけることができる。
●ＳＮＳの影響による断片的な文章を、情緒豊かで論理的なコミュニケーション力を持った文章に直す力を身につけることができる。
●文章を読み書きするという学問の基本的態度を身につけ、社会の問題に対して自分の意見を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	文章表現の作法
第２回　AL 4	５Ｗ１Ｈが文章を支える
第３回	構成（段落、起承転結）の威力
第４回	事物に語らせる（描写の本質）
第５回　AL 4	書き出しで勝負する
第６回	締めくくりを決めるコツ
第７回	書く内容を限定する
第８回　AL 4	文章の格（主語と述語のねじれ問題）
第９回	日本語の特徴（漢語、大和言葉、カタカナ）
第10回	過剰な表現は文章を殺す
第11回　AL 4	小論文の書き方
第12回	読む人の側に立つ
第13回	紋切り型と戦う
第14回　AL 4	文章の切り口（視点、論点、テーマ）
第15回	違和感を大事にする

成績評価方法	成果物（授業中に５回書く課題作文）100％
教科書	なし
参考文献	授業のなかで紹介する。
事前学習(内容･時間)	書籍・新聞・テレビなどで気になった言葉や言い回しを集めて自分用の「字引き」を作る（２時間)。
事後学習(内容･時間)	新聞のコラムや論評、感銘を受けた記事を原稿用紙に書き写すことで文章の書き方を磨く（２時間)。
フィードバックの方法	授業中に書く課題作文は、ていねいに添削して本人に返却するとともに、授業で教材にも使う。
備考	オフィスアワー：授業の前後と、メールでも随時対応する。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	講義	3年次 前期	選択	2	30	KGE33101

科目の概要

人の心をつかむ文章とは何だろう。まずは、作家、詩人、哲学者、医師、ジャーナリストたちの著作をはじめ、無名の市民が書いた文章などを一緒に読み、共感したり批判したりすることから始める。そうした読解作業を通じて、魅力ある文章を書くための心構えと技法を教える。

到 達 目 標

●エッセイ・詩・評論などから学んだ技法を生かして、自分の意思を正確に豊かに伝える力を身につけることができる。
●人々の言動や社会の出来事をじっくり観察し、自分の視点で問題点を指摘することができる。
●相手の気持ちをくみとり、心の深いところで信頼が築ける人間関係の特色について説明することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	プロの文章とアマチュアの文章
第２回　AL 4	目の見えない作家の描写力
第３回	相手を思いやる表現
第４回	古代言語を題材にして身体と表現について考える
第５回　AL 4	見えている光景の奥に隠れているものを読み解く
第６回	思考停止に陥らない言葉遣い
第７回	批評の精神
第８回　AL 4	ユーモア感覚を身につけよう
第９回	人の尊厳をささえる文章とは
第10回	問題を見つけることが出発点だ
第11回　AL 4	ひととは違う文章の切り口
第12回	詫び状から世間を学ぶ
第13回	事実と意見を書き分ける
第14回　AL 2	自分を売り込む作法
第15回	言葉の喚起力

成績評価方法	成果物（授業中に数回書いてもらう課題）100％
教科書	なし
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する。
事前学習(内容･時間)	書籍や新聞、テレビなどで気になった言葉や言い回しをメモして、授業で報告してもらう（２時間)。
事後学習(内容･時間)	その日の授業内容を復習し、さらに、その応用例を書籍・新聞などから集めて理解を深める（２時間)。
フィードバックの方法	課題の提出物は、ていねいに添削し、コメントを添えて本人に返却する。
備考	**オフィスアワー**　授業の前後と、メールでも随時対応する。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ファッションアート サーヴェイ	角南登紀子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13112

科目の概要

ファッションに対する美的感性は、多様で分析することが難しいとされる。消費者の商品の購入動機には、ファッション感性によるところが大きいことから、トレンド情報を基にファッションデザインの感性分析の基礎について説明し、ファッション感性のあいまいさを明確にするよう、講義する。

到 達 目 標

●世界のファッションの最新トレンドを映像から触れることで、幅広いファッションスタイルを類別できる。
●オケージョン、シルエット、トレンドをベースにファッション感性のあいまいさを明確にし、説明できる。
●ファッションブランド構築のプロセスを習得し、個々が求めるブランドをシミュレーションし作成できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション／あなたのファッションスタイルとファストファッション
第２回　AL 5	ファッション感性分析の基礎／トレンド感性分類（コレクションデザインからトレンドイメージ分類）
第３回　AL 4	オケージョン感性分類（コレクションデザインからTPO別のデザイン分類）
第４回　AL 5	シルエット感性分類（コレクションデザインからさまざまなシルエットについて分類）
第５回　AL 4	服のディテールの名称と表現方法⑴／フレア・ギャザー・フリル・プリーツなど、よく使われるディテール
第６回	服のディテールの名称と表現方法⑵／スカート・パンツのディテール（シンメトリー&アシンメトリーバランス）
第７回	服のディテールの名称と表現方法⑶／衿なしのネックライン・衿・袖のディテール
第８回　AL 5	ファッションプロポーション／人体の構造と動きとバランス ファッション写真による､からだの観察と表現
第９回　AL 5	デザインの発想／花、絵画、建築物、音楽、映画、香水などさまざまなテーマからのデザイン発想
第10回　AL 4	モードの変遷と現代のファッション⑴／ファッションスタイルの変化を、年代やデザイナーごとに理解
第11回	モードの変遷と現代のファッション⑵／オートクチュールとプレタポルテ
第12回	ファッションブランド⑴ファッションブランド基礎とオリジナルブランド提案、企画
第13回	ファッションブランド⑵オリジナルブランド構築
第14回　AL 5	ファッションブランド⑶オリジナルブランド企画のプレゼンテーション・まとめ
第15回　AL 4	あなたのファッションスタイルのコーディネート研究とまとめ

成績評価方法	成果物（実習課題）50%　小テスト（レポート・クイズにて）50%					
教科書	特にありません。					
参考文献	『ファッション アート』崎田喜美枝著（宝塚大学 出版局)、『ファッション ブランディング』崎田喜美枝編著（宝塚大学 出版局)、『ファッション辞典』大沼淳他（文化出版局）					
事前学習(内容･時間)	政治、経済、社会、文化など生活の中で何が変化しているのか幅広く感じ取るため、新聞、インターネットなどで情報を収集する（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	注目されているトレンドを意識し、それが消費者の目にはどのように映っているのかを観察する訓練を日常的に行い、与えられた課題作成のため、情報収集し形式に沿ってまとめる（２時間)。					
フィードバックの方法	授業で提出された成果物の講評を行い、個別にはチャットにて行う場合もある。					
備考	授業は、パワーポイントでの解説と、関連する動画にて行います。様々な芸術に触れ、感性を磨きましょう。			**オフィスアワー**	授業Teams内お知らせチャネル、チャットにて（20時まで)。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	△	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
マスコミと報道	加畑公一郎	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13113

科目の概要

マスコミによる報道の現場で何が起きているのかを、さまざまな映像や資料を使って解説しながら、メディアバイアス、言論・表現の自由、プロパガンダ、真実とは何か、映像の誘惑、ミスリードなどについて読み解くノウハウを教える。

到 達 目 標

●言論・表現の自由とはどういうことかを具体例に基づいて説明できる。
●情報を伝える人間・組織の強みと弱点を指摘し、信頼される報道や民主主義のあり方について自分の意見を述べることができる。
●政治・医療・メディア・言論など社会の諸課題について自らの問題意識で考える力を身につけ、論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	伝える側と受け取る側
第２回 AL 2	新聞の読み方――批判する力を育てる
第３回	テレビの見方
第４回	映像につきまとう危うさ（映画の原点から考える）
第５回 AL 2	マスコミが人を裁くとは
第６回	メディアバイアス
第７回	知らせることは正義か
第８回 AL 2	大本営発表について
第９回	警鐘報道が抱える悩み
第10回	作品に罪はあるのか
第11回 AL 2	プロパガンダを考える
第12回	国民的熱狂について
第13回	群衆心理
第14回 AL 2	スポーツ報道の注意点
第15回	ミスリード

成績評価方法	成果物（授業中に数回実施する課題）100%					
教科書	なし					
参考文献	授業のなかで紹介する。					
事前学習(内容･時間)	新聞・テレビ・ネットで気になった報道事例をスクラップし、問題意識を磨く（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	前後の講義のテーマは底でつながっているので、前回・前々回の復習を重ねて理解を深める（２時間)。					
フィードバックの方法	成果物は添削し、講評コメントや助言を添えて本人に返す。					
備考	成果物の課題はポイントをわかりやすく説明する。			**オフィスアワー**	メールで随時対応する。	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
西洋美術の源流	森口まどか	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13114

科目の概要

本講義では、古代ギリシャ・ローマからルネサンス後期までの西洋美術を講義する。いわゆる西ヨーロッパを中心とする宗教、社会、政治の変化と合わせ、時代ごとの代表的絵画、彫刻や建築物などを通して様式および主題などの変遷を紹介する。作品画像、ビデオ映像などを使い、できるだけ多くの作品を視覚的に捉えながら現在の西ヨーロッパの芸術・文化の根幹を理解できるように教授する。

到 達 目 標

●古代ギリシャ・ローマから16世紀半ばまでの西洋美術の流れを述べることができる。
●各時代の代表的作品を比較し、作品の特質や様式を類別できる。
●各時代における各地域の文化、社会、宗教的背景などを説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	はじめに　美術用語・文献紹介など
第２回	古代ギリシャ・ローマ美術１　アルカイク様式、ヘレニズム様式などの彫刻　神殿建築、ローマ期建築など
第３回　AL 2	古代ギリシャ・ローマ美術２　神殿建築、ローマ期建築、彫刻など
第４回	ビザンティン美術１　初期キリスト教聖堂建築の変遷
第５回　AL 2	ビザンティン美術２　ハギア・ソフィア大聖堂を中心とする建造物とモザイクおよびイコン
第６回	古代ギリシャ・ローマ美術からビサンティン美術についての小テスト・解説
第７回	北方ルネサンス美術１　油彩画法の発見、北ヨーロッパ写実主義　ファン・エイク兄弟、ヒエロニムス・ボスを中心に
第８回	イタリア初期ルネサンス美術１　フィレンツェにはじまる芸術　絵画（マザッチョ、ボッティチェリ）
第９回	イタリア初期ルネサンス美術２　フィレンツェにはじまる芸術　建築・彫刻（ブルネレスキ、ドナテッロ）
第10回	北方ルネサンス初期の美術とイタリアルネサンス初期の美術についての小テスト・解説
第11回	ルネサンス美術１　フィレンツェからローマ、ミラノ　レオナルド・ダ・ヴィンチ
第12回	ルネサンス美術２　フィレンツェからローマ　ミケランジェロ、ラファエロ
第13回　AL 4	ルネサンス美術３　ヴェネツィア派　ジョルジョーネ、ティツィアーノ
第14回	北方ルネサンス美術２　グリューネヴァルト、デューラー
第15回	初回から第14回までのまとめと小テスト

成績評価方法	小テスト 70%　定期試験（レポート）30%					
教科書	特にないが、適宜参考文献を参照する。					
参考文献	『アートのロジックを読み解く西洋美術の楽しみ方』OCHABIInstitute（株式会社インプレス）、 『カラー版西洋美術史』増補新装 高階秀爾監修（美術出版社）					
事前学習(内容･時間)	講義時に紹介する内容について、予め参考文献などを通して準備をすること（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義終了時に出す課題に関するレポートを作成する（２時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説する。レポートは授業中に返却する。					
備考	美術全般への関心を広げるため、インターネット・ミュージアムなどにもアクセスしてみるように。			**オフィスアワー**	授業の前後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・ コラボレーション力	4　課題発見力・ 課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	―	―	―	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅰ （茶道と香道の理論と表現）	飯島　照仁	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12201

科目の概要

本科目は、茶の湯の基礎を概観し、茶を「点てる」「飲む」という実践を行う。また季節感のある茶の湯のお菓子を、茶会のもてなしのためにデザインする。さらにお香の種類と基礎を学ぶ。茶道表現の理論的・実践的講義を通して、伝統芸術創造と将来への展望、そして何よりも看護の分野へ応用できるよう教授する。

到 達 目 標

●客の心得を理解し、述べることができる。
●盆略点前を習得し、実践できる。
●茶の湯・お香の基礎を学び、概要を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	茶の湯入門（茶道のこころ１）
第２回	茶の湯入門（茶道のこころ２）
第３回	茶についての基礎知識
第４回	茶道の成り立ち１
第５回	茶道の成り立ち２
第６回	茶道の基礎知識１（茶室と露地）
第７回	茶道の基礎知識２（茶花）
第８回	茶道の基礎知識３（茶席のお菓子）
第９回	茶道の基礎知識４（茶道具）
第10回	実技のための総論
第11回　AL3	茶の湯基礎・割稽古（１）
第12回　AL3	茶の湯基礎・割稽古（２）
第13回　AL3	茶の湯の基礎・盆略点前（１）
第14回　AL3	茶の湯の基礎・盆略点前（２）
第15回	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする

成績評価方法	小テスト（実技）50%　成果物 50%					
教科書	必要に応じてオンラインで資料等の配布をする。					
参考文献	『茶道文化検定公式テキスト３級』飯島照仁共著（淡交社）					
事前学習(内容･時間)	配布資料の確認（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	配布資料の確認と実技の復習（２時間)。					
フィードバックの方法	課題・実技に関しては対面授業内で解説します。					
備考				**オフィスアワー**	授業の前後	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅱ （生け花の理論と表現）	小林　秀加	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12202

科目の概要

この授業は、花に触れ、花の表情に気付き、命の尊さ・奥深さを学ぶことが目的である。実際に季節の花を活けることにより、花を活かすことを教授する。いけ花を通して自身の感性を豊かに磨き、表現する能力を養い、表現を通して自分自身を知ってもらいたい。また花を中心に色彩・効用・祭との関わり等、実践を交えながら解説する。

到 達 目 標

●実践（技能・技術の習得）を通して生け花の本質を探り、作品を通して伝統芸術の根底にある日本的な心（知識・考え方）を表現できる。
●季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え、いけ花の技能を生かし表現する能力・技術をつける。
●個人の表現を通して自己を知り、他者の作品を眺めることで、自己の特性を知る。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	生け花とは　―授業で何を学ぶのか（目的・内容・評価）。生け花とは、花を活ける過程を見せる（実践）―
第２回	花との対話　―実践を通して花を活かす「活け花」（盛花）を学ぶ。道具について学ぶ―
第３回　AL 4	表現原理　―いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ―
第４回	生け花の誕生　―花と人との関係を知り、その歴史を古代から現代まで探る―
第５回　AL 5	技と表現様式　―壺に生ける生け方（投入）を実践。花の扱いについて学ぶ―
第６回	器との調和　―花器の種類や素材・焼き物について学ぶ。器による表現法を学ぶ―
第７回　AL 4	生け花の型①　―飾る場所を意識して花を活ける（斜主型・直主型）―
第８回	伝統行事の花　―節句を中心に花との関係を知る・祭りと花① 葵祭と花―・盛花の生け方
第９回　AL 4	生け花の型②　―飾る場所を意識して花を活ける（横主型・垂主型）―
第10回	敷板との調和　―敷板としての塗り物・その効用についても学ぶ・敷板を意識した空間表現―・投入の生け方
第11回　AL 4	生け花の型③　―飾る場所を意識して花を活ける（四方正面型）―
第12回	植物の効用　―薬用としての植物を学ぶ―・季節をテーマにした作品
第13回	祭りと花②　―祇園祭と花 ―・連鎖・株分けの作品
第14回	植物の染料　―日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える―・色を意識した作品
第15回　AL 5	〈状況によって対面〉いけ花作品の制作・展示・合評

成 績 評 価 方 法	成果物 85%　定期試験（レポート）15%
教　　科　　書	なし
参　考　文　献	なし
事前学習(内容･時間)	授業で紹介する内容を前回の授業で確認し、それを踏まえ当日までに予習する（２時間)。
事後学習(内容･時間)	授業での成果物の添削内容を踏まえ、次に生かせるよう学習する（２時間)。
フィードバックの方法	課題提出に対して、個々とやりとりしながら、個別に添削指導。
備　　考	授業用物品（花はさみと剣山、花代等）は5,000円～10,000円程度が必要になります。詳細は別途お知らせします。

オフィスアワー	授業時間前後

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅲ （書芸術の理論と表現）	池田　方彩	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12203

科目の概要

書とは筆墨をかりて文字を書くということであるが、文字には表意文字（漢字）と表音文字（仮名）があり、その書体には篆隷楷行草の五體、および仮名文字があり、書風も線質・字形・章法によって様々である。かような書の美を歴史的に順を追って講義する。また古典各体の臨書を課することで、各筆の有する深い人格性や高い技芸力、詩魂や情操の結実した造形の跡を理解する力を付け、さらに自ら書写することの悦びを感得してもらう。

到 達 目 標

●書（詞章）の意味を考え、内容を味わうことにより感性を高め、書写能力を向上させる。
●書（文字）の鑑賞力を向上させ、芸術的な視点から述べることができる。
●実際に書くという行為の楽しさを知り、自娯の境地を体得し、自らの書に表すことができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	（講義）書芸術概論
第２回	（実技）臨三体千字文
第３回	（講義）奈良朝写経
第４回　AL 6	（実技）臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第５回	（講義）平安朝三筆・三蹟
第６回　AL 6	（実技）臨空海・臨行成
第７回	（講義）平安朝仮名
第８回　AL 6	（実技）仮名いろは文字
第９回	（講義）鎌倉熊野懐紙
第10回　AL 6	（実技）臨篆書・臨隷書
第11回	（講義）墨蹟（禅の書）
第12回　AL 6	（実技）座右の銘
第13回	（講義）江戸の書
第14回　AL 6	（実技）詠七夕懐紙
第15回　AL 6	（講義）近現代の書　（実技）自由創作

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜資料を配布する。					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	授業計画を確認しておく（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義で配布した資料をしっかり読むこと（２時間)。					
フィードバックの方法	作品は講評し、次回評価をお伝えします。					
備考	筆ペン（太字用）の用意。受講中は私語を慎み、他者に迷惑をかけないこと。			**オフィスアワー**	授業時間前後	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅰ (Reading 1)	浮田　恭子	演習	1年次 通年	必修	2	60	KGE11301

科目の概要

看護・医療分野およびその関連分野をトピックとする英語を読む力を養う。教科書を用いて基礎的な英文法と構文理解、語彙力を高める多様な演習を行う。また、簡単な英文に始まりニュースや新聞などの時事英語、TEDなどのビデオスクリプト、論文など多様なテキストを用いて読解力を高め､年度末には辞書を用いて英語論文のアブストラクトが読めるようになることを目標に段階的かつ系統的に教授する。

到 達 目 標

●看護・医療に関連する基礎的な語彙力を身につけ、コミュニケーションに応用することができる。
●辞書を用いて看護・医療分野の英文の内容を理解し、的確・簡潔な日本語で表現し、要約することができる。
●辞書を用いて看護・医療分野の英文の内容を要約し、図や表などを用いてわかりやすく伝達することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	オリエンテーション（教科書・辞書の使い方、ノートづくり、学習の進め方等)、Unit1-1
第２回　AL 3	Unit1-2、英語文の構成（センテンス、パラグラフ、テキスト）
第３回　AL 3	Unit1-3、文を読む１（動詞）
第４回　AL 3	Unit2-1、文を読む２（接続語）
第５回　AL 3	Unit1小テスト、Unit2-2、文を読む３（修飾語句）
第６回　AL 3	Unit2-3、リーディング小テスト１（文を読む１～３）
第７回　AL 3	Unit2小テスト、Unit3-1、パラグラフを読む１（パラグラフの構造）
第８回　AL 3	Unit3-2、パラグラフを読む２（トピックセンテンス・サポーティングセンテンス）
第９回　AL 3	Unit3-3、パラグラフを読む３（コンクルーディングセンテンス・リンキングセンテンス）
第10回　AL 3	Unit3小テスト、Unit4-1、パラグラフを読む４（色々な種類のパラグラフ）
第11回　AL 3	Unit4-2、パラグラフを読む５（コヒアランス・コヒージョン）
第12回　AL 3	Unit4-3、リーディング小テスト２（パラグラフを読む１～５）
第13回　AL 4	Unit4小テスト、パラグラフリーディング演習１
第14回　AL 4	パラグラフリーディング演習２
第15回　AL 4	パラグラフリーディング演習３
第16回　AL 3	Unit5-1、パラグラフリーディング復習
第17回　AL 3	Unit5-2、速読１（プレディクション）
第18回　AL 3	Unit5-3、速読２（スキミング）
第19回　AL 3	Unit5小テスト、速読３（スキャニング）
第20回　AL 3	Unit6-1、テキストを読む１（単語の意味の推測１）
第21回　AL 3	Unit6-2、テキストを読む２（単語の意味の推測２）
第22回　AL 3	Unit6-3、テキストを読む３（目的別リーディング）
第23回　AL 3	Unit6小テスト、Unit7-1、テキストを読む４（英語論文の成り立ち）
第24回　AL 3	Unit7-2、テキストを読む５（アブストラクトを読む）
第25回　AL 3	Unit7-3、テキストを読む６（アブストラクトを読む）
第26回　AL 3	Unit7小テスト、Unit8-1、テキストを読む７（まとめ）
第27回　AL 4	Unit8-2、テキストリーディング演習１
第28回　AL 4	Unit8-3、テキストリーディング演習２
第29回　AL 4	Unit8小テスト、テキストリーディング演習３
第30回　AL 4	テキストリーディング演習４

成績評価方法	中間試験・定期試験 40%　小テスト 40%　成果物 20%
教科書	『English for Nursing 1: Vocational English Course Book』Ros Wright他（PEARSON）
参考文献	なし
事前学習(内容･時間)	教科書の予習、リーディング課題の学習、発表準備等（１時間程度)。
事後学習(内容･時間)	教科書の復習、リーディングスキルのまとめ（１時間程度)。
フィードバックの方法	小テストを授業中に返却しフィードバックする。発表はルーブリックを用いて評価する。
備考	英和辞典（電子辞書ではない）を準備すること。 推奨する英和辞典は初回の授業で提示する。
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	毛利　郁子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など看護・医療の現場で役立つ様々な英語表現の基礎と応用を教授します。英作文や英会話を学習しながら、ライティングのみならず、リスニング、リーディング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語でコミュニケーションをとれるよう指導します。ペアワーク、グループワークのアクティブラーニングを取り入れた参加型授業です。

到 達 目 標

●看護・医療英語における専門用語や言い回しを習得し、記述できる。
●国際的な医療従事者として心得ておくべき、基本的な英作文や対話を習得する。
●医療現場において、実際に臨機応変に英語で対応できる様、習得した知識をスムーズに運用できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション、Unit１－１：First Visit　初診・問診票　その１
第２回　AL 3	Unit１－２：First Visit　初診・問診票　その２
第３回	Unit２－１：At the Examination Room　診察室での基本会話　その１
第４回　AL 3	Unit２－２：At the Examination Room　診察室での基本会話　その２
第５回	Unit３－１：Flu Symptoms　インフルエンザの症状　その１
第６回　AL 3	Unit３－２：Flu Symptoms　インフルエンザの症状　その２
第７回	Unit４－１：Pain Problems　痛みへの対処　その１
第８回　AL 3	Unit４－２：Pain Problems　痛みへの対処　その２
第９回	Unit５－１：Stomachache　胃痛　その１
第10回　AL 3	Unit５－２：Stomachache　胃痛　その２
第11回	Unit６－１：Abdominal Pain　腹痛　その１
第12回　AL 3	Unit６－２：Abdominal Pain　腹痛　その２
第13回	Unit７－１：Urinalysis　尿検査　その１
第14回　AL 3	Unit７－２：Urinalysis　尿検査　その２
第15回	Review Test１－その１ Review Test１－その２
第16回	Review Test1　Part１　および　Part３
第17回	Unit８－１：Cholesterol コレステロール　その１
第18回　AL 3	Unit８－２：Cholesterol コレステロール　その２
第19回	Unit９－１：Anemia　貧血　その１
第20回　AL 3	Unit９－２：Anemia　貧血　その２
第21回	Unit10－１：Injury　怪我　その１
第22回　AL 3	Unit10－２：Injury　怪我　その２
第23回	Unit11－１：Operation Period　手術の準備　その１
第24回　AL 3	Unit11－２：Operation Period　手術の準備　その２
第25回	Unit12－１：Alcohol Poisoning　アルコール中毒　その１
第26回　AL 3	Unit12－２：Alcohol Poisoning　アルコール中毒　その２
第27回	Unit13－１：Ultrasound Examination　超音波検査　その１
第28回	Unit13－２：Ultrasound Examination　超音波検査　その２
第29回	Appendix２:医療の現場で役立つ重要表現
第30回	後期総復習

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）50%　小テスト 30%　成果物 20%
教科書	『Medical English Clinic』西原俊明、西原真弓、Tony Brown（センゲージ・ラーニング）
参考文献	なし
事前学習(内容･時間)	次週範囲内の単語調べ（30分)。
事後学習(内容･時間)	授業の復習（１時間)。
フィードバックの方法	課題、小テストは授業内で解説する。結果は学生に確認してもらう。
備考	**オフィスアワー**　授業の前後

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	池田美智子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21302

科目の概要

この授業では、身近な健康問題、感染症などを含む世界的規模の健康問題、DNA解析など先端医療の発展と問題点について講義する。英文を読み進めることで、ネットやニュースなどで目にしたことのある健康問題についてのより深い理解と知識を広げることができるように説明する。

到 達 目 標

●リーディング、リスニング等を通じて健康問題への専門知識、用語、表現を英語で記述できる。
●英語で書かれた図表やグラフを読み取り、説明できる。
●ネットやニュースで目にする健康問題について英語で説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	Unit 1 Sense of Taste and Eating Habits　味覚と食習慣（その１）
第２回　AL 3	Unit 1 Sense of Taste and Eating Habits　味覚と食習慣（その２）
第３回	Unit 2 Lose Weight and Stay Active　体重管理（その１）
第４回　AL 3	Unit 2 Lose Weight and Stay Active　体重管理（その２）
第５回	Unit 3 Dangers of Internet Addiction　ネット依存症（その１）
第６回　AL 3	Unit 3 Dangers of Internet Addiction　ネット依存症（その２）
第７回	Unit 1～Unit 3の復習
第８回	Unit 4 Before It Is Too Late　大気汚染（その１）
第９回　AL 3	Unit 4 Begore It Is Too Late　大気汚染（その２）
第10回	Unit 5 Global Water Problem　地球規模の水問題（その１）
第11回　AL 3	Unit 5 Global Water Problem　地球規模の水問題（その２）
第12回	Unit 6 Global Cooperation to Prevent Dementia　認知症への世界的協力（その１）
第13回　AL 3	Unit 6 Global Cooperation to Prevent Dementia　認知症への世界的協力（その２）
第14回	Unit 6 Global Cooperation to Prevent Dementia　認知症への世界的協力（その３）
第15回	Unit 4～Unit 6の復習
第16回	Unit 7 Battle against the Ebola Virus　エボラ出血熱との闘い（その１）
第17回　AL 3	Unit 7 Battle against the Ebola Virus　エボラ出血熱との闘い（その２）
第18回	Unit 8 Need for Disaster Medicine：DMAT and JMAT　大規模災害での医療活動（その１）
第19回　AL 3	Unit 8 Need for Disaster Medicine：DMAT and JMAT　大規模災害での医療活動（その２）
第20回	Unit 9 Angelina's Decision　アンジーの選択（その１）
第21回　AL 3	Unit 9 Angelina's Decision　アンジーの選択（その２）
第22回	Unit 7～Unit 9の復習
第23回	Unit 10 Ethical Implications of Prenatal Testing　新型出生前診断（その１）
第24回　AL 3	Unit 10 Ethical Implications of Prenatal Testing　新型出生前診断（その２）
第25回	Unit 11 ES Cells and iPS Cells　ES細胞とiPS細胞（その１）
第26回　AL 3	Unit 11 ES Cells and iPS Cells　ES細胞とiPS細胞（その２）
第27回	Unit 13 Preventing Child Abuse　児童虐待を防ぐ（その１）
第28回	Unit 13 Preventing Child Abuse　児童虐待を防ぐ（その２）
第29回　AL 3	Unit 13 Preventing Child Abuse　児童虐待を防ぐ（その３）
第30回	Unit 10, 11, 13の復習

成績評価方法	定期試験（レポート）50%　成果物 30%　小テスト 20%
教科書	『Mindfulness これからの健康的な社会へ』園城寺康子編　南雲堂
参考文献	なし
事前学習(内容･時間)	学習する内容について単語等調べておくこと（１時間)。
事後学習(内容･時間)	学習した内容について必ず復習しておくこと（１時間)。
フィードバックの方法	次回もしくは課題返却時に解説を行う。
備考	**オフィスアワー**　チャットにて随時受け付けます。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	永田　節子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21303

科目の概要

英語Ⅰの基礎の上に、ライティングを中心に総合的な英語力を強化できるよう指導します。グローバル化が進み、医療や看護の現場でも外国人の患者数が増え、英語でコミュニケーションを取ることが求められるようになっています。そこで、医療現場で本当に必要な英語表現や、役に立つ専門用語を教授します。

到 達 目 標

●ライティングの為の英語力を習得し、医療に必要な文章が書ける。
●看護英語に必要な語彙を習得し、医療に必要な英単語が書ける。
●医療や看護に関する専門用語や英語表現を理解し、記述できるようになる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	Unit 2　Don't worry　励ましの声をかけましょう（1）
第２回　AL 3	Unit 2　Don't worry　励ましの声をかけましょう（2）
第３回	Unit 3　How may I help you?　どうなさいましたか（1）
第４回　AL 3	Unit 3　How may I help you?　どうなさいましたか（2）
第５回	Unit 4　How are you feeling?　気分を聞いてみましょう（1）
第６回　AL 3	Unit 4　How are you feeling?　気分を聞いてみましょう（2）
第７回	Unit 5　Could you fill in this medical questionnaire?　この問診票にご記入いただけますか（1）
第８回　AL 3	Unit 5　Could you fill in this medical questionnaire?　この問診票にご記入いただけますか（2）
第９回	Unit 6　Take the elevator, please.　行き先を案内しましょう（1）
第10回　AL 3	Unit 6　Take the elevator, please.　行き先を案内しましょう（2）
第11回	Unit 7　What are your symptoms?　症状を尋ねましょう（1）
第12回　AL 3	Unit 7　What are your symptoms?　症状を尋ねましょう（2）
第13回	Unit 8　Where does it hurt?　痛みの場所を聞きましょう（1）
第14回　AL 3	Unit 8　Where does it hurt?　痛みの場所を聞きましょう（2）
第15回	Unit 9　How long have you had these symptoms?　症状の持続時間を聞きましょう（1）
第16回　AL 3	Unit 9　How long have you had these symptoms?　症状の持続時間を聞きましょう（2）
第17回	Unit10　I'm going to take a blood sample.　検査の手順を説明しましょう（1）
第18回　AL 3	Unit10　I'm going to take a blood sample.　検査の手順を説明しましょう（2）
第19回	Unit11　Let me take your vital signs.　入院患者との会話を学びましょう（1）
第20回　AL 3	Unit11　Let me take your vital signs.　入院患者との会話を学びましょう（2）
第21回	Unit12　Your surgery will be tomorrow.　手術前後の説明をしましょう（1）
第22回　AL 3	Unit12　Your surgery will be tomorrow.　手術前後の説明をしましょう（2）
第23回	Unit13　There are three kinds of medicine.　薬の説明をしましょう（1）
第24回　AL 3	Unit13　There are three kinds of medicine.　薬の説明をしましょう（2）
第25回	Unit14　Are you worried about anything?　文化の違いによる心配事を聞きましょう（1）
第26回　AL 3	Unit14　Are you worried about anything?　文化の違いによる心配事を聞きましょう（2）
第27回	Unit15　It's time to be discharged.　退院後の説明をしましょう（1）
第28回　AL 3	Unit15　It's time to be discharged.　退院後の説明をしましょう（2）
第29回	Unit1　Power of Language　言葉の力（1）
第30回	Unit1　Power of Language　言葉の力（2）

成績評価方法	定期試験（レポート）50%　小テスト 50%
教科書	『LIFESAVER, NEW EDITION - Basic English in Medical Situations』井上真紀他（センゲージ ラーニング）
参考文献	なし
事前学習(内容･時間)	教科書に目を通し、単語や熟語など調べておくこと（１時間)。
事後学習(内容･時間)	授業内容や教科書を復習し、必要な表現や単語を覚えること（１時間)。
フィードバックの方法	
備考	学習内容をノートにまとめていくこと。　**オフィスアワー**　Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅰ (Listening & Speaking 1)	池田美智子	演習	1年次 通年	必修	2	60	KGE11302

科目の概要

ここで学ぶ英会話は一般のコミュニケーションにおいても欠かせない表現が多く含まれ､看護の現場以外でも役立つものが多い。授業は、病院を舞台として、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に進める。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や検査及び薬についての説明や服用の指示など叙述や命令形を中心に講義する。

到 達 目 標

●テキスト内の役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述もできる。
●会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣についても記述できる。
●病院で必要とされるフォームを英語で記入できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	授業の進め方の説明とLesson 1 In the Lobby of the Hospital　病院にて（その１）
第２回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital　病院にて（その２）
第３回　AL 6	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital　病院にて（その３）
第４回	Lesson 2 Registration　受付登録（その１）
第５回　AL 6	Lesson 2 Registration　受付登録（その２）
第６回	Lesson 3 Checking the Registration（その１）診察券を確認する
第７回　AL 6	Lesson 3 Checking the Registration（その２）診察券を確認する
第８回	Lesson 1～Lesson 3の復習
第９回	Lesson 4 Finding the Way　院内案内（その１）
第10回　AL 6	Lesson 4 Finding the Way　院内案内（その２）
第11回	Lesson 5 Personal History　病歴（その１）
第12回　AL 6	Lesson 5 Personal History　病歴（その２）
第13回	Lesson 6 Daily Activities　生活習慣（その１）
第14回　AL 6	Lesson 6 Daily Activities　生活習慣（その２）
第15回	Lesson 4～Lesson 6の復習
第16回	Lesson 7 More about Daily Activities　詳細な生活習慣（その１）
第17回	Lesson 7 More about Daily Activities　詳細な生活習慣（その２）
第18回　AL 6	Lesson 7 More about Daily Activities　詳細な生活習慣（その３）
第19回	Lesson 8 Asking about Symptoms　症状について（その１）
第20回　AL 6	Lesson 8 Asking about Symptoms　症状について（その２）
第21回	Lesson 9 More about Symptoms　詳細な症状について（その１）
第22回　AL 6	Lesson 9 More about Symptoms　詳細な症状について（その２）
第23回	Lesson 7～Lesson 9復習
第24回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight　血圧と体重測定（その１）
第25回　AL 6	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight　血圧と体重測定（その２）
第26回	Lesson 11 Laboratory Specimens　検査用検体について（その１）
第27回　AL 6	Lesson 11 Laboratory Specimens　検査用検体について（その２）
第28回	Lesson 12 Taking Medicines　薬剤服用について（その１）
第29回　AL 6	Lesson 12 Taking Medicines　薬剤服用について（その２）
第30回	Lesson 10～Lesson 12の復習

成績評価方法	定期試験（レポート）50%　成果物 30%　小テスト 20%					
教科書	『How Are You Feeling Today?　優しい看護英語』助川尚子編　成美堂					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	学習する内容や単語について調べておく（45分)。					
事後学習(内容･時間)	学習した単語や英語表現について必ず復習する（45分)。					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の動画の中で説明する。					
備考				**オフィスアワー**	チャットにて随時受け付けます。	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ (Listening & Speaking 2)	毛利　郁子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22301

科目の概要

看護に関する語彙を使った会話文を使用し、リスニングやスピーキングをとおして英会話能力を高めることを目標とする。日本語を解しない患者へのコミュニケーションの取り方（症状、体調、治療に対する希望や不満、薬の飲み方の説明や治療上必要な注意事項、患者の症状、病名、治療法の説明、病院内の案内等）について、必要な英語表現を教授する。

到 達 目 標

●医療現場で想定される英会話力を習得し、会話することができる。
●医療・看護に必要な英語の語彙を身につけ、記述または説明することができる。
●医療・看護の様々な場面に使用できるような英語表現を習得しコミュニケーションをはかることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション&Unit 1-1 Hospital Admission　入院患者に対応する　その１
第２回　AL 3	Unit 1-2 Hospital Admission　入院患者に対応する　その２
第３回	Unit 2-1 The Nurse's Role　看護師の役割を伝える　その１
第４回　AL 3	Unit 2-2 The Nurse's Role　看護師の役割を伝える　その２
第５回	Unit 3-1 Life in the Hospital　患者から生活習慣の情報収集をする　その１
第６回　AL 3	Unit 3-2 Life in the Hospital　患者から生活習慣の情報収集をする　その２
第７回	Unit 4-1 Taking Vital Signs 1　生命兆候を測定する（体温・脈拍・呼吸）その１
第８回　AL 3	Unit 4-2 Taking Vital Signs 1　生命兆候を測定する（体温・脈拍・呼吸）その２
第９回	Unit 5-1 Taking Vital Signs 2　生命兆候を測定する（血圧）その１
第10回　AL 3	Unit 5-2 Taking Vital Signs 2　生命兆候を測定する（血圧）その２
第11回	Unit 6-1 Providing Meal Assistance　食事介助・治療食の説明をする　その１
第12回　AL 3	Unit 6-2 Providing Meal Assistance　食事介助・治療食の説明をする　その２
第13回	Supplement 1
第14回	Supplement 2
第15回	前期総復習
第16回	前期講義および課題の振り返り
第17回	Unit 7-1 Rehabilitation 1　片麻痺患者のリハビリ（起き上がりの介助をする）その１
第18回　AL 3	Unit 7-2 Rehabilitation 1　片麻痺患者のリハビリ（起き上がりの介助をする）その２
第19回	Unit 8-1 Rehabilitation 2　片麻痺患者のリハビリ（車椅子への移動をする）その１
第20回　AL 3	Unit 8-2 Rehabilitation 2　片麻痺患者のリハビリ（車椅子への移動をする）その２
第21回	Unit 9-1 Shampooing in Bed　ベッドで洗髪する　その１
第22回　AL 3	Unit 9-2 Shampooing in Bed　ベッドで洗髪する　その２
第23回	Unit 10-1 Foot-bath　足浴をする　その１
第24回　AL 3	Unit 10-2 Foot-bath　足浴をする　その２
第25回	Unit 11-1 Taking Blood Sample　採血をする　その１
第26回　AL 3	Unit 11-2 Taking Blood Sample　採血をする　その２
第27回	Unit 12-1 Outpatient Clinic　食事療法や運動について指導する　その１
第28回	Unit 12-2 Outpatient Clinic　食事療法や運動について指導する　その２
第29回　AL 3	Unit 12-2 Outpatient Clinic　食事療法や運動について指導する　その３
第30回	後期総復習

成績評価方法	中間試験・定期試験（筆記）50%　小テスト 30%　成果物 20%
教科書	『Health Talk English for Hands-on Nursing』渡邉容子、山本淳子他（ピアソン・ジャパン株式会社）
参考文献	なし
事前学習(内容･時間)	次週範囲内の単語調べ（30分）。
事後学習(内容･時間)	授業の復習（１時間）。
フィードバックの方法	小テスト・課題は授業内で解説する。結果は学生に確認してもらう。
備考	**オフィスアワー**　授業の前後

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅲ (Reading 2)	毛利　郁子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22302

科目の概要

リーディングを含めた総合的な英語力をつけることができるように、特に医療・看護に関わる話題についてのリーディングを行います。
近年の急速なグローバライゼーションの進展に伴い、看護分野における英語力の必要性が増す中で、将来、病院などで働く際に求められる医療現場で必要な知識と表現と語彙を教授します。

到 達 目 標

●リーディングを中心に総合的な英語力を習得し英語で医療関連の文献を読むことができる。
●医療に必要な語彙や役立つ知識を英語で習得し、それらを用いて記述または説明することができる。
●看護の為の専門用語や英語表現を習得し、それらを用いて患者様とコミュニケーションをはかる事ができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーションおよびUnit 1-1 What Country is the Fattest in the World?　その１
第２回　AL 3	Unit 1-2 What Country is the Fattest in the World?　その２
第３回	Unit 2-1 What Do We Know about Sleep Talking?　その１
第４回　AL 3	Unit 2-2 What Do We Know about Sleep Talking?　その２
第５回	Unit 3-1 Why are Bug Bites Dangerous?　その１
第６回　AL 3	Unit 3-2 Why are Bug Bites Dangerous?　その２
第７回	Unit 4-1 What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef　その１
第８回　AL 3	Unit 4-2 What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef　その2
第９回	Unit 5-1 How Much Caffeine Can We Take?　その１
第10回　AL 3	Unit 5-2 How Much Caffeine Can We Take?　その２
第11回	Unit 6-1 How Does Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?　その１
第12回　AL 3	Unit 6-2 How Does Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships?　その２
第13回	Unit 7-1 What Can Happen When You Are Too Clean?　その１
第14回　AL 3	Unit 7-2 What Can Happen When You Are Too Clean?　その２
第15回	Review Test 1　Part3　および　Part4
第16回	Review Test 1　Part1　および　Part3
第17回	Review Test 1　Part2
第18回	Unit 8-1 Does Gender Affect Cancer Susceptibility?　その１
第19回　AL 3	Unit 8-2 Does Gender Affect Cancer Susceptibility?　その２
第20回	Unit 9-1 Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?　その１
第21回　AL 3	Unit 9-2 Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age?　その２
第22回	Unit 10-1 What Are the Dangers of a Sweltering Summer?　その１
第23回　AL 3	Unit 10-2 What Are the Dangers of a Sweltering Summer?　その２
第24回	Unit 11-1 Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl of an Early Bird?　その１
第25回　AL 3	Unit 11-2 Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl of an Early Bird?　その２
第26回	Unit 12-1 How Better to Release Your Stress?　その１
第27回　AL 3	Unit 12-2 How Better to Release Your Stress?　その２
第28回	Unit 13-1 What Are the Differences between Real and Robotic Pets?　その１
第29回　AL 3	Unit 13-2 What Are the Differences between Real and Robotic Pets?　その２
第30回	Review Test 2

成績評価方法	定期試験（課題）50%　小テスト 30%　成果物 20%
教科書	『Good Health, Better Life』西原敏明、西原真弓、Tony Brown（金星堂）
参考文献	なし
事前学習(内容･時間)	次週の単語調べ（30分)。
事後学習(内容･時間)	授業の復習（１時間)。
フィードバックの方法	課題・小テストのフィードバックは授業内で解説。
備考	**オフィスアワー**　授業の前後

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅳ (Writing 2)	池田美智子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22303

科目の概要

この授業では、看護師として23年間病院勤務した著者が病院での様々な経験を記録した英語の文章を使って講義する。原文を読み進めることで、文中で用いられる医療器具や治療法の英語表現について説明するとともに、院内で起こりえる事象の英語表現についても説明する。

到 達 目 標

●リーディング、ライティング、リスニングを通じて医療に関する警護の専門知識や用語を見につけ、表現できる。
●汎用性の高い口語表現で述べることができる。
●医療器具や治療法についての英語表現の知識を広げ、英語で説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	Chapter 1 The Quiet Boy　ひとりぼっちの少年（その１）
第２回　AL 4	Chapter 1 The Quiet Boy　ひとりぼっちの少年（その２）
第３回	Chapter 2 Tribulations of a Student Nurse　看護学生の試練（その１）
第４回　AL 4	Chapter 2 Tribulations of a Student Nurse　看護学生の試練（その２）
第５回	Chapter 3 Not Just a 9-to-5 Job　コンピューターから浣腸まで何でもあり（その１）
第６回　AL 4	Chapter 3 Not Just a 9-to-5 Job　コンピューターから浣腸まで何でもあり（その２）
第７回	Chapter 1～3の復習
第８回	Chapter 5 A Proctologist　直腸病専門医（その１）
第９回　AL 4	Chapter 5 A Proctologist　直腸病専門医（その２）
第10回	Chapter 6 A Demanding Orthopedics Patient　整形外科の困った患者（その１）
第11回　AL 4	Chapter 6 A Demanding Orthopedics Patient　整形外科の困った患者（その２）
第12回	Chapter 7 Emergency Ward　救命病棟（その１）
第13回	Chapter 7 Emergency Ward　救命病棟（その２）
第14回　AL 4	Chapter 7 Emergency Ward　救命病棟（その３）
第15回	Chapter 5～7の復習
第16回	Chapter 10 A Doctor's Depression　あるドクターの憂鬱（その１）
第17回　AL 4	Chapter 10 A Doctor's Depression　あるドクターの憂鬱（その２）
第18回	Chapter 11 Alzheimer's Patient　アルツハイマー病（その１）
第19回　AL 4	Chapter 11 Alzheimer's Patient　アルツハイマー病（その２）
第20回	Chapter 12 Brain Damage　脳損傷の男性（その１）
第21回	Chapter 12 Brain Damage　脳損傷の男性（その２）
第22回　AL 4	Chapter 12 Brain Damage　脳損傷の男性（その３）
第23回	Chapter 10～12の復習
第24回	Chapter 14 Urology　泌尿器科（その１）
第25回	Chapter 14 Urology　泌尿器科（その２）
第26回　AL 4	Chapter 14 Urology　泌尿器科（その３）
第27回	Chapter 15 A Paralyzed Cancer Patient　がん患者（その１）
第28回	Chapter 15 A Paralyzed Cancer Patient　がん患者（その２）
第29回　AL 4	Chapter 15 A Paralyzed Cancer Patient　がん患者（その３）
第30回	Chapter 14と15の復習

成 績 評 価 方 法	定期試験（レポート）50%　成果物 30%　小テスト 20%
教　　科　　書	『The Dramas of Hospital Life ある看護師のみた病院生活のドラマ』田中芳文編（三修社）
参　考　文　献	なし
事前学習(内容･時間)	学習する内容の単語等調べておく（45分)。
事後学習(内容･時間)	学習した内容（文法）について復習しておく（45分)。
フィードバックの方法	次回もしくはそれ以降の動画の中で解説する。
備　　考	**オフィスアワー**　チャットにて随時受け付けます。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅰ	渋谷　直樹	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12301

科目の概要

この授業は１年をかけて教科書の前半部分を学びます。旅行でパリに来た日本の女子学生Yumiと、彼女が偶然出会ったフランス人Alexとのフランス語のやり取りを軸にして、初級会話・初級文法が身につけられるよう授業を進めます。またフランスという国に興味を持ってもらうのもこの授業の目的ですので、フランスの文化や歴史、パリの生活風景にも触れると共にフランスに関する映像もお見せします。

到 達 目 標

●自己紹介に関連したさまざまな表現と共に、日常生活で役に立つ会話をフランス語ですることができる。
●自己紹介のために必要な基礎的な文法を習得することで、フランス語で自分についての情報を伝えるだけでなく書くこともできる。
●映像や文化に関するコラムを通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	【イントロダクション】① ガイダンス　② パリの街並みとフランス語
第２回　AL 6	【フランス語の音と綴り（1)】① フランス語と日本語の聞き比べ　② アルファベット　③ 略字とTGV（新幹線）
第３回　AL 6	【フランス語の音と綴り（2)】① 語末の子音字の読み方　② 1音の母音字の読み方
第４回　AL 6	【フランス語の音と綴り（3)】① 鼻母音の発声の仕方　② 2つ以上の母音字の読み方　③ 2つの子音字の読み方
第５回　AL 6	【日常よく使われる表現】① 挨拶　② 受け答え　③ 呼びかけ　④ お礼　⑤ お詫び　⑥ 依頼
第６回　AL 6	【国籍（1)】① 主語人称代名詞　② 動詞《être》「～です」　③ 国籍の言い方
第７回　AL 6	【国籍（2)】①《語彙》「さまざまな国籍」　②《実践》「自分以外の国籍の表現」
第８回　AL 6	【国籍（3)】①《対話》「私は日本人です。」　②《対話》に対する質問　③《文化》「多民族社会フランス」
第９回　AL 6	【名前と職業】① 名前の言い方　② 職業　③《対話》「私の名前はユミと言います。」　④《対話》に対する質問
第10回　AL 6	【数字】①《語彙》「数字（1～30)」　② 動詞《avoir》「持っている」
第11回　AL 6	【年齢（1)】① 年齢の尋ね方　②「私は～歳です」　③《対話》「君はいくつ？」　④《対話》に対する質問
第12回　AL 6	【年齢（2)】①《実践》「自分以外の年齢の表現」　②《文化》「日本人は若作り？」
第13回　AL 6	【人の形容と言語】① 形容詞の一致　②「私は～語を話します。」　③《語彙》「さまざまな言語」
第14回　AL 6	【好みと住まい】①「～が好きです。」　②「～に住んでいます。」
第15回	【前期のまとめ】
第16回	【フランスの童話の世界】① フランスの18世紀　② フランスの童話
第17回　AL 6	【前期のおさらい】①《実践》「名前・国籍・言語を伝える表現」　②《文化》「フランスにおける日本語学習」
第18回　AL 6	【物の尋ね方（1)】① 名詞の性・数　② 不定冠詞
第19回　AL 6	【物の尋ね方（2)】①《語彙》「日常品I」　② 疑問代名詞《que》「何？」　③ 指示代名詞《ce (c')》
第20回　AL 6	【物の尋ね方（3)】①《対話》「これは何ですか？」　②《対話》に対する質問
第21回　AL 6	【物の尋ね方（4)】① 形容詞の位置　②《文化》「宮崎駿のアニメ」
第22回　AL 6	【趣味（1)】① 定冠詞　②《語彙I》「国名」　③《語彙II》「趣味と物」
第23回　AL 6	【趣味（2)】①《対話》「僕は日本が大好きだ！」　②《実践》「とりわけ～が好きです。」
第24回　AL 6	【趣味（3)】① 定冠詞と不定冠詞のおさらい　②《実践》「不定冠詞から定冠詞に変換する表現」
第25回　AL 6	【趣味（4)】① 3通りの疑問文　②《文化》「日本のマンガ・アニメ」
第26回　AL 6	【場所（1)】① 否定文I　②《実践I》「さまざまな動詞の否定文」　③ 疑問副詞《où》「どこ？」
第27回　AL 6	【場所（2)】①《語彙I》「建造物」　②《語彙II》「前置詞」　③《il y a ～》「～があります」
第28回　AL 6	【場所（3)】① 量を表す表現　②《実践II》「物の位置を示す構文」
第29回　AL 6	【場所（4)】①《対話》「ここはどこ？」　②《対話》に対する質問　③《文化》「パリのカルティエ」
第30回	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物（発音・課題）60%　中間試験（筆記）20%　定期試験（筆記）20%			
教科書	『Le Japon, c'est cool！(ル・ジャポン、セ・クール！)』藤田裕二（朝日出版社）			
参考文献	授業中に紹介します。			
事前学習(内容･時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい（30分)。			
事後学習(内容･時間)	次の授業で新しいことを学ぶためには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい（１時間)。			
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明を添えて翌週の授業の初めにお返しします。			
備考	発音と練習問題を毎回します。語学は大変ですが、先ずはフランスという国の文化や伝統を楽しみながら学んで下さい。	**オフィスアワー**	授業では教室で、オンラインではチャットなどで質問を伺います。	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	―	○	△	―	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷　直樹	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22304

科目の概要

この授業では「フランス語Ⅰ」で使用した教科書の後半部分を１年で学びます。パリに来た日本の女子学生Yumiと、彼女が偶然出会ったフランス人Alexとの基本的なフランス語のやり取りをもとに、中級会話・中級文法が身につけられるよう授業を進めます。またフランスという国に興味を持ってもらうため、フランスの文化や歴史、パリの生活風景にも触れると共にフランスに関する映像もお見せします。

到 達 目 標

●自分の考えや欲求のみならず、状況説明や過去の出来事をフランス語で伝えるだけの会話力を獲得することができる。
●会話における中級文法を習得することで、フランス語での簡単な物語を読むだけでなく、文章、手紙、メールを書くことができる。
●映像や文化に関するコラムを通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	【イントロダクション】① ガイダンス　② ワインとシャンパン
第２回　AL 6	【フランス語のおさらい】① 発音　② 日常でよく使う表現
第３回　AL 6	【基本文法のおさらい（1)】① 主語　② 動詞《être》「～です」を使った自己紹介
第４回　AL 6	【基本文法のおさらい（2)】① 動詞《avoir》「持っている」　② 規則動詞《 -er動詞 》
第５回　AL 6	【基本文法のおさらい（3)】① 不定冠詞　② 定冠詞
第６回　AL 6	【パリでの日本食（1)】① 部分冠詞　②《語彙》「食べ物と飲み物」　③ 状況に合わせた冠詞の使い方
第７回　AL 6	【パリでの日本食（2)】① 定冠詞の縮約　②《対話》「お腹減ってない？　③《対話》に対する質問
第８回　AL 6	【パリでの日本食（3)】① 願望・欲求の動詞　②《実践》「食べたい物とレストラン」　③《文化》「レストラン」
第９回　AL 6	【パリの日本専門店（1)】① 所有形容詞　②《語彙》「家族」　③《文化》「日本の生活様式化」
第10回　AL 6	【パリの日本専門店（2)】①《実践》「人称代名詞を用いた家族構成」② 人称代名詞の強勢形
第11回　AL 6	【パリの日本専門店（3)】①《対話》「妹は布団で寝ている。」　②《対話》に対する質問
第12回　AL 6	【買い物（1)】① 指示形容詞《ce》　② 指示代名詞《celui》　③ 疑問副詞《combien》「どれだけ？」
第13回　AL 6	【買い物（2)】① 比較級 ②《対話》「急須が欲しいです。」　③《対話》に対する質問　④《語彙》「日用品II」
第14回　AL 6	【買い物（3)】①《実践I》「比較級を伴う理由の表現」　②《実践II》「値段の表現」　③《文化》「日本製品」
第15回	【前期のまとめ】
第16回	【フランスの遺産】① フランスの文芸　② フランスの歴史的建造物
第17回　AL 6	【ジャパン・エキスポ（1)】① 命令形 ② 中性代名詞《y》　③《語彙》「曜日・月」　④ 日時の表現
第18回　AL 6	【ジャパン・エキスポ（2)】① 補語人称代名詞　②《対話》「行かないの？」　③《対話》に対する質問
第19回　AL 6	【ジャパン・エキスポ（3)】①《実践》「補語人称代名詞を用いた会話」　②《文化》「ジャパン・エキスポ」
第20回　AL 6	【天候（1)】① 代名動詞　② 非人称構文　③《語彙》「天候・時刻」
第21回　AL 6	【天候（2)】① 女性形容詞の特殊な形　②《対話》「暑い！」　③《対話》に対する質問
第22回　AL 6	【天候（3)】①《実践》「各地の時間と天候の報告」　②《文化》「フランスの気候」
第23回　AL 6	【美術館（1)】① 疑問代名詞《qui》「誰？」② 複合過去I　③《語彙》「衣服と色」　④《実践》「買った物」
第24回　AL 6	【美術館（2)】①《対話》「素晴らしい、浮世絵は！」　②《対話》に対する質問　③《文化》「日本趣味」
第25回　AL 6	【バカンス（1)】① 複合過去II ② 否定文II　③ 疑問副詞《comment》「どのように？」　④《語彙》「乗り物」
第26回　AL 6	【バカンス（2)】①《対話》「多くの人がバカンスに出掛けた。」　②《対話》に対する質問
第27回　AL 6	【バカンス（3)】①《実践》「目的地までの交通手段」　②《文化》「フランスと日本のバカンス事情」
第28回　AL 6	【Yumiの帰国（1)】① 単純未来　② 近接未来　③《語彙》「季節と未来」　④ 感嘆文　⑤《実践》「未来の事柄」
第29回　AL 6	【Yumiの帰国（2)】①《対話》「日本に帰国します。」　②《対話》に対する質問　③《文化》「フランスの四季」
第30回	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物（発音・板書）60%　中間試験（筆記）　20%　定期試験（筆記）20%
教科書	『Le Japon, c'est cool！(ル・ジャポン、セ・クール！)』藤田裕二（朝日出版社）
参考文献	授業中に紹介します。
事前学習(内容･時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい（30分)。
事後学習(内容･時間)	次の授業で新しいことを学ぶには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい（１時間)。
フィードバックの方法	練習問題の解答は板書してもらい間違えたところは詳説します。また複雑な文法はまとめたものを配布します。
備考	この授業は既修者が対象ですが、初修者の方でも何度も復習をしながら授業を進めますので心配はいりません。
オフィスアワー	授業では教室で、オンラインではチャットなどで質問を伺います。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	○	△	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅰ	潘　建秀	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12302

科目の概要

中国語の入門クラス。前期の前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点をおいて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確かなものにしたい。後期前半ではより複雑な会話を教授すると同時に、読解練習を通じて語彙を増やすとともに文法を理解できるように指導する。

到 達 目 標

●発音記号（ピンイン）を正しく表記し、発音することができる。
●教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳すことができる。
●授業で学んだ内容を活用し、簡単な文書の作成、会話をすることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス、中国語の特徴、発音の基本　①声調　②単母音
第２回	発音の基本　③複合母音
第３回	発音の基本　①子音
第４回	発音の基本　②鼻母音
第５回　AL 3	発音の基本　①声調の組み合わせ
第６回	発音の基本　②発音の総合的な練習　③小テスト
第７回	第一課　①人称代名詞　②「是」の文
第８回　AL 3	第一課　③「吗」疑問詞　④名前の言い方（協働学習）
第９回	第二課　①動詞が述語になる文　②指示代名詞
第10回	第二課　③疑問詞を使う疑問文　④「的」（協働学習）
第11回	第三課　①形容詞が述語になる文　②所有をあらわす「有」
第12回　AL 3	第三課　③反復疑問詞　④副詞「也」と「都」（協働学習）
第13回	第四課　①場所をあらわす代名詞　②存在をあらわす「在」
第14回	第四課　③動詞の重ね型　④省略疑問文を作る「呢」（協働学習）
第15回	中国文化紹介と中間試験及び解説
第16回	第五課　①数詞　②量詞
第17回　AL 3	第五課　③「几」と「多少」　④語気助詞「吧」（協働学習）
第18回	第六課　①存在をあらわす「有」　②連動文
第19回	第六課　③月日、曜日　④時刻（協働学習）
第20回	第七課　①助動詞「要」「想」　②介詞「在」「从」
第21回　AL 3	第七課　③完了をあらわす「了」（協働学習）
第22回	中国文化紹介と小テスト
第23回	第八課　①助動詞「能」「会」「可以」　②経験をあらわす「过」
第24回	第八課　③時間の長さのあらわし方（協働学習）
第25回	第九課　①介詞「給」「対」　②動詞の進行をあらわす「正」「在」「正在」
第26回	第九課　③動作・状態の持続をあらわす「着」
第27回	第十課　①結果補語　②動作の状態や程度の表現
第28回	第十課　③「还是」を使う選択式疑問文
第29回	総合練習、中国文化紹介
第30回	最終試験及び解説

成績評価方法	期末試験（筆記）40%　中間試験（筆記及び実技）30%　小テスト 30%					
教科書	『中国語ポイント42』本間史、孟広学（白水社）					
参考文献	授業中に指示します。					
事前学習(内容･時間)	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	毎回習った会話文を復習しておく（１時間)。					
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います。					
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう。			**オフィスアワー**	授業の前後	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	―	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘　山海	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22305

科目の概要

本科目は中国語会話の基礎作りを終えた初級者や、基礎が未だ弱い中国語初心者に向ける医療系中国語基礎コースである。教員が学生に中国語基礎知識や会話基本表現を教えながら、保健医療の場面別に活用される中国語単語を説明・朗読練習して、保健医療系の実践的な基礎中国語会話を教授する。また、場面に合わせて中国の文化・習慣や医療・看護の現状知識も紹介する。

到 達 目 標

●中国語発音能力の必須項目「四声」と「拼音一覧表」を暗唱することができ、活用できる。
●場面別の保健医療系の実践的な基礎中国語表現と基礎会話技能を習得できる。
●中国の文化・習慣や医療・看護の現状についての知識を述べられる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス(学習注意事項等を説明)： 名前を中国語で読む練習/基本挨拶復習
第２回	中国語基本知識(発音復習一)：「四声」と「拼音一覧表」をスラスラ読めるように音声練習する
第３回	中国語基本知識(発音復習二)：「四声」と「拼音一覧表」を暗唱できるように繰り返し読み書きする
第４回　AL 3	第一課：保健医療系場面別会話を始めよう(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第５回　AL 3	第一課：保健医療系場面別会話を始めよう(その二：自己紹介・挨拶・会話学習・練習)(グループワーク)
第６回　AL 3	第二課：あなたは中国人ですか？（その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第７回　AL 3	第二課：あなたは中国人ですか？（その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第８回　AL 3	第三課：健康保険証を持っていますか？（その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第９回　AL 3	第三課：健康保険証を持っていますか？（その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第10回　AL 3	第四課：ご家族にはどんな人がいますか？（その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第11回　AL 3	第四課：ご家族にはどんな人がいますか？（その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第12回　AL 3	第五課：あそこで少しお待ちください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第13回　AL 3	第五課：あそこで少しお待ちください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第14回　AL 3	第六課：外国語は少し話せます。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第15回　AL 3	第六課：外国語は少し話せます。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)；小テスト実施
第16回　AL 3	第七課：検査室に行って検査を受けてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第17回　AL 3	第七課：検査室に行って検査を受けてください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第18回　AL 3	第八課：どうしましたか？（その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第19回　AL 3	第八課：どうしましたか？（その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第20回　AL 3	第九課：口を開けてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第21回　AL 3	第九課：口を開けてください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第22回　AL 3	第十課：この薬を飲んだことがありますか？（その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第23回　AL 3	第十課：この薬を飲んだことがありますか？（その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第24回　AL 3	第十一課：服をあそこにおいてください。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第25回　AL 3	第十一課：服をあそこにおいてください。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第26回	いろいろな言葉の追加学習・練習（その一：身体各部位と趣味・生活用語表現)
第27回　AL 3	第十二課：病状はずっと良くなりました。(その一：新出語句学習・練習、文法学習・練習)(グループワーク)
第28回　AL 3	第十二課：病状はずっと良くなりました。(その二：会話学習・練習、基礎翻訳練習)(グループワーク)
第29回　AL 3	いろいろな言葉の追加学習・練習（その二：病名病状と検査・治療用語表現）(グループワーク)
第30回　AL 3	全書の復習と任意会話・通訳練習及び会話実技テストの準備指導。(グループワーク)

成績評価方法	定期試験（実技）70%　小テスト 30%
教科書	『医療系学生のための初級中国語』山田眞一（白帝社）
参考文献	必要に応じてその都度プリントを配布する。
事前学習(内容･時間)	授業に出る前に教科書とノートで既習内容を復習し、次回の内容を予習すること（30分)。
事後学習(内容･時間)	授業で既習内容を復習し、宿題を完成すること（１時間)。
フィードバックの方法	宿題は授業内で確認・訂正します。小テストは授業内で解説します。
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。朗読練習やグループワークには積極的に参加しよう。宿題・課題は必ず完成しよう。
オフィスアワー	授業終了後30分、質問を受け付ける。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ビジネス中国語	潘　建秀	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12303

科目の概要

初めて中国語を勉強する方やある程度中国語を学んだ人のためのビジネス中国語入門コースである。中国語の基本知識や発音から始まり、基本文法と基礎会話を導入する。ビジネスに欠かせない中国語を段階的に学べる簡単な中国語会話を教授する。例えば、接待用語、連絡用語、依頼や約束等の商談用語を通じてビジネス中国語の基礎を固められるよう指導する。

到 達 目 標

●発音記号（ピンイン）を正しく表記し、発音することができる。
●教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳すことができる。
●中国語での簡単な文書の作成や初級のビジネスコミュニケーション能力を身につけることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス、基本知識、発音と文法特徴、ピンイン紹介、母音の特徴①単母音
第２回	子音、軽声
第３回	母音の特徴②複合母音
第４回	母音の特徴③鼻母音
第５回　AL 3	声調変化と発音の総合練習
第６回	総合練習及び小テスト・解説
第７回	第一課　①人称代名詞　②「是」の文
第８回　AL 3	第一課　③「吗」疑問文　④名前の言い方
第９回	第二課　①動詞述語文　②場所代名詞
第10回	第二課　③疑問詞を使う疑問文　④「先…然后」
第11回	第三課　①形容詞述語文　②指示代名詞
第12回　AL 3	第三課　③反復疑問文　④副詞「也」　⑤構造助詞「的」
第13回	第四課　①動詞「有」　②助数詞
第14回	第四課　③動詞の重ね型　④数字
第15回	中間試験及び解説
第16回	中国文化の紹介、前期授業についてのまとめ練習
第17回	第五課　①時刻の言い方　②名詞述語文
第18回　AL 3	第五課　③「了」　④所在を表す「在」　⑤動詞+　「一下儿」
第19回	第六課　①前置詞「在」　②「(一) 边…（一）边…」
第20回	第六課　③「快/要…了」　④存現文　⑤動詞＋过
第21回	総合練習及び小テスト・解説
第22回	第七課　①時間詞
第23回　AL 3	第七課　②「要」「得」＋動詞
第24回	第七課　③「打算」「想」＋動詞　④時間量補語　⑤選択疑問文「是～还是」
第25回	第八課　①方位詞　②連動文
第26回　AL 3	第八課　③介詞「从」「到」「离」　④「(是) …的」　⑤度量衡
第27回	第九課　①「一…就」　②（有）多＋形容詞
第28回	第九課　③副詞「就」「才」　④概数表現　⑤比較表現
第29回	中国の社会の紹介、総合練習
第30回	中国文化の紹介、中国の最終試験及び解説

成績評価方法	期末試験（筆記）40%　中間試験（筆記）30%　小テスト 30%						
教科書	『仕事のための基礎中国語』荘嚴、佐藤貴子（金星堂）						
参考文献	授業中に指示します。						
事前学習(内容･時間)	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく（１時間)。						
事後学習(内容･時間)	毎回習った会話文を復習しておく（１時間)。						
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います。						
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう。				**オフィスアワー**	授業の前後	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	△	—	△	○	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅰ	中川　光	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12304

科目の概要

イタリア語の文法を解説し、練習問題を通して理解を深めてもらいます。また会話表現も並行して習得してもらい、実用的な力も養ってもらうと同時に、実際に使われている表現の中で文法が機能していることを説明します。イタリア語を通してわかる日本との考え方の違いなどにも触れていきます。

到 達 目 標

●イタリア語の基本的な仕組みを理解し、簡単な文章を記述することができる。
●イタリア旅行に使えるレベルの表現を発話できる。
●イタリア語を正しく発音できるようになる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション　受講時の注意事項　イタリア語・イタリアの紹介
第２回	発音と読み方・挨拶表現
第３回	文法：名詞　会話表現：近況をたずねる表現・自己紹介
第４回	文法：冠詞　会話表現：お礼の表現・声かけ
第５回	文法：動詞essere・形容詞（１）　会話表現：状況を表す
第６回	文法：動詞essere・形容詞（２）　会話表現：お詫び
第７回	文法：動詞essere・形容詞（３）　会話表現：値段の尋ね方
第８回	文法：動詞avere・fare（１）　会話表現：数字の言い方
第９回	文法：動詞avere・fare（２）　会話表現：希望を伝える
第10回	文法：動詞avere・fare（３）　会話表現：感情を伝える
第11回	文法：規則動詞（１）　会話表現：予定を伝える
第12回	文法：規則動詞（２）　会話表現：必要性を訴える
第13回	文法：規則動詞（３）　会話表現：好みを言う
第14回	文法：規則動詞（４）　会話表現：ものを尋ねる
第15回	中間テストとその解説
第16回	前期の復習
第17回	文法：所有形容詞　会話表現：場所を尋ねる
第18回	文法：指示形容詞　副詞　会話表現：有無を尋ねる
第19回	文法：再帰動詞（１）　会話表現：どれか尋ねる
第20回	文法：再帰動詞（２）　会話表現：手段を尋ねる
第21回	文法：再帰動詞（３）疑問詞　会話表現：所要時間を尋ねる
第22回	文法：不規則動詞（１）　会話表現：所有を尋ねる
第23回	文法：不規則動詞（２）・冠詞前置詞　会話表現：依頼する
第24回	文法：不規則動詞（３）　会話表現：許可を求める
第25回	文法：非人称si　目的代名詞（１）　会話表現：時間を尋ねる
第26回	文法：目的代名詞（２）　会話表現：曜日日付を言う
第27回	文法：数詞・時間表現　会話表現：聞き返す
第28回	文法：疑問詞　会話表現：励ましの表現・天候表現
第29回	文法：近過去　会話表現：困ったときの表現
第30回	期末テストとその解説

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）50%　成果物 50%
教科書	配信資料（自分でプリントアウトして持っておくことが望ましい。）
参考文献	『イタリア語がびっくりするほど身につく本』鶴田真子美（あさ出版）
事前学習(内容･時間)	テキスト（電子配布されたプリント）をあらかじめ読んでおく（約30分)。
事後学習(内容･時間)	例文の音読暗唱、単語の綴り書き（約30分)。
フィードバックの方法	課題は毎回添削して学生が閲覧できる形にする。
備考	**オフィスアワー**　質問等はTeamsのチャット上で受け付ける。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松　寛明	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22306

科目の概要

イタリア語の基本的な文法と語彙の復習をしながら、文章を読み、書き、聞き取り、話す能力を養成する。特に動詞の変化は文法の最重要事項なので徹底的に指導する所存である。なお、各メディアを利用して、受講生のみなさんが興味を持てそうなイタリアの情勢を紹介し、語学プラス・アルファの授業を展開する。

到 達 目 標

●つづり字を正確に発音できる。
●平易な文章を読めるようになる。
●平易な内容を聞き取れるようになる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	つづり字と発音の復習
第２回	注意すべきつづり字と発音
第３回	名詞の変化の復習
第４回	注意すべき名詞の変化
第５回	冠詞と形容詞の復習・小テスト
第６回	注意すべき冠詞・形容詞の変化
第７回	基本動詞の復習（現在形）
第８回	不規則則動詞の復習（現在形）・小テスト
第９回	動詞の現在形で書かれた文章の読解・聞き取り①
第10回	動詞の現在形で書かれた文章の読解・聞き取り②
第11回	動詞の現在形で書かれた文章の読解・聞き取り③小テスト
第12回	前期の内容の総復習
第13回	前期内容のまとめ／前期学科試験
第14回	前期学科試験の解答・解説第
第15回	比較級
第16回	近過去の復習
第17回	注意すべき近過去の復習
第18回	半過去の復習
第19回	注意すべき半過去の復習
第20回	遠過去の復習
第21回	注意すべき遠過去の復習
第22回	過去時制のまとめ・小テスト
第23回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り①
第24回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り②
第25回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り③小テスト
第26回	命令法
第27回	条件法
第28回	接続法
第29回	後期の内容の総復習・後期学科試験
第30回	後期学科試験の解答・解説

成績評価方法	定期試験（筆記）50%　小テスト 30%　成果物 20%					
教科書	『ア・ゾンゾ』一ノ瀬俊和（朝日出版社）					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	週に１時間程度、単語調べなど。					
事後学習(内容･時間)	例文・練習問題を音読し書写しながら復習すること（１時間)。					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点の上、解答・解説を配布する。					
備考				**オフィスアワー**	授業終了後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅰ	神竹　道士	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12305

科目の概要

初級ドイツ語の基礎文法を講義する。特にドイツ語の綴りと発音については、初めて学ぶ言語ということもあり、できるだけ詳しく説明する。文法については、最も重要な動詞の人称変化と名詞の性・数、そして冠詞の格変化を中心として、必要最小限の基礎事項にとどめる。覚えるより慣れることに重点を置いた分かりやすい講義をする。

到 達 目 標

●ドイツ語の綴りと発音についての基礎知識を習得し、ドイツ語の単語が正しく読めるようになる。
●ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、ドイツ語の簡単な文章構造について理解できる。
●簡単な内容の文章をドイツ語で発信できるようになる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	導入：前期授業の概説と評価方法に関する説明。
第２回	ドイツ語のアルファベート。
第３回	ドイツ語の綴りと発音：母音と変母音。
第４回	ドイツ語の綴りと発音：子音と外来語。
第５回	挨拶、曜日、季節、月の名。
第６回	数詞：基数と西暦。小テストの実施。
第７回	人称代名詞と動詞の人称変化：規則変化。
第８回	人称代名詞と動詞の人称変化：不規則変化。
第９回　AL 4	sein動詞の人称変化。
第10回	名詞の性（男性・女性・中性）と定冠詞。
第11回	名詞の性（男性・女性・中性）と不定冠詞。
第12回	haben動詞の人称変化。
第13回	名詞の単数形と複数形。
第14回	定冠詞類と不定冠詞類。
第15回	前期の学期末試験の実施。
第16回	導入：後期授業の概説と評価方法に関する説明。
第17回	復習：綴りと発音。
第18回	復習：動詞の人称変化。
第19回	定冠詞類の格変化。
第20回	不定冠詞類の格変化。
第21回	人称代名詞の格変化。
第22回　AL 4	格変化のまとめ。小テスト。
第23回	疑問文：決定疑問文。
第24回	疑問文：補足疑問文。
第25回	否定文。
第26回	命令文。
第27回	勧誘文。
第28回	ドイツ語の語順。
第29回	定動詞第2位の原則。
第30回	後期の学期末試験の実施。

成績評価方法	定期試験 80%　小テスト 20%
教科書	『プレーミエ　ドイツ語総合読本　改訂版』神竹・國光・田島（白水社）
参考文献	独和辞典（第１回の授業で紹介）必携
事前学習(内容･時間)	教科書の下調べ（１時間)。
事後学習(内容･時間)	既習事項の再確認（１時間)。
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する。
備考	**オフィスアワー**：対面授業時の昼休みの間（非常勤講師控室）またはTeamsにて随時質問を受け付ける。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	神竹　道士	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22307

科目の概要

初級ドイツ語の基礎会話を講義する。オーストリアからスイスを通ってドイツへ行く楽しい旅の話について書かれたテキストを使い、ドイツ語のやさしい日常会話について説明する。語彙は日常生活に不可欠な範囲に限定し、文法だけの個別練習問題は思い切って割愛する。誰でも習得できるドイツ語会話に特化した授業である。

到 達 目 標

●簡単な挨拶がドイツ語でできる。
●身の回りの生活必需品をドイツ語で言うことができる。
●ごく簡単なドイツ語の質問に、ドイツ語で答えることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	導入：前期授業の概説と評価方法に関する説明。
第２回	ドイツ語のアルファベート。
第３回	ドイツ語の綴りと発音：母音と子音。
第４回	ドイツ語の人名、日本語になったドイツ語。
第５回	ドイツ語の挨拶。
第６回	出身地の聞き方と答え方。
第７回	国籍の聞き方と答え方。
第８回	職業の聞き方と答え方。
第９回	親称のduと敬称のSieの使い分け。
第10回	名前の聞き方と答え方。
第11回　AL 4	小テスト：簡単な自己紹介。
第12回	身の回りの物の名前：飲食物。
第13回	身の回りの物の名前：生活空間。
第14回	身の回りの物の名前：身体部位と衣服。
第15回	前期の学期末試験の実施。
第16回	導入：後期授業の概説と評価方法に関する説明。
第17回	復習：ドイツ語の読み方。
第18回	復習：挨拶。
第19回	文房具。
第20回	買い物。
第21回	レストラン：メニューと注文の仕方。
第22回　AL 4	旅行：道の尋ね方。
第23回	乗り物
第24回	小テスト：場面と状況による表現。
第25回	予定・日程。
第26回	天気。
第27回	時刻の表現。
第28回	健康状態：症状と病名。
第29回	病院：医者・看護師・患者。
第30回	後期の学期末試験の実施。

成績評価方法	定期試験 80%　小テスト 20%					
教科書	『楽しいドイツ語の旅－ペア練習で学ぶ初級ドイツ語－』神竹道士・田島昭洋（朝日出版社）					
参考文献	独和辞典（第１回の授業で紹介）必携					
事前学習(内容･時間)	教科書の下調べ（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	既習事項の再確認（１時間)。					
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する。					
備考				**オフィスアワー**	対面授業時の昼休みの間（非常勤講師控室）またはTeamsにて随時質問を受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	△	○	―

Ⅱ　専門基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論 （生命倫理）	林　貴啓	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

患者の権利、脳死と臓器移植、生殖補助医療、終末期医療、遺伝子医療をテーマに、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題に関して、背景知識と判断材料を提供しつつ、学生が主体的に問題を検討し、意見を交換する場を設ける。こうしたことを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うよう教授する。

到 達 目 標

●倫理に関する知識を深め、説明することができる。
●倫理が問われる医療諸問題について、さまざまな見解を認識し、説明することができる。
●物事を倫理的に考える姿勢を身につけ、自らの考えを述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL2	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第２回　AL2	倫理学の考えかたⅠ―基本編
第３回　AL2	倫理学の考えかたⅡ―さまざまな倫理学説
第４回　AL2	インフォームド・コンセントと看護の視点
第５回　AL2	道徳的想像力
第６回　AL2	安楽死・終末期の治療停止をめぐって
第７回　AL2	脳死と臓器移植
第８回　AL2	人工妊娠中絶をめぐって
第９回　AL2	出生前診断と選択的中絶
第10回　AL2	文献を読んで考える―レポート執筆のためのワークショップ
第11回　AL2	生殖補助医療　Ⅰ―不妊治療をめぐる状況
第12回　AL2	生殖補助医療　Ⅱ―ＡＩＤと代理出産の問題
第13回　AL2	最先端医療の倫理
第14回　AL2	医療とは―看護の見地からの意味
第15回　AL2	死生学の課題

成績評価方法	定期試験（レポート）60%　成果物（各回の小レポート）40%					
教科書	「教科書」という形では特に指定しない。資料は各回に配布する。					
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマに関連する文献を紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティ―宗教なき時代に生死を語る』（京都大学学術出版会）の一読を薦める。					
事前学習(内容･時間)	シラバスに提示した各回のテーマについて、事前に情報を集めておく（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義時に紹介した文献を読み、理解を深める（２時間)。					
フィードバックの方法	質問や各回の提出課題に対しては、次回講義時に配布資料・説明を通してフィードバックする。					
備考	生命倫理は自ら考え、対話することによって初めて自分のものになります。みなさんの主体的・積極的な取り組みを期待します。	**オフィスアワー**	講義時の前30分。またTeamsの「チャット」を利用した質問は随時受け付けます。			
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療行動科学	日高　庸晴	講義	1年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、それに相反する不健康なライフスタイルを変容するためのモデルについて、喫煙や食事、運動、性行動といった具体的事例を例に講義を展開する。講義は人間の行動を包括的にとらえ考えるために心理学・社会学・教育学・保健学など多領域の知見と理論を統合して行う。また、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、理解度を深めることを目指す。

到 達 目 標

●健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方を身に付け、説明できる。
●健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを理解し、述べることができる。
●古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、列挙できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	健康信念モデル・慢性疾患の療養支援
第２回	行動変容のためのコミュニケーション1（基礎編）
第３回	オペラント条件付け・学習理論
第４回	禁煙の行動科学－どうしても煙草がやめられない－
第５回　AL 2	行動変容のためのコミュニケーション2（禁煙）・合理的行動理論・計画的行動理論
第６回	エイズパンデミック－世界・アジア・日本－行動科学的予防アプローチ
第７回　AL 2	多職種チームでHIV陽性者を支えるということ
第８回	義足によるルワンダ支援（外部講師による特別講義）
第９回	セクシュアルマイノリティの健康問題1
第10回	セクシュアルマイノリティの健康問題2
第11回　AL 2	セクシュアルマイノリティの健康問題3
第12回	セクシュアルマイノリティの健康問題4（外部講師による特別講義）
第13回	食行動とダイエット・タイプA行動特性－「忙しい！忙しい！」手帳に用事がビッシリ
第14回　AL 2	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題
第15回	いのちは誰のものか

成績評価方法	定期試験（筆記）100％						
教科書	『もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい１巻』日高庸晴（汐文社）						
参考文献	『もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい２～３巻』日高庸晴（汐文社）						
事前学習(内容･時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（２時間）。						
事後学習(内容･時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（２時間）。						
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を、次回の講義時に全体で共有すると共に、講評します。						
備考	講義中、スマートフォンは机上に置かず鞄にしまうこと。				**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	△	○	○	○	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生涯教育論	伊佐　夏実	講義	2年次 後期	選択	2	30	KSB23101

科目の概要

これからの社会で必要とされる生涯教育（生涯学習）とは何か、生涯教育の理念や意義、役割について学び、今後の生涯教育の在り方についての理解を深めるための内容を講義する。

到 達 目 標

●現代社会における生涯教育の意義や役割についての理解を深め、説明できる。
●これからの生涯学習社会の中で、自己の生涯学習に取り組むスキルや方法を類別できる。
●生涯教育に関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	イントロダクション　生涯にわたる人間形成
第２回　AL 2	生涯教育の理念と思想
第３回　AL 2	生涯学習の多様な学習方法①
第４回　AL 2	生涯学習の多様な学習方法②
第５回　AL 2	子どもを育てる地域コミュニティ
第６回　AL 2	南北問題やグローバルな課題への取り組み①
第７回　AL 2	南北問題やグローバルな課題への取り組み②
第８回　AL 2	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割①
第９回　AL 2	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割②
第10回　AL 2	メディア・リテラシー①
第11回　AL 2	メディア・リテラシー②
第12回　AL 2	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割①
第13回　AL 2	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割②
第14回　AL 2	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割③
第15回　AL 2	これからの生涯教育（生涯学習）を構想する

成績評価方法	成果物 60%　定期試験（レポート）40%						
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。						
参考文献	『よくわかる生涯学習』香川正弘ほか編（ミネルヴァ書房）						
事前学習(内容･時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時までに提出すること（２時間)。						
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します。						
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	○	○	○	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	フルイ　ミエコ	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

この教科では「アートによる癒し」について、創造と享受の二方向から取り上げて説明します。特に学生自身が表現者としての喜びを実感しながら学ぶことを重視し、主に臨床美術の手法に基づく作品制作と作品を介したアートコミュニケーションを実施し、看護の場で生かせる感性と技術を教授します。

到 達 目 標

●アートの役割と可能性について自分の言葉で説明できる。
●色や形など美術の造形を楽しみ、感じるままに表現することができる。
●自分の感性と学習した手法でアートを看護に活かすことができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 5	授業概論～癒しと芸術　看護とアートの関わりを考える、創造と享受　作品「感情を描く」
第２回　AL 5	絵は誰でも描ける？（1）臨床美術の理論～右脳モードで描く、作品「線と色で遊ぼう」
第３回　AL 5	絵は誰でも描ける？（2）臨床美術の理論～QOLを高めるアート、十人十色の表現
第４回　AL 5	絵は誰でも描ける？（3）臨床美術の現場から～認知症、高次脳機能障害　作品「アナログフロッタージュ」
第５回　AL 5	絵は誰でも描ける？（4）アートとアートセラピー
第６回　AL 5	絵は誰でも描ける？（5）患者の表現の変化、作品「ストライプコンポジション」
第７回　AL 5	絵は誰でも描ける？（6）モチーフを感じる、作品「りんごの量感画」
第８回　AL 5	アートコミュニケーション（1）I（アイ）メッセージの大切さ　作品「パステル色の空」
第９回　AL 5	アートコミュニケーション（2）観賞会をしてみよう　作品「花火のガラス絵」
第10回　AL 5	アートコミュニケーション（3）制作過程でのコミュニケーション
第11回　AL 5	アートコミュニケーション（4）信じるということ　作品「色面とマチエール」
第12回　AL 5	アートコミュニケーション（5）観賞会をしてみよう　作品「桜を描く」
第13回　AL 5	看護におけるアートの役割（1）こどもとアート、障害者とアート　作品「いろいろ田んぼ」
第14回　AL 5	看護におけるアートの役割（2）いてくれてありがとうの精神、実践を支えるマインドについて
第15回　AL 5	まとめ～癒しと芸術　今を生きるアート

成績評価方法	成果物 70%　小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『認知症医療と芸術のコラボレーション』宇野正威、芸術造形研究所編（金剛出版発行）、 『臨床美術のすすめ』日本臨床美術協会編（日本地域社会研究所発行）					
事前学習(内容･時間)	実技に必要なものを用意する（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	実技作品画像の提出、相互コメント、ミニレポート（２時間)。					
フィードバックの方法	提出された課題について個別にコメントを返却する。質問は次回の授業にて回答する。					
備考	画材は指定のものを使うこと。指示のあるものは各自が事前に用意すること。			**オフィスアワー**	Teamsにて随時受け付けます。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	須田あゆみ	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11102

科目の概要

人は栄養素なくして生きていくことはできない。適正な栄養摂取と食生活は、健康の維持・増進、および疾病の予防・治療・増悪防止の基本であり、すべての人に必要な事である。本授業では、生命維持における栄養の意義、栄養素や食品の栄養的特徴、ライフステージと食、生活習慣病と食、疾病と食について講義する。また、栄養ケア・マネジメント、チーム医療についても講義する。

到 達 目 標

●健康と栄養の関係を理解し、人生各期の栄養の特徴を述べることができる。
●主な病態の栄養管理の特徴と栄養療法を理解し、説明することができる。
●栄養アセスメントの基礎となるBMIの判定や標準体重の算出ができる。その他、エネルギーや食塩量の算出ができる。
●栄養ケアの場における多職種のチームアプローチの重要性を理解した上で、看護専門職の役割について述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回　AL 2	第１章：栄養学を学ぶということ、自分にとって食事はどのような位置付けか（ディスカッション）
第２回	第２章：栄養素の種類と働き（糖質、脂質、タンパク質）
第３回	第２章：栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル・食物繊維・水）
第４回	第３章：食物の消化・吸収
第５回	第３章：栄養素の代謝・排泄
第６回	第４章：エネルギー代謝
第７回　AL 2	第５章：食事と食品（日本人の食事摂取基準）、第10章：食事バランスガイド
第８回	第６章：栄養ケア・マネジメント
第９回　AL 2	第７章：栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、事例検討
第10回	第８章：ライフステージと栄養（乳児期・幼児期・学童期・思春期）
第11回	第８章：ライフステージと栄養（成人期・妊娠期・高齢期）
第12回	第９章：臨床栄養（経腸栄養・静脈栄養法・病院食）
第13回　AL 2	第１～12回の復習と補足
第14回　AL 2	第９章：臨床栄養（疾病・症状別栄養療法：糖尿病、循環器疾患）
第15回　AL 2	第９章：臨床栄養（術後の栄養管理、在宅療養の栄養管理、がん患者の栄養・食事療法）第10章：全体のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）100％					
教科書	『系統看護学講座　人体の構造と機能③　栄養学』中村丁次（医学書院）他適宜資料を配布します。					
参考文献	『ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち④　臨床栄養学』關戸啓子（メディカ出版）					
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（１回２時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業を行った場所について、疑問に思ったことや理解しきれなかったことについて調べておく（１回２時間)。					
フィードバックの方法	定期試験終了後、解答を配布します。					
備考	理解度を把握するために、毎回、感想を記入してもらいます（評価外)。			**オフィスアワー**	対面授業時は授業の前後30分、教室で質問を受け付ける。遠隔授業時はTeamsで随時質問を受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	△	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅰ （人体の構造と機能）	片山　泰一	講義	1年次 前期	必修	2	60	KSB11103

科目の概要

病気（疾病）や障害は、様々な原因で、通常の状態とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、通常の状態を正確に知る必要がある。本科目では、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態（構造）と働き（機能）、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到 達 目 標

●人体の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
●人体の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	はじめに～看護における解剖生理学の位置づけ、歴史、学習の目的等
第２回	解剖生理学のための基礎知識(1)
第３回	解剖生理学のための基礎知識(2)
第４回	栄養と消化と吸収(1)
第５回	栄養と消化と吸収(2)
第６回	栄養と消化と吸収(3)
第７回	栄養と消化と吸収(4)
第８回	呼吸と血液の働き(1)　小テスト1（消化器系）
第９回	呼吸と血液の働き(2)
第10回	呼吸と血液の働き(3)
第11回	血液の循環とその調節(1) 小テスト2（呼吸器系）
第12回	血液の循環とその調節(2)
第13回	血液の循環とその調節(3)
第14回	血液の循環とその調節(4)
第15回	体液の調節と尿の生成(1) 小テスト3（循環器系）
第16回	体液の調節と尿の生成(2)
第17回	内蔵機能の調節(1)
第18回	内蔵機能の調節(2)
第19回	内蔵機能の調節(3)
第20回	身体の支持と運動(1) 小テスト4（泌尿器・内分泌系）
第21回	身体の支持と運動(2)
第22回	身体の支持と運動(3)
第23回	情報の受容と処理(1)　小テスト5（骨・筋肉系）
第24回	情報の受容と処理(2)
第25回	情報の受容と処理(3)
第26回	情報の受容と処理(4)
第27回	身体機能の防御と適応(1)
第28回	身体機能の防御と適応(2)
第29回	生殖・発生と老化の仕組み(1)
第30回	生殖・発生と老化の仕組み(2)

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　小テスト 20%					
教科書	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学』田中越郎（医学書院）、『系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』坂井建雄、岡田隆夫（医学書院）					
参考文献	『得意になる解剖生理』美田誠二（照林社）、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井建雄、橋本尚詞（成美堂出版）、『新版 からだの地図帳』佐藤達夫監修（講談社）、『カラーで学ぶ解剖生理学（第２版）』コメディカルサポート研究会（翻訳）（メディカルサイエンスインターナショナル）、『人体の解剖生理学』遠山正彌他（金芳堂）、『わかりやすい解剖生理』Faller, Schunke 著石川春律他訳（文光堂）、『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.5 血液」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」「vol.8 腎・泌尿器」』（メディックメディア）、『看護師・看護学生のためのレビューブック 2022』（メディックメディア）、６月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』（東京アカデミー）、関連科目で既購入の教科書、その他プリント配布（PDF）					
事前学習(内容･時間)	上記教科書「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学」を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること（30分）。					
事後学習(内容･時間)	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする（1時間）。					
フィードバックの方法	課題については、授業中ないし、Webにてフィードバックする。					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。	**オフィスアワー**	質問はTeamsのチャットにて受け付ける。			

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ （人体の機能と生理）	堅中　泰樹	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

人体を構成する臓器の構造と機能についての説明を行う。筋・骨格系、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、神経系などの構造と機能について、臓器毎に細胞から組織へ、構造と機能との関連を統合的に説明する。

到 達 目 標

●看護学に必要とされる人体の構造を専門用語を使って述べることができる。
●看護学に必要とされる人体の機能を生理学の基礎知識を用いて述べることができる。
●人体構造の知識を使って健康の保持・増進を科学的に推進できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	イントロ・細胞の構造と機能-1
第２回	細胞の構造と機能-2
第３回	からだの支持と運動
第４回	消化器系-1
第５回	消化器系-2
第６回	呼吸器系
第７回	循環器系
第８回	血液とリンパ
第９回	泌尿器系
第10回	内分泌系-1
第11回	内分泌系-2
第12回	内分泌系-3
第13回	感覚器系・神経系-1
第14回	神経系-2
第15回	生殖器系

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄（医学書院）第10版					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	講義予定の部分の教科書を読む（45分)。					
事後学習(内容･時間)	教科書を復習し、資料の確認問題を解く（45分)。					
フィードバックの方法	成果物については、授業で返却します。ショートテストなどでは、授業中に答えを合わせ解説します。					
備考	レポートは返却します。			オフィスアワー	授業の前後（各30分）	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	△	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅰ （総論と主な疾患）	高原　史郎	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、実地に不可欠な器官別での疾患について、疾患の成り立ちやその病理・病態像を、正しく認識することを目的とする。人体が単なる諸器官の集合体ではなく規律ある融合体であることを認識し、疾病における治療看護のあり方を把握できるよう学習する。総論では、医学用語の学修を基盤として横断的な病態病理を、各論では、その発生のメカニズムや予後を学習する。

到 達 目 標

●治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、疾患の成り立ちやその病理・病態像の知識を述べることができる。
●疾患に対する基本的包括的な技術について述べることができる。
●疾患に対する病理学的見地からの考え方を論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	総論１（先天異常、代謝障害・細胞障害、循環障害、内因外因、再生と修復）
第２回	総論２（腫瘍、炎症、移植、老化と個体死）
第３回	総論３（日本の３大死因）
第４回	循環器系疾患１（心疾患）
第５回	循環器系疾患２（血管系疾患）
第６回	消化器系疾患１（消化管疾患）
第７回	消化器系疾患２（消化器臓器疾患）
第８回　AL 2	小テスト・解説（第１回～第７回までの確認）
第９回	呼吸器系疾患１（喘息・腫瘍・感染症など）
第10回	呼吸器系疾患２（喘息・腫瘍・感染症など）
第11回	ホルモン依存性疾患、内分泌系疾患
第12回	造血器系疾患、感覚器系疾患
第13回	腎・泌尿器系疾患・生殖器系疾患性
第14回	脳・神経系疾患
第15回	運動器官系疾患（骨、筋）

成績評価方法	定期試験（筆記）50%　小テスト 30%　成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』田中越郎（医学書院）					
参考文献	『カラーで学べる病理学』渡辺照男編（ヌーヴェルヒロカワ）、『解明　病理学』青笹克之編（医歯薬）					
事前学習(内容･時間)	教科書及びレジメを２回予習すること（30分）。					
事後学習(内容･時間)	講義中に行った小テストについて復習すること（30分）。					
フィードバックの方法	小テストをテスト後に授業内で解説します。					
備考				**オフィスアワー**	Teamsにて随時受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	△	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅱ (内科系)	片山　泰一	講義	1年次後期 2年次前期	必修	2	60	KSB11106

科目の概要

1年次前期で、正常な人体の構造と機能について講義した。本科目では、代表的な内科疾患について、正常な状態からどのように変化して病的状態に至るのか、原因、病態生理、治療法、予後などについて教授する。広範囲に渡るため、各領域別疾患から代表的な疾患をピックアップし、詳しく学習することで、他の疾患についても応用が利くように誘導する。すなわち、病気の発症メカニズムと治療法の関係性に焦点を絞り、様々な疾患に応用できる考え方の修得を目指す。

到 達 目 標

●各器官系について、各々の代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上、他者に説明できる。
●特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、診断基準、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	はじめに～病態生理学の基礎知識、正常と病気の考え方等～
第２回	循環器系疾患(1)
第３回	循環器系疾患(2)
第４回	循環器系疾患(3)
第５回	循環器系疾患(4)
第６回	呼吸器系疾患(1)　小テスト１（循環器系）
第７回	呼吸器系疾患(2)
第８回	呼吸器系疾患(3)
第９回	消化器系疾患(1)　小テスト２（呼吸器系）
第10回	消化器系疾患(2)
第11回	消化器系疾患(3)
第12回	消化器系疾患(4)
第13回	肝臓・胆嚢・膵臓系疾患(1)　小テスト３（消化器系１）
第14回	肝臓・胆嚢・膵臓系疾患(2)
第15回	肝臓・胆嚢・膵臓系疾患(3)
第16回	血液疾患(1)
第17回	血液疾患(2)
第18回	腎疾患(1)
第19回	腎疾患(2)　小テスト４（血液・腎疾患）
第20回	内分泌系疾患(1)
第21回	内分泌系疾患(2)
第22回	代謝性疾患(1)
第23回	代謝性疾患(2)　小テスト５（内分泌・代謝疾患）
第24回	脳・神経系疾患(1)
第25回	脳・神経系疾患(2)
第26回	脳・神経系疾患(3)
第27回	脳・神経系疾患(4)
第28回	免疫関連疾患(1)
第29回	免疫関連疾患(2)
第30回	免疫関連疾患(3)

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　小テスト 20%
教科書	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学』田中越郎（医学書院)、『系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』坂井建雄、岡田隆夫（医学書院）
参考文献	『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.5 血液」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」「vol.8 腎・泌尿器」』(メディックメディア)、『わかりやすい内科学（第４版)』井村裕夫（編集主幹）（文光堂)、関連科目で既購入の教科書、その他プリント配布（PDF）
事前学習(内容･時間)	教科書「系統看護学講座　専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」を中心に進めるが、関連する前期使用した「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学」の教科書、プリントなどにも目を通し、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること（30分)。
事後学習(内容･時間)	講義、配布資料の復習。参考資料、参考図書を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする（１時間)。
フィードバックの方法	課題については、授業中ないし、Webにてフィードバックする。
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。
オフィスアワー	質問はTeamsのチャットにて受け付ける。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅲ （外科系）	高原　史郎	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21102

科目の概要

外科各科に共通する臨床看護学に必要な知識と技術や理念を修得することを目的とした講義をする。特に外科看護の総論に力点をおき、各論では病態治療学Ⅰ（病理学）の内容を基盤とし、外科治療の対象となる疾患とその治療法について講義する。総論では、外科医療に特異的な看護の基礎、周手術期・手術前・手術中・手術後の患者に対する看護、ＩＣＵにおける看護、各論では、頭部、胸部、腹部、四肢、小児に関する外科的疾患及び臓器移植についての理解を促す講義をする。

到 達 目 標

●外科医療の看護、周手術期・手術前・手術中・手術後、ＩＣＵにおける看護及び臓器移植についての知識を述べることができる。
●外科各科の基本的な技術について述べることができる。
●疾患に関する外科的アプローチについての考え方を論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	滅菌法および消毒法
第２回	手術室の構造と機能、手術室業務（手洗い、手術介助、機械だし）
第３回	外科治療上注意すべき術前の合併疾患（感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、肝硬変、慢性腎不全、糖尿病、肥満、免疫不全、精神障害）
第４回	術後合併症１（中枢神経系合併症、循環器系合併症）
第５回	術後合併症２（呼吸器系合併症、消化器系合併症、術後感染症、多臓器不全）
第６回	鏡視下手術
第７回　AL 2	国試過去問　解説
第８回	頭部疾患（外傷、脳出血、脳梗塞）藤岡政行先生
第９回	麻酔
第10回	輸液、輸血、栄養
第11回	腹部疾患１（消化管癌、急性腹症）
第12回	腹部疾患２（肝胆膵）
第13回	胸部疾患（乳癌、心筋梗塞、肺癌、気胸）
第14回	小児外科（小児外科の特徴と術前術後管理）、老人外科（高齢者患者の特徴と術前術後管理）
第15回　AL 6	臓器移植

成績評価方法	定期試験（レポート）50%　小テスト 30%　成果物 20%
教科書	『ナースの外科学』磯野可一編著（中外医学社）
参考文献	『外科系実践的看護マニュアル』川島みどり他（看護の科学社）
事前学習(内容･時間)	教科書及びレジメを２回予習すること（２時間）。
事後学習(内容･時間)	講義中に行った小テストについて復習すること（２時間）。
フィードバックの方法	レポートは採点後、点数表を配布します。小テストはテスト後に授業内で解説します。
備考	**オフィスアワー**　Teamsにて随時受付

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	―	△	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生化学	堀家なな緒	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11107

科目の概要

生化学は生命現象に関わる理を化学的に追究する学問である。生体を構成している化学物質と、それを維持している代謝調節の化学反応を分子レベルで学び、様々な生命現象と病態のしくみについて講義を行う。前半では、生体物質の化学構造とその性質、機能、五大栄養素、遺伝子の発現調節機構について解説する。後半では、ホルモンとシグナル伝達、代謝（合成・分解）の調節を教授すると共に、これらの制御機構の破綻によってもたらされる疾患の発症機序が理解できるよう概説する。

到 達 目 標

●五大栄養素を中心とした生体を構成、調節する物質の基本構造と性質を述べることができる。
●栄養素からエネルギーを獲得する代謝系全体が、酵素及びホルモンによってどのように整理・統合されているのかを説明できる。
●肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化等代表的な代謝関連疾患の病因と発病機序について生化学的に論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	生化学を学ぶための基礎知識
第２回	糖質
第３回	脂質
第４回	タンパク質
第５回	ビタミン
第６回	水と無機質
第７回	核酸と遺伝子発現調節
第８回	五大栄養素のまとめ
第９回	ホルモンとシグナル伝達
第10回	糖質代謝
第11回	脂質代謝
第12回	タンパク質代謝
第13回	酵素
第14回　AL 2	三大栄養素の代謝調節
第15回	国家試験対策、生化学の応用

成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記）80%　定期試験（レポート）10%　成果物 10%
教　　科　　書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』三輪一智、中 恵一（医学書院）
参　考　文　献	『イラストでまなぶ生化学』前場良太（医学書院)、『生化学きほんノート』浅賀宏昭（南山堂)、『看護に必要なやりなおし生物・化学』時政孝行（照林社)、『超入門生化学・栄養学』穂刈茂ほか（照林社）
事前学習(内容･時間)	次の回の学習のまとめを読み、練習問題を解いておく（１時間)。
事後学習(内容･時間)	小テストで問われた部分と配布資料を照らし合わせて読み、理解し、自分の言葉でまとめる（１時間)。
フィードバックの方法	小テストの解答を解説します。
備　　考	**オフィスアワー**　講義前10分間、講義後30分間

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
薬理学	内海　美保	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

この授業では､臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法を提供するため､薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響を講義する。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意など、薬物療法に関する幅広い視点から授業を行う。第１～２回目の総論では、薬の基本を概説し、第３回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品について疾患を踏まえて講義する。

到 達 目 標

●薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響について説明できる。
●臨床で汎用される医薬品の特徴（体内動態、製剤学的特徴、使用上の注意等）を列挙できる。
●薬物療法の際の看護のポイントを指摘できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	総論（１）
第２回　AL 2	総論（２）
第３回	抗感染症薬（１）
第４回	抗感染症薬（２）
第５回	抗がん剤、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬
第６回	末梢神経系に作用する薬物
第７回	中枢神経系に作用する薬物（１）
第８回	中枢神経系に作用する薬物（２）
第９回	心臓・血管系に作用する薬物（１）
第10回	心臓・血管系に作用する薬物（２）
第11回	血液に作用する薬物
第12回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第13回	物質代謝に作用する薬物
第14回	皮膚科用薬・眼科用薬・消毒薬
第15回	救急の際に使用される薬物、輸液剤・輸血剤

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』吉岡充弘、泉 剛、井関 健 編著（医学書院）					
参考文献	『ＮＥＷ 薬理学』田中千賀子、加藤隆一編著（南江堂）					
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容を教科書で確認しておいてください（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業内容が広範囲に及ぶため、１回の講義に対して、最低２時間以上の復習をしてください。					
フィードバックの方法	成果物については、授業中に解説を行います。					
備考	授業に関するアナウンスはTeamsで行います。質問はTeamsのチャット機能で受け付けます。			**オフィスアワー**	授業の前後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	―	△	○	―	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	白井　文恵	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

微生物が原因で起こる感染症という疾病について、感染に対する生体の防御機構である免疫について講義する。また、感染症を予防するために必要な知識について講義する。

到 達 目 標

●感染症の原因である病原微生物の特徴や感染症という病気の特徴を理解し、説明できる。
●感染に対する生体防御の仕組みについて理解し、説明できる。
●看護職として感染症を予防するための行動を理解し、説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	授業オリエンテーション　微生物と微生物学
第２回	細菌の性質、真菌の性質、原虫の性質、ウイルスの性質
第３回	感染と感染症
第４回	感染源、感染経路からみた感染症
第５回	感染に対する生体防御機構（自然免疫）
第６回	感染に対する生体防御機構（獲得免疫）
第７回	滅菌と消毒、感染症の検査と診断
第８回	感染症の治療
第９回	主な病原微生物による感染症（呼吸器感染症）
第10回	主な病原微生物による感染症（消化器感染症）
第11回	主な病原微生物による感染症（性感染症）
第12回	主な病原微生物による感染症（体表部位感染症）感染症の現状と対策、感染看護（課題提示）
第13回　AL 2	感染症の現状と対策（個人あるいはグループ討論と発表）
第14回　AL 2	感染看護（個人あるいはグループ討論と発表）
第15回	講義のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）100％
教科書	『系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学　疾病のなりたちと回復の促進[4]』南嶋洋一、吉田眞一、永淵正法、齋藤光正、大野真治（医学書院）
参考文献	講義中に適宜提示します。
事前学習(内容･時間)	教科書の授業範囲を読む（30分）。
事後学習(内容･時間)	講義の内容を確認してください（１時間）。
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の疑問点について説明を行います。
備考	**オフィスアワー**　メールにて受け付けます。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	—	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
疫学	日高　庸晴	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21104

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定､分布と発生頻度の測定､自然経過と予後の把握､保健医療および環境（衛生）政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到 達 目 標

●「いつ・どこで・だれが」疾患にかかっているのかといった、基本的な考え方を身に付け、述べることができる。
●疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論を理解し、説明できる。
●現代の健康問題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション、疫学の歴史と定義
第２回	疫学の基礎的な考え方：因果関係や疾病・診断の定義
第３回　AL 6	疫学調査１：研究デザイン、データのバイアス、妥当性と信頼性
第４回　AL 6	コホート研究・生命への警鐘
第５回　AL 6	疫学調査２：研究倫理、質問紙調査方法
第６回	スクリーニングと予防の疫学
第７回	感染症疫学１：主な感染症、要因、流行、予防
第８回	感染症疫学２：注目される新興・再興感染症、関連法規
第９回	感染症疫学３：感染対策の実際
第10回	行動疫学・臨床疫学
第11回	差別と疾病－ハンセン病の歴史
第12回	子どもの健康課題を疫学的視点で読み解く（特別講義）
第13回	国際保健（特別講義）
第14回	環境疫学
第15回	産業疫学・疾病別の疫学動向

成績評価方法	定期試験（筆記）100％						
教科書	『標準保健師講座 別巻２ 疫学・保健統計学』牧本清子（医学書院）						
参考文献	適宜紹介します。						
事前学習(内容･時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（２時間)。						
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を次回の講義で全体でシェアすると共に、講評します。						
備考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	△	○	○	△	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と情報 (保健統計)	日高　庸晴	講義 演習	3年次 前期	必修	2	30	KSB31201

科目の概要

医療従事者は常に先端の医療知識を身につける必要があり、さらに情報開示やインフォームド・コンセントの形成に対する強い社会的要請、密接な情報交換に基づく信頼形成等も求められている。これらに対応すべく現代の医療と情報について教授する。具体的にはEBMという現代医療における情報活用方法、プライバシー保護や医療情報システムについて概説する。さらに医療情報や公の統計情報などの医療情報を獲得する技術を身につけるために、国民衛生の動向や医学中央雑誌、PubMEDなど情報リソースを活用した情報収集とその整理・分析方法を理解し、収集したデータの集計およびプレゼンテーション方法を教示する。

到 達 目 標

●医療に関する情報をアクティブに収集していくことの重要性を理解し、実施できる。
●医療に関する情報の収集の過程で、情報にはクオリティがあることを知り、その重要性を述べることができる。
●医療に関する情報のクオリティと善し悪しを見分け、最善の情報収集技術について述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション－健康や保健医療に関する情報、情報リテラシーとは
第２回	EBMの理念
第３回	医療情報の検索のために（1）
第４回	医療情報の検索のために（2）
第５回　AL 6	医療情報の検索のために（3）
第６回　AL 6	医療情報の検索のために（4）
第７回　AL 6	医療情報の検索のために（5）
第８回	よりよい医療情報の選択のために
第９回	公衆衛生に関する保健統計（1）　インフルエンザをはじめとする感染症の疫学と対策
第10回	公衆衛生に関する保健統計（2）　公衆衛生と人権　これまでにあった事例から
第11回	子どもの虐待の現状とその支援について－医療情報としての統計資料をもとに－
第12回	思春期の健康課題とSNS
第13回	公衆衛生に関する保健統計（3）
第14回	労働者の職場環境や職業性ストレスとワークライフバランス（1）
第15回	労働者の職場環境や職業性ストレスとワークライフバランス（2）

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜配布資料を用意します。					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容･時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（２時間)。					
フィードバックの方法	プレゼンテーションについて講義時に全体でシェアすると共に、講評します。					
備考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康	大本　友香	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSB33201

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを体験することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到 達 目 標

●運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
●身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
●自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより､身体のバランスを整えるための技術を習得する。
●実技を通し、コミュニケーション力・チーム力及びリーダーシップ力を高め発揮できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動とフットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動①
第２回　AL 3	殿部の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動②
第３回　AL 3	脚後面の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動③ 脚前面の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動④
第４回　AL 3	下肢に関わる筋肉①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第５回　AL 3	内転に関わる筋肉①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第６回　AL 3	腹部の筋肉から胸、肩周辺の筋肉①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操①
第７回　AL 3	腹部の筋肉から胸、肩周辺の筋肉①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操②
第８回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操③
第９回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操④
第10回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑤
第11回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑥
第12回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第13回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第14回　AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑨
第15回　AL 4	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験（実技）60%　小テスト 40%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕（西東社)、『筋肉のしくみ・はたらき事典』左明・山口典孝（西東社)、『筋肉と関節しくみと動きが見える事典』末吉勝則・中田康夫（永岡書店）					
事前学習(内容･時間)	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業で行ったワークを１つでも実践し、確認する（２時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します。					
備考	水分を補給しながらの実技なので水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなもの用意。			**オフィスアワー**	授業後15分	

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅰ （入門編）	吉田　浩	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

この授業ではコンピュータを使用した情報の取り扱いに必要な基本的な知識と技術を概説し､情報をまとめる技術を実技演習を通して修得させる｡また情報をやり取りする時に気を付けなければならないセキュリティーの知識やマナーも合わせて説明し、安全なコミュニケーションのあり方を考察させる。

到 達 目 標

●情報を伝え合うツールとしてのコンピュータを正しく操作できる。
●基本ソフトウエア（Word, Excel, PowerPoint）を使って情報をまとめて作成できる。
●ネットも含めたコンピュータによるコミュニケーションにおいて必要な知識やマナーを説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	コンピュータの基本操作その１／Wordの基礎 -テキスト入力-
第２回	コンピュータの基本操作その２／Wordの基礎 -テキスト入力の応用-
第３回	コンピュータの応用操作その１／Wordの基礎 -文章のレイアウト-
第４回	コンピュータの応用操作その２／Wordの基礎 -表の操作-
第５回	ネットワークのマナーその１／Wordの基礎 -オートシェイプ-
第６回	ネットワークのマナーその２／Wordの基礎 -アプリケーションとの連携-
第７回	メディアリテラシー／Excelの基礎 -データ入力の基礎-
第８回	情報セキュリティその１／Excelの基礎 -データ入力の応用-
第９回	情報セキュリティその２／Excelの基礎 -表のレイアウト-
第10回	情報セキュリティその３／Excelの基礎 -数式の計算とグラフの作成-
第11回	１～10回授業のまとめの実技課題
第12回	プレゼンテーションのポイント１／Power Pointの基礎 -スライド作成-
第13回	プレゼンテーションのポイント２／Power Pointの基礎 -スライドのデザイン-
第14回	プレゼンテーションのポイント３／Power Pointの基礎 -スライドの画面転換の効果-
第15回　AL 4	プレゼンテーションについて考える／Power Point -スライドショーを作成する-、プレゼンテーション資料作成

成績評価方法	成果物 50%　小テスト 50%					
教科書	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office365®・Office2019対応』(noa出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	前回の授業の内容を復讐し習得しておくこと（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	毎回の授業時に復習用の課題（小テスト）を出題するので、それらに回答し提出すること（２時間)。					
フィードバックの方法	提出された課題にコメントをつけて返却する。					
備考	授業に対する主体的な態度を望みます。			**オフィスアワー**	授業終了後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ （応用編）	吉田　浩	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

情報処理Ⅰで習得した知識・技術を基に「Power Point」を活用したプレゼンテーションが最終目標です。プレゼンターと聴衆がコミュニケーションを十分に取れるような“プレゼント”としてのメッセージを各自が整理しまとめ、それらを伝えるためのスライド（発表資料）制作に必要な方法論をポイントを絞って指導します。

到 達 目 標

●ブレーンストーミングを通じて、伝えるべき情報を整理し、それらをまとめられる。
●プレゼンテーションに必要なスライド制作をシンプルかつ大胆に行う方法を理解し、発表資料を作成することができる。
●聴衆との十分なコミュニケーションのとれたプレゼンテーションが行える。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション（授業の進め方とプレゼンテーションの基礎概説）
第２回　AL 2	プレゼンテーションの準備1（アイデアを提案する）／ブレーンストーミング
第３回　AL 2	プレゼンテーションの準備2（独創的なアイデアとは）／ブレーンストーミング
第４回　AL 2	プレゼンテーションの準備3（中心となるメッセージ）／ブレーンストーミング
第５回	プレゼンテーションの準備4（意味のあるプレゼン）
第６回	プレゼンテーションの資料制作1（物語の演出）
第７回	プレゼンテーションの資料制作2（意思を伝える方法）
第８回	プレゼンテーションの資料制作3（スライドデザイン＝デザインとデコレーション）
第９回	プレゼンテーションの資料制作4（スライドデザイン＝引用句と余白）
第10回	プレゼンテーションの資料制作5（スライドデザイン＝コントラスト・反復）
第11回　AL 4	プレゼンテーションの実践1（ミニプレゼンの実施）
第12回	プレゼンの講評と修正（発表内容と資料のチェック）
第13回　AL 4	プレゼンテーションの実践2（ミニプレゼンの実施）
第14回	プレゼンの講評と修正（発表内容と資料のチェック）
第15回　AL 4	最終プレゼンテーションと総評／プレゼンテーション

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します。					
事前学習(内容･時間)	スライドデザインに必要な資料収集（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	スライドデザインの修正作業（２時間)。					
フィードバックの方法	スライドの提出及びミニプレゼンの後、個別に発表内容について指導します。					
備考	プレゼンテーションに対する真摯な態度を望みます。			**オフィスアワー**	授業終了後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	―	―	○	―

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
福祉情報技術	大西　雅裕	講義・演習	2年次 前期	選択	2	30	KSB23201

科目の概要

電子・情報技術の進歩によって私達の生活は便利で豊かになり、新しい福祉社会を実現しようとする試みが始まった。本講義では、看護をされる側、する側が容易に情報の共有ができるネットワークや障害者・高齢者に使いやすい福祉機器・コミュニケーション支援技術の特質などの現状・将来について講義する。演習を通じて、疑似体験することで理解を深められるように指導する。

到 達 目 標

●コミュニケーション支援に関する福祉情報技術の理論を理解し、概要を述べることができる。
●グループ演習において、コミュニケーション支援の方法を実践できる。
●障害者・高齢者に使いやすい福祉機器について説明することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション　社会福祉と障害者福祉と福祉機器
第２回	社会福祉の定義、概念
第３回	社会福祉の概念とその歴史的展開
第４回	社会福祉の方法
第５回　AL 3	障害者と高齢者の現状①
第６回　AL 3	障害者と高齢者の現状②
第７回	障害者と高齢者のヒューマンインターフェースとは
第８回　AL 3	障害者と高齢者へのコミュニケーション支援
第９回	情報機器のアクセシビリティについて
第10回　AL 3	福祉機器についての情報収集①
第11回　AL 3	福祉機器についての情報収集②
第12回　AL 3	福祉機器についてのグループワーク①
第13回　AL 3	福祉機器についてのグループワーク②
第14回　AL 4	グループ課題別発表会
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）80%　小テスト 20%						
教科書	講義資料によって授業を進める。						
参考文献	特になし。						
事前学習(内容･時間)	授業中に提示する事前課題に取り組む（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	授業の振り返り、授業中に出す課題を必ず行うこと（２時間)。						
フィードバックの方法	課題に対して授業でのフィードバック、あるいはコメントとして返却します。						
備考				**オフィスアワー**	授業での対応とメール等での質問を受け付ける。		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	○	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島　隆志	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSB33101

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなってきている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。バブル崩壊、リーマンショック、企業の倒産、少子化・高齢化の促進等がその要因となっている。本講義により、医療と経済の関係を理解してもらい、効果的・効率的なケアを保証する看護の必要性を説明する。

到 達 目 標

●経済学、行動経済学の基本を理解し、その考え方を述べることができる。
●経済に関わる統計を医療・看護の視点で説明できる。
●行動経済学の考え方を医療・看護への応用例で説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	はじめに　本講義の概要
第２回	経済学の基礎①
第３回	経済学の基礎②
第４回　AL 2	国民医療費の推移、社会保障給付金の現状
第５回	人口動態、世帯構成
第６回　AL 2	人口動態、世帯構成と医療・看護の関係
第７回	医療従事者数、医療施設数の現状
第８回　AL 2	医療と経済のまとめ①
第９回	行動経済学の基礎①
第10回	行動経済学の基礎②
第11回	ナッジとは何か
第12回　AL 2	行動経済学の応用①（仕事への応用）
第13回　AL 2	行動経済学の応用②（医療・健康活動への応用）
第14回　AL 2	行動経済学の応用③（医療・健康活動への応用）
第15回	医療と経済のまとめ②

成績評価方法	定期試験（レポート）80%　成果物 20%					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な資料をダウンロードしていただきます(講義で指示します)。					
参考文献	「行動経済学の使い方」大竹文雄（岩波新書）					
事前学習(内容･時間)	医療・看護の関係をディスカッションするための事前準備（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	ディスカッションについて復習する（２時間)。					
フィードバックの方法	課題等については授業中に返却します。					
備考	講義はしっかり、わかるまで視聴して下さい。			**オフィスアワー**	随時メールで受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
カウンセリング	伊藤　俊樹	講義	2年次 前期	選択	1	30	KSB23102

科目の概要

人間理解に役立つ基本的なこころに関する理論を視聴覚素材を通して具体的に分かりやすく講義し、看護師・保健師にとって必要なカウンセリングマインドを身につけさせる。特に人間における無意識の働きについて詳細に述べ、他者や患者と信頼関係を築き上げるには、どのような態度が必要であるかについて説明する。

到 達 目 標

●無意識が人の行動にどのような影響を及ぼすか、具体例を通じて説明できる。
●カウンセリングの基礎理論を説明できる。
●他者の行動や言葉を通して、他者の気持ちや感情を理解し、説明できるようになる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	カウンセリングの授業に関するオリエンテーション　無意識の働きについて　父性と母性について
第２回　AL 5	映画を通して、父性と母性について学ぶ　1
第３回　AL 5	映画を通して、父性と母性について学ぶ　2
第４回　AL 2	父性と母性という観点からみた人間の行動について
第５回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　1　反動形成について
第６回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　2　愛着について
第７回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　3　解離について
第８回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　4　抑圧について
第９回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　5　転換ヒステリーについて
第10回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　6　基本的信頼感について
第11回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　7　家族関係について
第12回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　8　父娘関係について
第13回　AL 5	映像素材を通してカウンセリングマインドについて学ぶ　9　同一化について
第14回　AL 2	全体のまとめ
第15回	試験及び解説/まとめ、振り返り

成績評価方法	定期試験（筆記）100％					
教科書	特になし（プリントを配布する）。					
参考文献	『カウンセリングの実際問題』河合隼雄（誠信書房）					
事前学習(内容･時間)	講義時に使用する参考文献等を次回の講義までに読んでおくこと（30分）。					
事後学習(内容･時間)	講義時に配布したレジュメを参考にしてノートにまとめる（45分）。					
フィードバックの方法	疑問点等について授業の中で解説します。					
備考	質問時は、積極的に発言し、授業に参加してください。			**オフィスアワー**	授業終了後、適宜質問をうけつける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川章子	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21105

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を教授し、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を説明する。また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを講義する。

到 達 目 標

●医療従事者として理解しておかなければならない社会保障制度を説明できる。
●グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして理解を深め、医療現場で使用できる社会保障制度を述べることができる。
●「人を援助する」ことを学び、適切な援助をディスカッションできる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	社会保障の概念および理念 —— 社会保障とは ——
第２回	出生～乳児期の社会保障 —— 出産費用・出産保障等 ——
第３回　AL 3	幼児期の社会保障 —— 保健所の役割、保育所の役割等 ——
第４回	児童期の社会保障 —— 小学校、中学校、学童保育等 ——
第５回　AL 4	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第６回	青年期前期の社会保障 —— 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ——
第７回　AL 3	青年期後期の社会保障 —— 就労等 ——
第８回　AL 4	青年期の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第９回	成人期前期の社会保障 —— 結婚、出産等 ——
第10回　AL 3	成人期後期の社会保障 —— 子育て等 ——
第11回	老齢期の社会保障 —— 定年、介護等 ——
第12回　AL 4	成人期以降の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第13回	医療保障の概要 —— 医療保障とは・医療保障の種類 ——
第14回	年金制度の概要 —— 公的年金とは・民間年金とは ——
第15回　AL 3	年金制度の概要 —— 障害年金・遺族年金・老齢年金 ——

成績評価方法	定期試験（筆記）50%　成果物 30%　小テスト 20%
教科書	毎講義で講師の方から資料を配布します。
参考文献	『はじめての社会保障』椋野美智子、田中耕太郎（有斐閣）
事前学習(内容･時間)	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと（２時間)。
事後学習(内容･時間)	グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること（２時間)。
フィードバックの方法	個人課題に対するコメントは、次回講義時に返却します。小テストの解答は次回講義時に解説します。
備考	**オフィスアワー**　講義開始30分前

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

Ⅲ　専　門　分　野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅰ （概論）	澤田　京子	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSP11101

科目の概要

本科目では、看護を志す初学者として看護の基本的な考え方を講義する。看護学の発展の歴史的変遷を踏まえ、看護学の基本概念（人間、健康、環境、看護）と看護学の知識体系（理論）について説明し、専門職としての看護の役割と機能について講義する。また、看護実践における倫理的な問題と、専門職業人としての看護職者の責務について講義する。

到 達 目 標

●看護の役割と機能を説明できる。
●看護の対象である人間を、健康という側面から説明できる。
●専門職業人としての看護職者の責務について説明できる。
●看護者に必要な倫理的態度について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス：本看護学科のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ、学習の方法／看護とは
第２回	看護の役割と機能
第３回　AL 3	看護の変遷と看護の役割機能
第４回　AL 2	ナイチンゲール・ヘンダーソンの看護について
第５回　AL 3	看護実践のための理論的根拠（様々な看護理論）事例から看護を考える
第６回　AL 3	看護の対象である人間の理解（統合体として、生活者としての人、家族、地域、ストレス軽減）
第７回　AL 3	健康とは①（健康と病気のとらえ方と人々の健康状態）［事例をもとにグループワーク・発表］
第８回　AL 4	健康とは②（事例を基にグループワーク・発表）
第９回	保健・医療・福祉システム（チームにおける看護の役割）
第10回	看護倫理①（看護における倫理と倫理的課題）
第11回	看護倫理②（事例を基にグループワーク）
第12回	認定看護師の活動について
第13回　AL 3	海外における看護職者の活動について
第14回　AL 3	医療安全への取り組み
第15回	看護の展望　まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%
教科書	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学(1)　看護学概論』志自岐康子他（メディカ出版）、 『看護の基本となるもの』V.ヘンダーソン著、湯槇ます、小玉香津子訳（日本看護協会出版会）、 『ナイチンゲールの＜看護覚書＞　イラスト・図解でよくわかる！』金井一薫編著（西東社）
参考文献	適宜紹介する。
事前学習(内容･時間)	教科書の指定された項目を読んでくること。個人への課題も必ずやってくること（１時間）。
事後学習(内容･時間)	講義およびグループ発表された内容の理解と記憶をすること（１時間）。
フィードバックの方法	成果物（レポート）等は授業の中でコメントし返却する。
備考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅱ （コミュニケーション技術）	北島　洋子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

看護の対象者とその家族は日常とは異なる環境や状況の中にあるため､看護者として関わりを持つとき専門的な高いコミュニケーション能力が求められる。本科目においてはコミュニケーションにおける基本的な知識と技術について教授し､個々の学生のコミュニケーション能力を育成できるよう､グループワークやディスカッションによるインタラクティブな活動を多く取り入れ学習を支援する。

到 達 目 標

●自己理解と他者理解および関係構築のための基礎的知識について説明できる。
●社会の一員として必要な言葉遣いやマナーとチームで活動するために必要な基本的なスキルを身につける。
●看護専門職として対象者と関係構築する際の素地となる気づく力を養う。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	ガイダンス　コミュニケーションを学習する目的と学習方法
第２回　AL 2	コミュニケーションを構成する要素とプロセス
第３回　AL 3	コミュニケーションを構成する要素とプロセス　パーソナルスペース（演習）
第４回　AL 2	自分とのコミュニケーション　自己理解　他者理解　自己受容
第５回　AL 2	自分とのコミュニケーション　自己開示　自己表現　アサーティブコミュニケーション
第６回　AL 2	社会の一員としてのコミュニケーション　社会人基礎力　マナー　対応力　語彙力
第７回　AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション　多職種連携　チームワーク　コミュニケーションエラー
第８回　AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション　コミュニケーション障害と看護
第９回　AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション　リフレクション　プロセスレコード
第10回　AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション　コーチング
第11回　AL 2	看護を学ぶ学生としてのコミュニケーション　チーム活動　リーダーシップ　メンバーシップ
第12回　AL 3	看護を学ぶ学生としてのコミュニケーション　カンファレンス
第13回　AL 2	看護を学ぶ学生としてのコミュニケーション　実習場面と気づく力
第14回　AL 2	看護を学ぶ学生としてのコミュニケーション　実習場面と気づく力
第15回　AL 2	看護を学ぶ学生としてのコミュニケーション　まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　第３版』石川ひろの他（医学書院）					
参考文献	講義時適宜提示する。					
事前学習(内容･時間)	自分の日常生活でのコミュニケーションを振り返る（30分)。					
事後学習(内容･時間)	学習内容を日常生活のコミュニケーション場面に落とし込み実践してみる（１時間)。					
フィードバックの方法	成果物へのコメントは授業中に対話しながら解説する。					
備考	コミュニケーションは、自分と相手を尊重し、お互いを知りたいという思いを大切にして学んでいきましょう。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅲ （健康教育）	尾ノ井美由紀	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

地域で生活する様々なライフサイクルや健康レベルにある個人・家族・集団がより良い生活を目指して展開される地域看護の観点から、地域看護活動の場と役割、対象特性・活動の特徴を教授する。また、健康教育の理念および理論と方法について理解し、健康教育の方法、実践的なアプローチを、演習を通して理解できることを目的として教授する。

到 達 目 標

●域保健活動の領域や特徴と施策を説明できる。
●個人・集団を対象とする健康教育の目的や支援に用いられる健康教育理論について説明できる。
●個人や集団の特性に合った健康教育を計画・実践する方法を説明できる。
●効果的な健康教育の技術を、演習を通して習得する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	地域保健活動の領域１
第２回	地域保健活動の領域２
第３回	健康の概念に基づく公衆衛生
第４回	地域保健法と施策
第５回	ヘルスプロモーション
第６回	健康の指標と生活習慣
第７回	健康日本21、21世紀の健康課題
第８回	健康教育の定義・理念、歴史
第９回	健康教育と健康行動・行動変容理論①
第10回	健康教育と健康行動・行動変容理論②
第11回　AL 3	個人へのアプローチと集団へのアプローチ
第12回　AL 3	患者教育（演習）
第13回　AL 3	健康教育プログラムの計画・評価（演習課題）①
第14回　AL 3	健康教育プログラムの計画・評価（演習課題）②
第15回　AL 4	健康教育プログラムの計画・評価（演習課題）③

成績評価方法	小テスト 60%　成果物 40%					
教科書	『新しい健康教育－理論と事例から学ぶ健康増進への道』日本健康教育士養成機構（保健同人社）					
参考文献	『最新保健学講座〈別巻１〉健康教育論』宮坂忠夫編著（メヂカルフレンド社）					
事前学習(内容･時間)	該当部分のテキストを読んでおく（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業時間に指示された課題を実施する（１時間)。					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備考				**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－１ （基礎看護技術）	平野・北島 梅川・瀬山	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

すべての看護ケアに共通する基本的な知識と技術、自立した生活が困難となった人々に対する日常生活の援助、原理と原則に準拠した安全で安楽な看護ケアを提供するための基礎的な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、実習室という臨床を模した学習環境に身をおき、座学と演習を組み合わせた学習を支援する。

到 達 目 標

●原理原則に基づいた看護技術を提供するための基本的な知識について説明できる。
●科学的根拠に基づき対象者に必要な看護技術を計画することができる。
●安全で安楽であり倫理的な配慮を伴う看護技術を展開することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス　看護技術の考え方、受講の手引き、実習室の使い方
第２回　AL 2	環境に関する看護技術（講義）
第３回　AL 3	ベッドメーキング・環境整備①（演習）
第４回　AL 3	ベッドメーキング・環境整備②（演習）
第５回	活動と休息に関する看護技術（講義）
第６回　AL 3	安楽な体位、体位変換①（演習）
第７回　AL 3	体位変換と移送の方法②（演習）
第８回	清潔に関する看護技術（講義）
第９回　AL 3	臥床患者のシーツ交換（演習）
第10回　AL 3	寝衣交換（演習）
第11回　AL 3	洗髪（演習）
第12回　AL 3	清拭・足浴①（演習）
第13回　AL 3	清拭・足浴②（演習）
第14回　AL 6	総合まとめ①
第15回　AL 6	総合まとめ②

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　成果物 40%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護学技術Ⅱ』有田清子他（医学書院）
参考文献	『看護が見えるVol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）
事前学習(内容･時間)	授業資料・テキスト・動画で学習し、事前課題に取り組む（１～３時間)。
事後学習(内容･時間)	学習課題を提出し、技術を修得できるまで、繰り返し練習する（１～３時間)。
フィードバックの方法	看護技術は演習中に指導します。課題はコメントを記入しますので確認してください。
備考	学習した技術は身につける段階まで、繰り返し練習を重ねてください。　**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－２ （基礎看護技術）	北島・平野 梅川・瀬山	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

食事や排泄に関する日常生活援助技術と、検査や与薬に関する診療の補助技術についての基本的な知識と、原理と原則に準拠した安全で安楽な看護ケアを提供するための基礎的な技術を修得し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、座学と実習室における演習を組み合わせた授業スタイルにより学生の主体的な学習活動を支援する。

到 達 目 標

●原理原則に基づいた看護技術を提供するための基本的な知識について説明できる。
●科学的根拠に基づき対象者に必要な看護技術を計画することができる。
●安全で安楽であり倫理的な配慮を伴う看護技術を展開することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ガイダンス　診療の補助技術と医療安全
第２回	バイタルサイン①（講義）
第３回	バイタルサイン②（講義）
第４回　AL 3	バイタルサイン③（演習）
第５回　AL 3	バイタルサイン④（演習）
第６回	感染予防①［標準予防策・手指衛生・防護用具の装着］（講義）
第７回　AL 3	感染予防②［標準予防策・手指衛生・防護用具の装着］（演習）
第８回	感染予防③［滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方］（講義）
第９回　AL 3	感染予防④［滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方］（演習）
第10回	食事の援助①［栄養と食事］（講義）
第11回　AL 3	食事の援助②［食事介助・口腔ケア］（講義・演習）
第12回　AL 3	食事の援助③［食事介助・口腔ケア］（演習）
第13回	排泄の援助①（講義）
第14回	排泄の援助②（講義）
第15回　AL 3	排泄の援助③［浣腸・陰部洗浄・オムツ交換］（演習）
第16回　AL 3	排泄の援助④［浣腸・陰部洗浄・オムツ交換］（演習）
第17回　AL 3	排泄の援助⑤［導尿］（演習）
第18回　AL 3	排泄の援助⑥［導尿］（演習）
第19回	検査時の看護技術①［検査］（講義）
第20回	検査時の看護技術②［検査における看護の役割：採血法］（講義）
第21回　AL 3	検査時の看護技術③［採血法］（演習）
第22回　AL 3	検査時の看護技術④［採血法］（演習）
第23回	与薬①［与薬の概要］（講義）
第24回	与薬②［注射法、輸血］（講義）
第25回　AL 3	与薬③［注射法（皮内・皮下・筋肉内注射）］（講義・演習）
第26回　AL 3	与薬④［注射法（皮下・筋肉内注射）］（演習）
第27回　AL 3	与薬⑤［注射法（静脈内注射・点滴静脈内注射）］（講義・演習）
第28回　AL 3	与薬⑥［注射法（点滴静脈内注射）］（演習）
第29回　AL 3	看護技術の統合①
第30回　AL 3	看護技術の統合②

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　定期試験（実技）20%　成果物 20%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）、 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ』有田清子他（医学書院）
参考文献	『看護がみえるvol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）、 『看護がみえるvol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）
事前学習(内容･時間)	テキストや配布資料の精読と関連動画の視聴により、技術の手順と根拠を頭に入れて演習に臨む（１～３時間）。
事後学習(内容･時間)	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける（１～３時間）。
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う。
備考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅴ （フィジカルアセスメント）	梅川・北島 平野・瀬山	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

フィジカルアセスメントは、対象者の身体的状態について、系統的に主観的・客観的情報を得て、対象の健康状態を判断する。本科目では、フィジカルアセスメントの意義や重要性を理解し、情報を得るための基本的知識・技術・態度が習得でき、身体の情報を正常・異常の判断ができるために事例を用いながら教授する。

到 達 目 標

●看護の場面におけるフィジカルアセスメントの意義が説明できる。
●フィジカルイグザミネーションの基本技術の方法と根拠が説明でき実施できる。
●フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正確に記録できる。
●看護過程におけるフィジカルアセスメントが実施でき、援助計画を立案することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	ヘルスアセスメントと看護の役割とフィジカルアセスメントの概念
第２回	フィジカルアセスメントの基本技術とシステムレビュー（講義）
第３回　AL 3	バイタルサイン測定（演習）
第４回	脳神経系のフィジカルアセスメントの基本（講義）
第５回	脳神経系のフィジカルアセスメントの基本（講義）
第６回	脳神経系のフィジカルアセスメント（動画視聴・課題）
第７回　AL 3	脳神経系のフィジカルイグザミネーションの実際（演習）
第８回	筋・骨格系のフィジカルアセスメントの基本（講義）
第９回　AL 3	筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの実際（演習）
第10回	循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際（講義）
第11回　AL 3	循環器系・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際（演習）
第12回	消化器系のフィジカルアセスメントの実際（講義）
第13回	消化器系のフィジカルイグザミネーション（動画視聴・課題）
第14回　AL 3,4	事例を用いたフィジカルイグザミネーション
第15回	フィジカルアセスメントのまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%						
教科書	『ナーシング・グラフィカ　基礎看護学(2)　ヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他編（メディカ出版）						
参考文献	『フィジカルアセスメントワークブック　身体の仕組みと働きもアセスメントにつなげる』山内豊明著（医学書院）、その他は開講時・随時提示します。						
事前学習(内容･時間)	人体の構造と機能についての事前学習、フィジカルイグザミネーションの方法について（２時間）。						
事後学習(内容･時間)	事後レポート（１時間）。						
フィードバックの方法	事後レポート毎にフィードバックします。						
備考	血圧計、聴診器、授業資料、テキストを持参すること。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	△	―	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学VI （看護過程）	平野加代子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程は、看護の知識体系に基づいて、対象の健康上の問題を明らかにし、最適かつ個別的な看護を提供するための組織的・系統的な看護実践方法のひとつである。本科目においては、効果的な看護活動を展開するための系統的な問題解決技法である看護過程を展開する方法を講義・演習を通して教授する。

到 達 目 標

●看護過程の概念と構成要素を説明できる。
●事例に対する看護過程の展開ができる。
●事例に対する個別性を考慮した看護計画を立案することができる。
●事例の看護計画に基づいた実践・評価ができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の構成要素
第２回	看護過程の５つの段階
第３回　AL 2	事例展開を行う上で必要な準備
第４回　AL 3	事例展開（１）：情報収集と分類
第５回　AL 3	事例展開（２）：全体像
第６回　AL 3	事例展開（３）：アセスメント
第７回　AL 3	事例展開（４）：アセスメント
第８回　AL 3	事例展開（５）：全体像関連図と問題の明確化
第９回　AL 3	事例展開（６）：看護計画立案と援助計画
第10回　AL 4	事例展開（７）：　看護計画の共有と検討　発表
第11回　AL 2	事例展開（８）：看護の実践と評価
第12回　AL 2	事例展開（９）：看護の実践と評価
第13回　AL 2	事例展開(10)：情報収集の実際とアセスメント
第14回	事例展開(11)：情報収集の実際とアセスメント
第15回	事例展開(12)：問題の明確化、看護計画　まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）50%　成果物 50%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護学技術Ⅰ』有田清子他（医学書院）					
参考文献	『実習記録の書き方がわかる　看護過程展開ガイド』任 和子（照林社）、 『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編集（メディックメディア）					
事前学習(内容･時間)	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読む（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	指定された課題を必ずやってくる（２時間)。					
フィードバックの方法	レポート課題は、授業時に講評する。					
備考	本科目を修得するには、人体の構造・機能や病態学など、既習の知識を活用する論理的思考力が必要である。専門職者として根拠のある看護実践を行う上で重要な内容を教授するので、十分に理解し、思考過程の進め方を習得してほしい。主体的な学習態度が求められる。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅰ （概論）	中川ひろみ 房間　美恵	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSP11102

科目の概要

成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴、発達課題とともに、健康課題による生活への影響について概説する。また、生活習慣、職業、生活ストレスに関連する健康障害について解説する。さらに、発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護実践に必要な概念や理論について教授する。

到 達 目 標

●成人期の特徴を身体的変化と心理的・社会的諸相との関連による統一体として説明できる。
●成長発達過程と健康及び健康課題について理解し、ライフスタイルや生活ストレスと関連させて説明できる。
●セルフケアによる生活の再構築やquality of life（QOL）を維持する看護について説明できる。
●成人を取り巻く社会や保健医療環境の変化・福祉の動向を考慮し、看護の役割について説明できる。
●健康レベルに応じた看護の方法に関する概念や理論について理解し、アプローチについて説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	成人期にある人の理解：ライフサイクルから見た成人期の区分と特徴
第２回	成人期の特徴：身体的変化と心理的・社会的発達の相互関係
第３回　AL 3	成人期にある人の健康①：生涯発達の視点から見た成人期にある人の健康をめぐる諸問題
第４回　AL 4	成人期にある人の健康②：ライフモデルでとらえる成人期にある人の保健と健康課題
第５回	成人への基本的な看護アプローチ：成人各期の特徴と成人期を取りまく環境
第６回　AL 3	成人各期の特徴（身体的・心理社会的）と健康問題，就業環境と健康問題
第７回　AL 3	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害-１　事例検討
第８回　AL 4	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害-２　事例検討
第９回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論-１
第10回　AL 3	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論-２
第11回　AL 4	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論-３
第12回　AL 3	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護：ヘルスプロモーション（１次予防・２次予防・３次予防）
第13回	成人期にある人の学習の特徴と看護
第14回	回復期・慢性期の健康障害の特徴と看護
第15回	急性期の健康障害の特徴と看護

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ 成人の健康を支える』林直子他編集（南江堂）
参考文献	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[1] 成人看護学総論』小松浩子他（医学書院）、『ナーシンググラフィカ　成人看護学[1] 成人看護学概論』安酸史子編集（メディカ出版）
事前学習(内容･時間)	次回のシラバスの内容について予習する（１時間）。
事後学習(内容･時間)	課題について学習する（１時間）。
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します。課題・レポートに対しては、全体に向けて講評します。
備考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅱ （急性期・回復期援助論）	中川ひろみ 國松　秀美 浅井　直子	講義・演習	2年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

急激に健康レベルが低下し生命の危機的状態が生じた成人期の患者および家族の特徴を説明し、救命救急時や集中治療下での援助と慢性疾患の急性増悪期の援助および周手術期の援助について教授する。また、生命の危機的状態を脱した回復期における成人期の患者および家族の特徴を説明し、社会生活への復帰に向けた看護援助について教授する。

到 達 目 標

●急性期から回復期における成人期の患者の身体・心理・社会的な特徴を説明できる。
●急性疾患および周手術期患者の特徴を踏まえて心身の状態を説明できる。
●急性疾患および周手術期患者の回復にむけた援助の方法について説明できる。
●急性期から回復期において必要とされる看護の役割や技術を説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	急性期における看護の特徴①
第２回　AL 3	急性期における看護の特徴②
第３回	救急医療や集中治療における看護①
第４回	救急医療や集中治療における看護②
第５回　AL 3	手術前患者の看護①
第６回　AL 3	手術前患者の看護②
第７回　AL 3	手術中患者の看護①
第８回　AL 3	手術中患者の看護②
第９回　AL 3	手術後患者の看護①
第10回　AL 3	手術後患者の看護②
第11回　AL 3	手術後患者の看護③
第12回　AL 3	手術後患者の看護④
第13回　AL 3	一次救命処置（ＢＬＳ）
第14回	二次救命処置（ＡＬＳ）
第15回	呼吸器機能障害のある患者の看護①
第16回	呼吸器機能障害のある患者の看護②
第17回	循環器機能障害のある患者の看護①
第18回　AL 3	循環器機能障害のある患者の看護②
第19回　AL 3	消化器機能障害のある患者の看護①
第20回　AL 3	消化器機能障害のある患者の看護②
第21回	脳・神経機能障害のある患者の看護①
第22回	脳・神経機能障害のある患者の看護②
第23回	腎・泌尿器機能障害のある患者の看護①
第24回	腎・泌尿器機能障害のある患者の看護②
第25回	運動機能障害のある患者の看護①
第26回	運動機能障害のある患者の看護②
第27回	性・生殖器障害のある患者の看護①
第28回	性・生殖器障害のある患者の看護②
第29回	回復期にある患者の看護①
第30回	回復期にある患者の看護②

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%					
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ－概論・周手術期看護』林直子、佐藤まゆみ編集（南江堂）、『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱ－救急看護・クリティカルケア』佐藤まゆみ、林直子編集（南江堂）、『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論』矢永勝彦（医学書院）					
参考文献	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄他（医学書院）					
事前学習(内容･時間)	人体構造機能論Ⅰ/Ⅱ、病態治療学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲについて学習しておいてください（１時間）。					
事後学習(内容･時間)	課題について学習をしてください（１時間）。					
フィードバックの方法	レポートは授業中に適宜フィードバックを行います。					
備考	演習を行うため、実習室では白衣を着用してください。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	―	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅲ （慢性期・終末期援助論）	中川・房間 國松・浅井	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

我が国において慢性疾患を有する人は年々増加しており、深刻な健康問題となっている。慢性疾患の特徴および慢性疾患を抱えて生きる成人とその家族の特徴や病気とともに生活する人のセルフマネジメントを支援する援助方法について教授する。また、ターミナルケア・緩和ケアに関する概念およびターミナルケアを必要とする人および家族への援助方法を教授する。

到 達 目 標

●慢性疾患をもつ人とその家族の特徴について説明できる。
●慢性疾患をもつ人の援助方法について説明できる。
●緩和・ターミナルケアにかかわる概念、援助の基本的な考え方を説明できる。
●患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深め、ターミナルケア・緩和ケアの必要性を説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本①
第２回　AL 2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本②
第３回　AL 2	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助
第４回　AL 2	循環器系の障害を有する人とその家族への援助
第５回　AL 2	消化器系の障害を有する人とその家族への援助
第６回　AL 2	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助①
第７回　AL 2	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助②
第８回　AL 3	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助
第９回　AL 2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助①
第10回　AL 2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助②
第11回　AL 2	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助
第12回　AL 2	感覚系の障害を有する人とその家族への援助
第13回	緩和ケア・ターミナルケアとは
第14回	ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解および看護援助
第15回　AL 2	ターミナルケアにおける倫理

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%
教科書	『成人看護学　慢性期看護 病気とともに生活する人を支える』鈴木久美、野澤明子、森一恵編（南江堂)、『成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論』鈴木志津枝、内布敦子編（ヌーヴェルヒロカワ）
参考文献	『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄、岡田隆夫(医学書院)、 『系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』田中越郎(医学書院)
事前学習(内容･時間)	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱで授業テーマと関連するところを復習しておくこと（１時間)。
事後学習(内容･時間)	課題について学習をすること(１時間)。
フィードバックの方法	レポート課題にコメントを記入して、返却する。
備考	主体的な参加を望みます。　**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	―	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅳ （援助方法論）	中川・房間 國松・浅井	演習	3年次 前期	必修	2	60	KSP31301

科目の概要

手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人への看護援助に必要な知識・看護技術が習得できるように指導する。事例を通して急性期または慢性期の患者を身体的・社会的・心理的側面から総合的にとらえ、様々な知識や情報を用いてアセスメントを行うことで看護上の問題を抽出し、患者が必要としている看護の明確化および実践ができるように教授する。

到 達 目 標

●手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人に必要な看護援助を演習を通して実施できる。
●急性期または慢性期の患者の看護上の問題を、看護理論を用いてアセスメントし、優先順位を考えて抽出できる。
●看護上の問題から患者の目標を考え、目標を達成するために必要な看護援助を立案および評価できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回　AL 2	成人看護援助に必要な看護過程①
第２回　AL 2	成人看護援助に必要な看護過程②
第３回　AL 2	慢性期における看護過程の展開①
第４回　AL 2	慢性期における看護過程の展開②
第５回　AL 2	慢性期における看護過程の展開③
第６回　AL 2	慢性期における看護過程の展開④
第７回　AL 2	慢性期における看護過程の展開⑤
第８回　AL 2	慢性期における看護過程の展開⑥
第９回　AL 2	慢性期における看護過程の展開⑦
第10回　AL 2	慢性期における看護過程の展開⑧
第11回　AL 3	慢性期における看護過程の展開⑨
第12回　AL 3	慢性期における看護過程の展開⑩
第13回　AL 3	慢性期における看護過程の展開⑪
第14回　AL 3	急性期における看護過程の展開①
第15回　AL 3	急性期における看護過程の展開②
第16回　AL 3	急性期における看護過程の展開③
第17回　AL 2	急性期における看護過程の展開④
第18回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑤
第19回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑥
第20回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑦
第21回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑧
第22回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑨
第23回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑩
第24回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑪
第25回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑫
第26回　AL 2	急性期における看護過程の展開⑬
第27回	呼吸理学療法を必要とする患者の看護①
第28回	呼吸理学療法を必要とする患者の看護②
第29回　AL 2	異常の早期発見や二次障害予防のための看護①
第30回　AL 2	異常の早期発見や二次障害予防のための看護②

成績評価方法	成果物 80%　試験 20%					
教科書	『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』江川隆子編集（ヌーヴェルヒロカワ）、『看護診断ハンドブック 第11版』リンダJ. カルペニート著（医学書院）					
参考文献	『病気がみえるvol.3 糖尿・代謝・内分泌』医学情報（メディックメディア）、『病気がみえるvol.7 脳・神経』医学情報（メディックメディア）					
事前学習(内容･時間)	既習の成人看護学の授業内容を復習してから授業に臨んでください（１時間）。					
事後学習(内容･時間)	授業で理解できなかった内容については自己学習をしてください（１時間）。					
フィードバックの方法	成果物に関しては適宜フィードバックを行います。					
備考	この授業では後期からの実習を想定しているため演習を中心に行います。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅰ （概論）	山本　裕子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21101

科目の概要

高齢者について、身体的・心理的・社会的な側面のみならず、発達課題と時代背景からも理解を深められる様に、高齢者の多様性について講義する。さらに、高齢者を取り巻く医療・保健・福祉および社会問題などの現状を踏まえた老年看護の理念や役割、今後の課題について講義する。

到 達 目 標

●老年看護の理念と担うべき役割、今後の課題について述べることができる。
●高齢者を全人的に理解するとともに多様性について述べることができる。
●高齢者を取り巻く医療、保健、福祉および社会問題と今後の課題について説明することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	導入（視聴覚教材を用いて）
第２回　AL 3,4	高齢者の個別性
第３回　AL 4	高齢者について
第４回　AL 2	老年看護学の役割
第５回	老年看護に関する理論（発達課題を含む）
第６回	加齢に伴う生理的機能の変化
第７回	加齢に伴う生理的機能の変化（高齢者の性含む）
第８回　AL 2	高齢者が生きた時代（視聴覚教材を用いて）
第９回	高齢者を取り巻く社会1
第10回　AL 5	高齢者を取り巻く社会2
第11回	高齢者の保健医療福祉のしくみ
第12回	高齢者の倫理（高齢者虐待、身体拘束含む）
第13回	高齢者の家族支援
第14回	高齢者の健康と疾病
第15回　AL 3	災害時の高齢者看護

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%						
教科書	『老年看護学　概論と看護の実践　第６版』奥野茂代、大西和子監修（ヌーヴェルヒロカワ）						
参考文献	適宜紹介します。						
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容を事前学習し各自のノートにまとめてください（１時間)。						
事後学習(内容･時間)	講義内容を振り返り、各自のノートに加筆修正し知識の定着を図ってください（１時間)。						
フィードバックの方法	講義内で質問については説明を行い、課題については講評を行います。						
備考	全ての人が高齢者になることを忘れずに、高齢者の生活の仕方や高齢者を取り巻く環境を観察しましょう。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	△	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	山本　裕子 高橋みどり	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

認知症を患っている高齢者のBPSD（認知症における行動・心理症状）が緩和し、穏やかな生活を営むための看護援助について講義する。また、人生の最終ステージで迎える高齢者の死とその看護（看取り）について講義する。

到 達 目 標

●認知症高齢者のBPSD（認知症における行動・心理症状）について説明することができる。
●認知症高齢者への看護援助方法を説明することができる。
●高齢者の看取りについて述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	認知症とBPSD
第２回　AL 2	認知症看護の基本的な考え方（家族支援を含む）
第３回　AL 2	認知症病者の日常生活を支える看護援助
第４回	BPSDと看護
第５回　AL 3	BPSDの実際（ロールプレイ）
第６回　AL 3	認知症看護（視聴覚教材を用いて）
第７回　AL 2	高齢者の終末期と看取り
第８回	看取りの時期にある高齢者の看護援助方法

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%						
教科書	『認知症ケアの考え方と技術　第２版』六角僚子（医学書院)、 『老年看護学　概論と看護の実践　第６版』奥野茂代、大西和子監修（ヌーヴェルヒロカワ）						
参考文献	適宜紹介します。						
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容を事前学習し各自のノートにまとめてください（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	講義内容を振り返り、各自のノートに加筆修正し知識の定着を図ってください(２時間)。						
フィードバックの方法	講義内で質問については説明を行い、課題については講評を行います。						
備考	認知症病者やその家族の手記や看取りに関する体験記を読み認知症に対する知識を深めてください。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	—	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅲ （理論とアセスメント）	山本　裕子 高橋みどり	演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

高齢者の残存機能維持・向上や強みなどについて理解を深め、QOLとは何かについて説明する。高齢者の健康レベルに応じた看護やその人らしさを尊重した看護を実践するための基本的知識と看護援助について講義する。

到 達 目 標

●高齢者のQOLとは何か、その人らしさとは何かについて説明することができる。
●加齢や疾病による機能低下や障害を理解し、看護援助方法について説明することができる。
●高齢者の療養の場における老年看護について説明することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	高齢者のQOL
第２回	ヘルスアセスメント
第３回	高齢者の心身機能の評価
第４回	アセスメントと看護（コミュニケーション）
第５回	アセスメントと看護（食事）
第６回	アセスメントと看護（排泄）
第７回	アセスメントと看護（活動と休息、移動、睡眠）
第８回	アセスメントと看護（視覚・聴覚障害と皮膚の障害）
第９回	アセスメントと看護（パーキンソン症候群）
第10回	アセスメントと看護（ロコモティブシンドローム、廃用症候群）
第11回	薬物療法と副作用
第12回	環境の管理（感染予防含む）
第13回	医療施設における看護
第14回	高齢者施設における看護
第15回	触れるケア

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%					
教科書	『老年看護学　概論と看護の実践　第６版』奥野茂代、大西和子監修（ヌーヴェルヒロカワ）					
参考文献	適宜紹介します。					
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容を事前学習し各自のノートにまとめてください（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義内容を振り返り、各自のノートに加筆修正し知識の定着を図ってください（１時間)。					
フィードバックの方法	講義内で質問については説明を行い、課題については講評を行います。					
備考	専門基礎分野の人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、薬理学・基礎看護学等の復習を行ってください。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	―	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅳ （症状とケアプラン）	山本　裕子 高橋みどり	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴を全人的にとらえ、その高齢者のＱＯＬの維持向上と個別性を尊重した看護過程を展開するための思考過程を育成するとともに必要な基礎的知識を習得できるように講義する。高齢者の心身の活性化を目指した知識と技術修得のための演習を実施する。

到 達 目 標

●ＱＯＬの視点および個別性を尊重した看護過程を展開することができる。
●事例を通して高齢者の情報の整理とアセスメント・看護問題の抽出ができる。
●高齢者の個別性を尊重した看護目標の設定と看護援助の立案ができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2,3	導入
第２回　AL 2,3	アクティビティ
第３回　AL 2	高齢者看護過程の基本①
第４回　AL 2	高齢者看護過程の基本②
第５回　AL 2	疾患を持つ高齢者の看護過程の展開（情報収集と整理①）
第６回　AL 2	疾患を持つ高齢者の看護過程の展開（情報収集と整理②）
第７回　AL 2	疾患を持つ高齢者の看護過程の展開（アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定①）
第８回　AL 2	疾患を持つ高齢者の看護過程の展開（アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定②）
第９回　AL 2	疾患を持つ高齢者の看護過程の展開（看護計画の立案）
第10回　AL 3	認知症高齢者の看護過程の展開（情報収集と整理①）
第11回　AL 3	認知症高齢者の看護過程の展開（情報収集と整理②）
第12回　AL 3	認知症高齢者の看護過程の展開（アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定①）
第13回　AL 3	認知症高齢者の看護過程の展開（アセスメントと看護問題・課題の明確化、看護目標の設定②）
第14回　AL 3	認知症高齢者の看護過程の展開（看護計画の立案①）
第15回　AL 3	認知症高齢者の看護過程の展開（看護計画の立案②）

成績評価方法	定期試験（筆記）90%　成果物 10%						
教科書	『老年看護学　概論と看護の実践　第６版』奥野茂代、大西和子監修（ヌーヴェルヒロカワ）、 『ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程　第２版　生活機能に焦点をあてたアセスメント』奥宮暁子編著（医歯薬出版株式会社）						
参考文献	適宜紹介します。						
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容を事前学習し各自のノートにまとめてください（１時間)。						
事後学習(内容･時間)	講義内容を振り返り各自のノートに加筆修正してください（１時間)。						
フィードバックの方法	講義内で振り返り適宜解説を行います。						
備考	基礎看護学で学習した看護過程の展開の基本を復習してください。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	―	○	△	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅰ (概論と保健)	松尾ひとみ	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21103

科目の概要

到 達 目 標

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	未定のため別途配布します

成 績 評 価 方 法							
教　　科　　書							
参　考　文　献							
事前学習(内容･時間)							
事後学習(内容･時間)							
フィードバックの方法							
備　　考					**オフィスアワー**		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・ コラボレーション力	4　課題発見力・ 課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅱ （主な疾患と看護）	松尾ひとみ	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

到 達 目 標

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	未定のため別途配布します

成 績 評 価 方 法							
教　　科　　書							
参　考　文　献							
事前学習（内容･時間）							
事後学習（内容･時間）							
フィードバックの方法							
備　　考					**オフィスアワー**		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅲ (健康障害のある小児と家族への援助)	松尾ひとみ	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

到 達 目 標

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	未定のため別途配布します

成 績 評 価 方 法							
教　　科　　書							
参　考　文　献							
事前学習(内容･時間)							
事後学習(内容･時間)							
フィードバックの方法							
備　　考					**オフィスアワー**		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・ コラボレーション力	4　課題発見力・ 課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	松尾ひとみ	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31302

科目の概要

到 達 目 標

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	未定のため別途配布します

成 績 評 価 方 法							
教　　科　　書							
参　考　文　献							
事前学習(内容･時間)							
事後学習(内容･時間)							
フィードバックの方法							
備　　考					オフィスアワー		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅰ （概論）	上山　直美	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21105

科目の概要

母性看護の特徴および母性看護の基盤となる概念について講義するとともに、我が国における母子保健の歴史的変遷や今日的課題について概説、教授する。

到 達 目 標

●母性看護の変遷を把握し、併せて母性看護の特徴および対象について説明できる。
●女性のライフステージ各期における特徴や健康問題を把握し、それらに対する援助について説明できる。
●母子保健統計を把握し、母子保健行政や施策の現状と問題について述べることが出来る。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	母性の定義、母性の特性、母性看護の基盤となる概念
第２回	母性看護のあり方、母性看護における倫理
第３回　AL 2	母性看護の変遷と動向－出産をめぐる看護－
第４回	母性に関する組織と法律
第５回　AL 2,3	現在の母子保健施策
第６回	母性看護の場と職種、対象を取り巻く環境
第７回	生殖器の形態・機能
第８回	女性のライフステージ各期における看護－思春期－①
第９回　AL 2	女性のライフステージ各期における看護－思春期－②
第10回	女性のライフステージ各期における看護－成熟期－
第11回　AL 2,3	女性のライフステージ各期における看護－更年期と老年期－
第12回	リプロダクティブヘルスケア①－人工妊娠中絶と看護－
第13回　AL 2,3	リプロダクティブヘルスケア②－性感染症とその予防，HIVに感染した女性に対する看護－
第14回	リプロダクティブヘルスケア③－DV，性暴力を受けた女性に対する看護－
第15回	母性看護に使われる看護技術

成績評価方法	定期試験（筆記）50%　成果物 50%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院）、 『国民衛生の動向2020/2021』（厚生労働統計協会）					
参考文献	なし					
事前学習（内容･時間）	毎回の授業計画を確認し、テキストおよび参考文献を読んでおく（30分程度）。					
事後学習（内容･時間）	講義の復習を１時間程度行うことが望ましい。					
フィードバックの方法	講義毎に復習課題やレポートがあります。それらの提出と返却のやり取りの中で行います。					
備考	復習課題やレポートを成果物として評価する。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅱ （女性生殖・周産期医療）	上山　直美	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21106

科目の概要

女性の内分泌（ホルモン）状態、および周産期に罹患しやすい疾病の病態･診断･治療、併せて女性のライフサイクルにおける性と生殖、リプロダクティブヘルスとヘルスケアの問題とそれらに対する支援方法について講義する。

到 達 目 標

●女性の心身社会的側面から生じる健康問題について、それぞれの側面の要因や問題を類別できる。
●女性の心身社会的側面から生じる健康問題について、医学的治療や看護ケアを説明できる。
●周産期の異常に伴う疾患や症状について、原因、医学的治療や看護ケアを説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	エストロゲン依存性疾患と看護ケア
第２回	周産期のメンタルヘルスと看護ケア
第３回	妊娠期の異常- 妊娠経過と健康逸脱
第４回	分娩期の異常- 分娩経過と健康逸脱
第５回	産褥の異常- 産褥経過と健康逸脱
第６回	乳がんと看護ケア
第７回　AL 2	不妊症と看護ケア
第８回　AL 2	更年期症状と看護ケアおよびヘルスプロモーション

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著（医学書院）、その他の資料は適宜配布
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院）、『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂）
事前学習(内容･時間)	妊娠期、分娩期、産褥期の生理的変化、ホルモン動態の変化について学習してください（各講義前２時間）。
事後学習(内容･時間)	講義内容を復習し（２時間）、質問を次回の講義で行ってください。
フィードバックの方法	レポートに対する講評を授業内で行います。
備考	オフィスアワー：オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅲ （周産期アセスメント）	東尾　公子 上山　直美	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における女性と新生児、および家族を対象とした生理的、心理・社会的変化と特徴を教授する。また、それらの対象に対する看護ケアとウェルネスの視点について解説する。

到 達 目 標

●妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的に経過する周産期女性、胎児と新生児の身体的、心理的・社会的変化について説明できる。
●妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護ケアについて、ウェルネスの視点から類別して、説明できる。
●妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的経過の範囲を逸脱した状態や健康障害、その看護ケアについて理解して、説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態①
第２回	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態②
第３回　AL 2	母親役割獲得準備状況と家族関係のアセスメント
第４回	正常分娩経過のアセスメントと看護①
第５回　AL 2,3	正常分娩経過のアセスメントと看護②
第６回	産婦の心理変化、母子愛着形成および家族のアセスメント
第７回	出生直後の新生児のアセスメントと看護援助
第８回	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント①
第９回　AL 2	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント②
第10回	退行性変化のアセスメント①
第11回　AL 2,3	退行性変化のアセスメント②
第12回	進行性変化のアセスメント①
第13回　AL 2,3	進行性変化のアセスメント②
第14回	出産後の育児技術取得状況、愛着形成、家庭・社会生活への適応のアセスメント
第15回	ハイリスク妊娠・分娩、産科処置および看護　講義のまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%						
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著（医学書院）						
参考文献	『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川眞理子他（メヂカルフレンド社）						
事前学習(内容･時間)	授業計画の該当部分を予習すること。１時間程度が望ましい。						
事後学習(内容･時間)	授業始めまたは終わり前に小テストを行う。そのため講義の復習を１時間程度行うことが望ましい。						
フィードバックの方法	小テストは講義内で解説を行います。						
備考	小テストは成果物として評価する。				**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	△	○	○	△	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	東尾　公子 上山　直美	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31202

科目の概要

周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある女性と新生児および家族を対象とし、それらの身体的・心理的特徴を踏まえ、母性看護に必要な援助技術を講義する。具体的には対象の看護上の問題や医療上の問題、生活上の問題の理解と周産期におけるセルフケアの視点に基づいた看護過程の展開と援助に焦点をあて説明する。

到 達 目 標

●周産期の女性、胎児、新生児看護の基本的技術の目的・必要性を理解し、技術を実施できる。
●問題解決思考、ウェルネスの視点および母子関係に着目した根拠に基づく看護援助技術方法や手順、目的を説明できる。
●問題解決思考、ウェルネスの視点および母子関係に着目した根拠に基づく看護過程の展開ができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	妊娠期のヘルスアセスメント①　妊婦健康診査の項目と援助技術
第２回　AL 3	妊娠期のヘルスアセスメント②　妊婦健康診査の項目と援助技術
第３回　AL 3	分娩期のヘルスアセスメント　　分娩期の補助動作、呼吸法に関する援助技術
第４回　AL 3	産褥期のヘルスアセスメント①　退行性変化と進行性変化のアセスメントと援助技術
第５回　AL 3	産褥期のヘルスアセスメント②　退行性変化と進行性変化のアセスメントと援助技術
第６回　AL 3	新生児のヘルスアセスメント①　全身観察、バイタルサイン測定
第７回　AL 3	新生児のヘルスアセスメント②　抱き方、更衣、おむつ交換
第８回　AL 3	出産後の家庭生活に必要な育児技術　沐浴
第９回	看護過程の展開：妊娠期の事例
第10回	看護過程の展開：分娩期の事例
第11回	看護過程の展開：産褥期の事例①
第12回	看護過程の展開：産褥期の事例②
第13回	看護過程の展開：新生児の事例①
第14回	看護過程の展開：新生児の事例②
第15回	看護過程の展開：帝王切開の事例　母性看護学Ⅳのまとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　成果物 40%
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂）、『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川眞理子他（メヂカルフレンド社）
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』池田正編著（医学書院）
事前学習(内容･時間)	演習前は、授業計画の該当部分を予習し手順書の作成を行う。１時間程度が望ましい。
事後学習(内容･時間)	実技演習の練習や課題のために１時間程度が望ましい。
フィードバックの方法	課題に関しては、授業内で解説を行います。
備考	オフィスアワー：オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅰ (精神保健)	精神看護学 分野教員	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21107

科目の概要

精神看護学を学ぶ上で理解しておくべき、患者と家族の精神の健康、心身相関の考え方に基づくホリスティックケア、自殺、レジリエンス等の基本的知識を身につけることを目的とする。心の健康・不健康について説明し、心の機能と発達、精神の健康に関する普及啓発について教授する。また、精神の健康とマネジメントについて講義する。

到 達 目 標

●精神の健康の概念について説明できる。
●心の機能と発達について述べることができる。
●精神の健康とストレスマネージメントについて説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	精神の健康の概念　a．精神の健康の定義　b．精神障害の一次予防・二次予防・三次予防
第２回　AL 4	心の機能と発達①　a．精神と情緒の発達　b．自我の機能
第３回　AL 4	心の機能と発達②　c.防衛機制　d.精神力動　e.転移感情
第４回　AL 4	精神の健康に関する普及啓発　a．偏見、差別、スティグマ　b．精神保健医療福祉の改革ビジョン
第５回　AL 4	危機＜クライシス＞①　a．危機＜クライシス＞の概念　b．危機＜クライシス＞の予防
第６回　AL 4	危機＜クライシス＞②　c．危機介入　d．ストレスと対処　e．適応理論
第７回　AL 4	精神の健康とマネジメント①　a．心身相関と健康　b．身体疾患がある者の精神の健康　c．精神疾患がある者の身体の健康
第８回　AL 4	精神の健康とマネジメント②　d．患者と家族の精神の健康　e．保健医療福祉に従事する者の精神の健康
第９回　AL 4	精神の健康とマネジメント③　f．心身相関の考え方に基づくホリスティックケア　g．リエゾン精神看護　h．患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進
第10回　AL 3	精神科的面接（患者へと接するときの工夫）
第11回　AL 4	病跡学
第12回　AL 3	自殺
第13回	笑いと健康（映画「パッチアダムス」から）①
第14回　AL 2	笑いと健康（映画「パッチアダムス」から）②
第15回　AL 2	レジリエンス

成績評価方法	小テスト 90%　定期試験（レポート）10%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院）
参考文献	『名作マンガで精神医学』林公一（中外医学社)、『レジリエンス入門－折れない心のつくり方』内田和俊(筑摩書房)、『働く人のためのアドラー心理学「もう疲れたよ…」にきく８つの習慣』岩井俊憲(朝日新聞出版)、『自分の強みを見つけよう～「８つの知能」で未来を切り開く～』有賀三夏（ヤマハミュージックメディア）
事前学習(内容･時間)	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる（45分)。
事後学習(内容･時間)	ノートのポイントを読み直して記憶する（45分)。
フィードバックの方法	レポートはコメントして授業内で返却する。
備考	テストの結果と総評を解説します。知的好奇心をもって、積極的にビデオなどで自己学習すること。
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅱ （主な精神疾患と精神症状）	精神看護学 分野教員	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21108

科目の概要

看護師として、精神疾患を理解するうえで必要な基礎知識を教授する。統合失調症、気分障害、神経症とストレス関連障害、器質性精神障害（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症）、物質関連障害群、物質依存症およびパーソナリティ（人格）障害などについて事例を通して、発病年齢、原因、病前性格、症状、診断基準、経過と予後、また精神症状への対処法について講義する。

到 達 目 標

●統合失調症、気分障害、神経症とストレス関連障害、器質性精神障害の疾患の概念、症状、診断基準について述べることができる。
●物質関連障害群、物質依存症、パーソナリティ障害の疾患の概念、症状、診断基準について述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	統合失調症１
第２回　AL 4	統合失調症２
第３回　AL 2	気分障害１
第４回　AL 4	気分障害２
第５回　AL 2	神経症とストレス関連障害
第６回　AL 4	器質性精神障害（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症）
第７回　AL 4	物質関連障害群、物質依存症
第８回　AL 4	パーソナリティ（人格）障害

成績評価方法	小テスト 60%　定期試験（レポート）40%						
教科書	『専門医がやさしく語るはじめての精神医学』渡辺雅幸（中山書店）						
参考文献	『症例でわかる精神病理学』松本卓也（誠信書房）、『「うつ」の舞台』内海 健他（弘文堂）						
事前学習(内容･時間)	課題をノートにまとめる（２時間）。						
事後学習(内容･時間)	学習内容を復習する（２時間）。						
フィードバックの方法	テストの結果と総評を授業内で解説します。						
備考	知的好奇心をもって主体的に学ぶこと。参考文献を活用すること。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	△	○	△	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅲ （施設における援助）	精神看護学 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21209

科目の概要

精神看護実践の基盤となる治療的関係や看護の役割の理論・知識をもとに、精神障害者や家族に対する看護の展開方法を教授する。精神看護における対象理解や回復過程に対応した援助方法の演習を通して、精神看護の具体的な方法を教授する。

到 達 目 標

●精神看護と看護者の役割について説明できる。
●精神障害者の回復過程を説明できる。
●患者－看護者の治療的関係や関係のアセスメントについて説明できる。
●精神障害者や家族に対する援助の方法を説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	精神看護の展開：精神看護とは、精神看護者の役割、ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法
第２回	患者－看護者の治療的関係とコミュニケーション：患者－看護者関係の発展段階、治療的コミュニケーション
第３回　AL 2,3	【演習１】患者－看護者の治療的関係：シナリオ・ロールプレイによる体験学習
第４回	精神障害のとらえ方：精神障害の診断と疾病分類、理解の手がかりとしての精神症状の意味
第５回	回復を助ける：回復の意味、入院治療の目的と意味、治療的環境
第６回	精神看護における身体ケアの意味
第７回	身体面への治療と援助
第８回	精神面への治療と援助
第９回	社会面への治療と援助
第10回　AL 3,4	【演習2】芸術療法①：音楽と踊り
第11回　AL 2,3	【演習3】ＳＳＴ
第12回	安全面への治療と援助
第13回　AL 3,4	【演習4】芸術療法②：大道芸
第14回　AL 2,3	【演習5】安全を守る方法
第15回　AL 5	リエゾン精神看護

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　成果物 40%
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院）、 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』武井麻子他（医学書院）
参考文献	『看護のための精神医学　第２版』中井久夫、山口直彦（医学書院）、授業時間内に適宜紹介する。
事前学習(内容･時間)	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる（１時間）。
事後学習(内容･時間)	学習内容および提示した課題について、講義資料や教科書等を用いてまとめる（１時間）。
フィードバックの方法	レポートはコメントをして返却する。
備考	主体的に学修すること。教科書や参考文献を活用すること。　**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅳ （地域における援助）	精神看護学 分野教員	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

地域において精神障害者が利用する社会資源やリハビリテーションを伝え、精神障害者とその家族の現状を講義する。地域で生活している精神障害者とその家族が抱える多くの課題について、ノーマライゼーションの観点を含めながら学生が自分の考えを説明できるよう、講義と演習を通して教授する。

到 達 目 標

●精神保健医療福祉に関する法制度や具体的な事業内容について説明できる。
●精神障害者・家族をはじめ精神看護の対象となる人々への具体的な援助方法について説明できる。
●精神保健医療福祉における今日的な課題と看護の役割を説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	コースオリエンテーション、日本の精神保健医療福祉の現状と課題と精神看護師の役割
第２回	患者とのかかわり：そばにいること、遊ぶこと
第３回　AL 2,3	【演習１】患者－看護者の治療的関係：シナリオ・ロールプレイによる体験学習
第４回	集団のダイナミクス、グループの方法、ＳＳＴ
第５回	芸術療法と精神看護
第６回　AL 3,4	【演習2】芸術療法①：音楽と踊り
第７回　AL 2,3	【演習3】ＳＳＴ
第８回	精神障害者の家族支援
第９回　AL 3,4	【演習4】芸術療法②：大道芸
第10回　AL 2,3	【演習5】安全を守る方法
第11回	精神障害者の地域生活を支える諸制度
第12回	地域生活支援の方法、精神科訪問看護
第13回　AL 5	地域で暮らすということ：当事者の体験から学ぶ
第14回	リエゾン精神看護
第15回　AL 5	精神看護活動の実際：精神看護学実習に向けて

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　成果物 40%					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院）、 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』武井麻子他（医学書院）					
参考文献	『看護のための精神医学　第２版』中井久夫、山口直彦（医学書院）、授業時間内に適宜提示する。					
事前学習(内容･時間)	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる（１時間）。					
事後学習(内容･時間)	学習内容・課題について、講義資料や教科書等を用いてまとめる（１時間）。					
フィードバックの方法	レポートはコメントをして返却する。					
備考	講義や演習は実習に直結する内容であるため、主体性をもって学修すること。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅰ (概論)	尾ノ井美由紀	講義	2年次 前期	必修	1	15	KSP21109

科目の概要

在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的や基本理念とそれに関連する概念を教授する。在宅看護の対象者の特性とその支援について、在宅看護を支える仕組みとその役割、更には在宅ケアにおける地域包括ケアシステムの概要について教授する。

到 達 目 標

●日本の在宅看護の変遷とその社会的背景、および在宅看護の目的と基本理念や関連する概念について説明できる。
●在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を説明できる。
●在宅看護を支える仕組みと在宅看護の役割を説明できる。
●地域包括ケアシステムの概要を説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	在宅看護の背景・在宅看護の基盤
第２回	在宅看護を展開するための基本理念・在宅看護の倫理
第３回	在宅看護の対象者とその支援－ケアマネジメント－
第４回	在宅看護の対象者とその支援－家族支援－
第５回　AL 2	在宅看護を支える仕組み－介護保険制度－
第６回　AL 2	在宅看護を支える仕組み－社会保険制度－
第７回　AL 2	在宅看護を支える仕組み－訪問看護制度－
第８回	地域包括ケアシステムとは

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%						
教科書	『系統看護学講座　統合分野　在宅看護論』秋山正子他（医学書院）						
参考文献	『ナーシング・グラフィカ　在宅看護論(1)　地域療養を支えるケア』臺 有桂他編（メディカ出版）						
事前学習(内容･時間)	該当部分のテキストを読んでおく（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	授業時間に指示された課題を実施する（２時間)。						
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。						
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を確認します。				**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	△	○	△	△	△	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅱ （訪問看護の展開方法）	在宅看護論 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

在宅療養者及び家族を理解するために必要な知識と技術や看護職の役割について教授する。また、多職種と連携・協働しながら展開される在宅看護の展開方法について教授する。演習では、事例を用いて在宅療養者および家族が抱える課題（問題）を抽出し、生活を支援する看護援助方法を習得させる。

到 達 目 標

●在宅看護を必要とする対象者の背景や特徴が説明できる。
●対象者のニーズに合わせた在宅看護技術の提供方法が説明できる。
●対象者が自分らしい生活を送れるよう、多職種の連携や協働の必要性を理解し、説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	在宅看護における援助の特徴
第２回	療養環境整備（服薬管理含む）
第３回　AL 2	日常生活援助1-食事支援
第４回　AL 2	日常生活援助2-清潔支援
第５回　AL 2	日常生活援助3-排泄支援
第６回　AL 2	日常生活援助4-感染予防
第７回	リハビリテーション（生活再建含む）
第８回	災害への備え、授業のまとめ

成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記）60%　成果物 40%
教　　科　　書	『系統看護学分野　統合分野　在宅看護論』秋山正子他（医学書院）
参　考　文　献	『ナーシング・グラフィカ　在宅看護論(2)　在宅療養を支える技術』臺有桂他（メディカ出版）
事前学習(内容･時間)	講義該当部分のテキスト（配布プリントなど）を通読し予習する（２時間)。
事後学習(内容･時間)	授業時間に指示された課題およびテキスト（配布プリントなど）にて復習する（２時間)。
フィードバックの方法	質問やレポートについては、授業内で解説します。
備　　考	**オフィスアワー**：オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	―	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅲ （在宅ケアの演習）	久保田千代美	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31303

科目の概要

在宅看護における安全と健康危機管理について教授する。また、在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を教授する。

到 達 目 標

●在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族の生活状況をふまえ、安全に配慮した援助の必要性について説明できる。
●在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族への看護援助技術の実際について説明できる。
●在宅療養者と家族のニーズに則した看護目標の設定と個別性を尊重した看護計画を立案できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	医療管理を要する療養者と家族の生活と看護
第２回　AL 3	療養者宅での看護援助の特徴と留意点
第３回　AL 3	医療的援助の必要な療養者への援助技術①　褥瘡の予防とケア
第４回　AL 3	医療的援助の必要な療養者への援助技術②　経管栄養法・在宅中心静脈栄養法
第５回　AL 3	医療的援助の必要な療養者への援助技術③　在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法
第６回　AL 3	在宅療養者と家族の支援①　脳血管疾患・認知症
第７回　AL 3	在宅療養者と家族の支援②　難病
第８回　AL 3	在宅療養者と家族の支援③　在宅ターミナルケア・グリーフケア
第９回　AL 3	在宅看護過程の展開①　在宅における看護過程の特徴
第10回　AL 3	在宅看護過程の展開②　情報整理
第11回　AL 3	在宅看護過程の展開③　アセスメント
第12回　AL 3	在宅看護過程の展開④　課題の明確化・援助目標の設定
第13回　AL 3	在宅看護過程の展開⑤　看護計画の立案
第14回　AL 4	在宅看護過程の展開⑥　看護計画の発表・ディスカッション
第15回　AL 3	訪問看護活動の実際・まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　小テスト 20%　成果物 20%					
教科書	『系統看護学分野　統合分野 在宅看護論』河原加代子他（医学書院）、 『よくわかる在宅看護　改訂第３版』角田直枝（学研メディカル秀潤社）					
参考文献	『写真でわかる訪問看護アドバンス』押川真紀子（インターメディカ）					
事前学習(内容･時間)	該当部分のテキスト（配布資料等）を通読し予習を行う（１時間）。					
事後学習(内容･時間)	授業時間に指示された課題の実施および該当部分のテキスト(配布資料等)の復習を行う（２時間）。					
フィードバックの方法	質問および課題については授業内で説明および解説する。					
備考	講義・演習に際し基礎看護技術の復習を行っておくこと。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	―	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅳ （地域ネットワーク論）	尾ノ井美由紀	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

療養者と家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際から、在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成・仕組みづくりを教授する。また、演習を通して健康課題別の地域資源作りの考え方を習得させる。地域包括ケアシステムに関わる機関や専門職の役割と連携方法から看護職の役割について教授する。

到 達 目 標

●在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成と仕組みづくりを説明できる。
●地域包括ケアシステムに関わる機関について説明できる。
●地域包括ケアシステムにおける連携方法と看護職の役割を説明できる。
●健康課題別に地域包括ケアシステム作りの考え方を発表できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
第１回	地域包括ケアシステムと地域包括ケア支援センター
第２回	地域包括ケアシステムづくりの方法と実際
第３回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
第４回	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割
第５回　AL 2	退院調整支援
第６回　AL 2	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
第７回　AL 2	高齢者（介護予防・終末期）を支える制度と社会資源
第８回　AL 2	認知症高齢者を支える制度と社会資源
第９回　AL 2	障害者を支える制度（心身障害者）と社会資源
第10回　AL 2	障害者を支える制度（精神障害者）と社会資源
第11回　AL 2	難病患者を支える制度と社会資源
第12回　AL 3	事例に基づく制度と社会資源（現行の社会資源）
第13回　AL 3	事例に基づく制度と社会資源（不足する社会資源）
第14回　AL 4	課題発表１
第15回　AL 4	課題発表２

成績評価方法	定期試験（レポート）70%　成果物 30%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ　在宅看護論(1)　地域療養を支えるケア』臺 有桂他編（メディカ出版）					
参考文献	『系統看護学講座　統合分野　在宅看護論』秋山正子他（医学書院）					
事前学習(内容･時間)	該当部分のテキストを読んでおく（30分）。					
事後学習(内容･時間)	授業時間に指示された課題を実施する（30分）。					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します。					
備考				**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－① （絵画療法）	木村　千尋	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32201

科目の概要

自由に描いた絵は言語表現以上に自己の感情を示しており、人の心理状態を読みとることが可能となる。本科目では、心理的問題に対処できる絵画療法の概要や方法を、カウンセリングを含めた演習を主として教授する。さらに、ホスピタルアートの意義と技能について教授する。

到 達 目 標

●絵画療法による患者のカウンセリング技法について述べることができる。
●絵画療法を活用した患者や医療従事者のセルフケア方法について説明できる。
●ホスピタルアートの表現方法や病院内での絵画選択方法を身につけて、院内の色彩計画書を作成できる技能を習得する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 2	オリエンテーション　絵画療法とは何か
第２回　AL 4	絵画療法と看護の意識
第３回　AL 3	色彩心理学概論
第４回　AL 2	カウンセリング導入と絵画療法
第５回　AL 3	医療と癒しのリズム
第６回　AL 2	絵画療法　樹木画
第７回　AL 2	絵画療法　家屋画
第８回　AL 2	絵画療法　人物画
第９回　AL 2	風景構成法　読み取りトレーニング
第10回　AL 3	ホスピタルアートとミュージックセラピー
第11回　AL 2	コラージュ療法
第12回　AL 2	視覚コミュニケーションと色彩心理学
第13回　AL 3	病院内での色彩活用方法
第14回　AL 3	看護に使う具体的事例
第15回　AL 3	ホスピタルアートのファシリテーション方法

成績評価方法	成果物 100%（内、レポート課題 60%、作品 40%）						
教科書	プリント随時配布。適宜紹介する。						
参考文献	『アートミーツケア叢書vol.1 病院のアート　医療現場の再生と未来』アートミーツケア学会編（生活書院）						
事前学習(内容･時間)	素材準備（第11回コラージュ療法で使用）（１時間）、常にアートに関心を持ち、記録・撮影する（１時間）。						
事後学習(内容･時間)	毎回授業での学習内容を復習すること。適時課題発表をしてからレポートを作成すること（２時間）。						
フィードバックの方法	各自の授業ごとの作品をみて、コメントを一人ずつ伝えます。						
備考	絵を上手に描く必要はなく、色や形を楽しんで表現する事を望んでいます。カウンセリング方法・コミュニケーション能力を身につけて頂きたい。			**オフィスアワー**	授業前後		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	○	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－② （音楽療法）	武田倫衣子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32202

科目の概要

音楽療法では､クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる｡現在､音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている｡看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は､クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる｡クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師たちへ､音楽療法の基本及び看護師としての有効な関わり方を講義する｡

到 達 目 標

●音楽療法についての基礎知識を修得し、説明できる。
●音楽療法の意義と、看護師が積極的に参加することの重要性を理解し、解説することができる。
●音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得し、活用できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	音楽療法の概要
第２回	心身障がい者（児）のための音楽療法①
第３回	心身障がい者（児）のための音楽療法②
第４回	精神科における音楽療法①
第５回　AL 6	精神科における音楽療法②
第６回	第１回から第５回までの授業内容の復習・第１回小テスト
第７回	第１回小テスト解説・高齢者施設における音楽療法①
第８回	高齢者施設における音楽療法②
第９回	神経学的リハビリテーション・緩和ケア病棟/ホスピスにおける音楽療法①
第10回	緩和ケア病棟/ホスピスにおける音楽療法②・色々な音楽療法（新生児集中治療室など）①
第11回　AL 6	色々な音楽療法（視覚・聴覚障がい児と音楽療法など）②・音楽療法と関わりのある色々な代替療法・音楽療法の歴史
第12回	第７回から第11回までの授業内容の復習・第2回小テスト
第13回　AL 6	第２回小テスト解説・音楽療法のデザインと実践①
第14回　AL 6	音楽療法のデザインと実践②・総括（音楽療法にまつわる動画を見ながら）①
第15回　AL 6	総括（音楽療法にまつわる動画を見ながら）②

成績評価方法	小テスト 40%　成果物 40%　定期試験（レポート）20%					
教科書	特になし（資料を随時アップロードする)。					
参考文献	必要に応じて適宜アップロードする。					
事前学習(内容･時間)	次回の授業内容について、インターネット・書籍などで自分なりに知識を得ておく（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業内容の復習（２時間)。					
フィードバックの方法	小テスト・課題は提出期日後に返却し、授業内に解説を行います。定期試験（レポート）は提出期日後に返却を行います。					
備考	受講にあたって音楽的知識の有無は問わないが、音楽に興味・関心があることが望ましい。			**オフィスアワー**	授業後30分（随時メール・チャットでも受け付けます。）	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－③ （笑い療法）	古谷　昭雄	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32203

科目の概要

笑いは免疫力を上げ、自然治癒力を持つということを認識し、笑いの効果を実感してもらうことを目的とする。笑いの三大効用は健康力、人間関係力、創造力であるといわれている。それらを高めるためには、自己表現ができる芸術の力をかりなければならない。講義や演習でノーズフルートやラフターヨガを実践することにより、心と脳の処方せんである笑い療法について教授する。

到 達 目 標

●笑いは免疫力を上げ､楽しく豊かに生きるためのコミュニケーション､マネジメントの基本であることについて説明できる。
●ラフターヨガとノーズフルートや身近な楽器を使って笑い療法を企画することができる。
●企画された笑い療法をグループごとのフイールド - ワークのなかでレクリエーションの一環として実演することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 3	看護と芸術１（ガイダンス、笑いと健康、ユーモア看護）
第２回　AL 3	看護と芸術２（芸術療法、ノーズフルート入門）
第３回　AL 3	ユーモア療法１（日本笑い学会、笑いヨガ協会）
第４回　AL 4	ユーモア療法２（ユーモア看護アプローチ、ユーモアと非言語的行動）
第５回　AL 5	癒しのノーズフルート１（実演と演習）
第６回　AL 5	癒しのノーズフルート２（実演と演習）
第７回　AL 5	癒しのラフターヨガ（実演と演習）
第８回　AL 3	ノーズフルート脳感演奏の効果
第９回　AL 3	ラフターヨガの実践の効果
第10回　AL 3	ノーズフルート脳感演奏の企画リハーサル
第11回　AL 3	ラフターヨガの実践の企画リハーサル
第12回　AL 5	フイールド - ワーク１（シニア会または病院にて実演）
第13回　AL 5	フイールド - ワーク２（シニア会または病院にて実演）
第14回　AL 5	フイールド - ワーク３（介護福祉施設または病院にて実演）
第15回　AL 5	フイールド - ワーク４（介護福祉施設または病院にて実演）

成績評価方法	定期試験（レポート）50%　成果物 50%						
教科書	『ユーモア看護　―癒しと和み―』平澤久一　古谷昭雄監修（金芳堂）						
参考文献	『笑って長生き　笑いと長寿の健康科学』昇　幹夫著（大月書店)、『笑は咲にして勝なり　人生100年時代の指南書』中井宏次著（薬事日報社）						
事前学習(内容･時間)	楽器演奏、ラフターヨガの練習（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	楽器演奏、ラフターヨガの練習（２時間)。						
フィードバックの方法	成果物については、授業内で解説をします。						
備考	笑いと健康、笑いとヨガ、音楽などに興味・関心を持ってください。この授業の成績評価においては、フイールド - ワークへの参加が必須となります。必ず出席して下さい。 授業で必要なノーズフルート（￥1,000円前後）を購入していただきます。			**オフィスアワー**	授業終了後30分、質問を受け付ける。		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	○	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－④ （セラピーメイク）	福井　美余	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32204

科目の概要

今、看護現場でもメイクアップの力が求められています。身だしなみを整える化粧行動によって、前向きになり明るく行動的になるなど、心理面にもよい効果があるとして「化粧療法」が様々な研究で明らかになってきています。本授業では、その化粧療法に必要な知識と技術、カウンセリングやアドバイスなどのメイクを通したコミュニケーションについて教授します。

到 達 目 標

●看護師としての身だしなみでもある「セルフメイク」の知識と技術が習得できる。
●人に寄り添う医療のための「セラピーメイク」の知識と技術が習得できる。
●看取りの際におこなう「エンゼルメイク」の知識と技術が習得できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション　メイクと心の関わりについて　セラピーメイクの必要性について
第２回	スキンケア基礎　皮膚理論・クレンジングと洗顔
第３回　AL 3	スキンケア基礎　肌質の特徴と保湿スキンケア
第４回	メイクアップ基礎　ファンデーションの種類と塗り方
第５回	メイクアップ基礎　チークの塗り方
第６回　AL 3	メイクアップ基礎　眉の形作りと描き方
第７回	メイクアップ基礎　アイメイク化粧品の種類と塗り方
第８回	メイクアップ基礎　リップ化粧品の種類と塗り方
第９回　AL 4	メイクアップ応用　顔分析メイク　顔型別のチークとハイライトの塗り方
第10回	メイクアップ応用　似合う色の選び方と化粧品の色分け法
第11回	メイクアップ応用　エイジレスメイク　あらゆる世代が若々しく見えるメイク法
第12回　AL 4	メイクアップ応用　敏感肌用メイク　アトピー性皮膚炎や敏感肌のメイク
第13回	メイクアップ応用　カバーメイク　ニキビ跡やアザ、傷跡のメイク
第14回	メイクアップ応用　エンゼルメイク
第15回	１回目から８回目までのメイクアップ基礎のまとめと小テスト

成績評価方法	定期試験（筆記）100％					
教科書	授業ごとに資料配布。					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	講義時に使用するテキストを事前に読んでおくこと（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義内で行ったメイク実習を復習すること（２時間)。					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説を行います。					
備考	メイクアップの知識と技術をいかすために、自宅での復習と練習が大切です。			**オフィスアワー**	授業の前後	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ―⑤	上田　順平	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32205

科目の概要

芸術療法への理解を目的に陶芸制作の指導をすると共に、様々な陶芸芸術に触れる機会を設けます。そして、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を焼きものをつくることで体感し、その重要性を認識してもらいます。また、窯詰め、窯出しなどの共同作業を他者と協力して行う事で、今後の実習等に活かせる協調性や対応力を育てます。

到 達 目 標

●焼き物の成り立ち、基本的な陶芸制作の方法を説明することができる。
●焼き物を通じて、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感し、作品に表現することができる。
●基礎的な焼き物作りの方法を身につけ、制作を行うことができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回　AL 5	焼き物の成り立ち、制作プロセスの紹介
第２回　AL 5	作りたい作品のイメージを共有して、様々な芸術作品を紹介する。
第３回　AL 5	カップやお茶碗、オブジェなどの制作開始
第４回　AL 5	粘土による造形を手びねり、くりぬき技法、粘土板を貼り付けるなどして成形する。
第５回　AL 5	目標の大きさまで成形する。
第６回　AL 5	作品の形を整える。
第７回　AL 5	取ってなどの付属部品をとりつける。
第８回　AL 5	乾燥させて削り作業にて形を調整する。
第９回　AL 5	作品の底、裏側の処理を行う。
第10回　AL 5	粘土段階での加飾を行う。
第11回　AL 5	粘土段階での加飾を行う。
第12回　AL 5	素焼きに備えて、表面処理を行う。
第13回　AL 5	絵付けと釉薬作業
第14回　AL 5	絵付けと釉薬作業
第15回　AL 4	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会（意見交換）

成績評価方法	成果物 100%（内、作品 80%、プレゼンテーション評価 20%）						
教科書	無し						
参考文献	無し						
事前学習(内容･時間)	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に活かせるようにすること（２時間)。						
フィードバックの方法	講評会の際に芸術からの視点、生活からの視点で受講者それぞれの作品について、講評を行います。						
備考					**オフィスアワー**	授業終了後90分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	○	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅱ （治療環境とアメニティ）	森　合音	講義	4年次 後期	必修	2	30	KSP41101

科目の概要

超高齢社会の到来、コロナ禍により今、医療現場は大きく変化している。先の見通せない不確かさの中で私たちは何を目指し、何を成すのか。これからの看護に求められるものは？看護と芸術がどのような関係性を持ち、芸術分野が看護に与える役割を教授する。また、医療現場における様々なアート活動の事例を知り、その手法を学ぶことで実践力を身につけ、創造的な看護師育成を目指して講義する。

到 達 目 標

●既成概念にとらわれず、医療現場の問題を治療環境の側面から分析し、その問題点を列挙できる。
●他者の痛みを想像し、寄り添える柔軟な感性を持ち、表現できる。
●創造性を身につけ、想いを表現し、改善への道筋をたて、作品を制作し、解説できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	「ホスピタルアート」とは看護と建築との繋がり
第２回	看護と芸術　心の「痛み」と芸術表現
第３回	病院に於けるアートの役割　①理念の顕在化（事例紹介）
第４回　AL 4	自己を表現する・他者の表現に触れる　課題説明
第５回　AL 4	自己を表現する・他者の表現に触れる　作品講評
第６回	自己を表現する・他者の表現に触れる　作品講評
第７回	病院に於けるアートの役割　②業務改善（事例紹介）
第８回	病院の想いを伝えるアート（伝える）　課題説明
第９回　AL 4	環境づくりのためのアート　作品講評
第10回	問いを見つけ出し、言葉とビジュアルで改善する。サイン計画　課題説明
第11回	サイン計画　作品講評
第12回	医療者と患者をつなぐコミュニケーション ニッチの作品制作　課題説明
第13回	病院に於けるアートの役割　③社会包摂（事例紹介）
第14回　AL 4	ニッチ作品　作品講評
第15回	まとめ　これからの看護師さんたちへ「未来共創の哲学」より

成績評価方法	成果物 100%（レポート課題 50%　作品 50%）						
教科書	特になし						
参考文献	『未来共創の哲学　大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子（言叢社）						
事前学習(内容･時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる（２時間)。						
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します。						
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します。			**オフィスアワー**	Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます。		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	○	○	○	△	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護教育学	澤田　京子	講義	4年次 後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

看護教育学の目的を明らかにし、その目的を達成するための看護教育制度と歴史的変遷について講義をする。さらに、看護教育を具体化するための教育課程について説明し、看護教育への関心が深まる講義をする。学習指導案を通して、効果的な授業展開に必要な学習者観、教育観、教材観について説明する。

到 達 目 標

●看護教育の理念・目的について述べることができる。
●日本の看護教育制度、看護教育の現状と課題について述べることができる。
●看護教育における教育課程についてその概要を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	看護教育学とは
第２回	我が国における看護教育の歴史的変遷、看護教育制度と看護教育関連法規
第３回　AL 3	諸外国の看護教育制度の現状と課題
第４回	看護教育課程　カリキュラムの概念
第５回	教育方法、授業設計　看護教育評価
第６回　AL 3	学習指導案の作成について
第７回　AL 3	学習指導案に基づいた実際の授業参加とまとめ
第８回　AL 3	看護卒後教育と看護学教育の今日的課題と展望

成 績 評 価 方 法	成果物 100%
教　　科　　書	毎回資料を配布します。
参　考　文　献	『看護教育学』杉森みど里（医学書院）、 『看護テキストNiCE 看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う』グレッグ美鈴、池西悦子（南江堂）
事前学習(内容･時間)	資料を授業計画に沿って読んでおくこと（２時間)。
事後学習(内容･時間)	授業内容を復習すること（２時間)。
フィードバックの方法	レポートは、授業内にコメントを入れて返却します。
備　　考	現在の看護教育、就職後の継続教育、将来の看護教育について興味をもって一緒に考えましょう。
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
海外看護活動論	杉野　美礼	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42102

科目の概要

世界人口の約80%を占める途上国の人々の健康、地球規模で発生している健康問題／課題（グローバルヘルス）について、その要因となる社会構造および、それに対処する諸機関と戦略について教授する。そして、一人の人間として、また看護職として、どのようにそこに貢献するかを、自国の状況も含めて考えることを促す。

到 達 目 標

●グローバルヘルスの概念とそれを支える看護について説明できる。
●海外看護活動の基礎能力となる文化的な感受性を身につけ、異文化理解を看護に統合して説明できる。
●海外看護活動の基礎となる情報収集方法を理解し、現地に必要な支援を考えることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	国際看護学の概念と、世界の健康問題の概要を学ぶ。
第２回	国際看護の理念･概念から貧困と開発、プライマリヘルスケア、人間の安全保障、持続可能な開発目標を学ぶ。
第３回	国際協力諸機関と協力の概要、政府開発援助、被災府組織の特徴と協力の仕組みの概要を学ぶ
第４回　AL 1	開発途上国の保健医療システム、国際看護協力のアセスメント方法を学ぶ。海外の現場における活動報告を聞き国際協力における看護活動を考える。
第５回	途上国の小児保健医療対策の概要を学び、主要な疾患の特徴とその対応、予防策について理解する。
第６回	途上国における妊産婦死亡の関連要因から、社会的問題と国際看護の役割について考える。
第７回	世界の三大感染症（マラリア、結核、HIV／AIDS）の疾患の特徴と対策、予防について学ぶ。
第８回	国際災害看護学の概要を学ぶ。
第９回　AL 1	災害支援の基準となる活動指針を学び、災害看護のありかたを考える。海外の現場における活動報告を聞き国際協力における災害看護活動を考える。
第10回	国際協力の情報収集・アセスメント方法を学び、住民参加と健康教育の取り組み方を考える。
第11回	国際看護の基礎となる多文化共生看護の概念と適応方法を学ぶ。在日外国人の健康課題と保健医療サービスを学び、国際看護の取り組み方を考える。
第12回　AL 6	国家試験対策：国際看護関連の過去問題から傾向を知り、対策をたてる。 国際保健活動の取組を考える。
第13回	看護教育における国際協力
第14回　AL 1	海外の現場における国際保健活動の実際（海外ワーカー報告）
第15回　AL 6	国際看護のキャリア形成方法 国際保健活動の企画から、多文化共生看護にもとづいた国際看護活動を考える。

成績評価方法	成果物 80%（毎回のワークシート、最終レポート）　講義時の小テスト 20%
教科書	『改訂版　国際看護学　看護の統合と実践　開発途上国への看護実践を踏まえて』柳澤理子（ピラールプレス）
参考文献	国際保健関連記事、情報、動画（ウェブサイト参照）、適宜指示します。
事前学習(内容･時間)	教科書や資料に目を通す。テレビやインターネットのニュース・新聞で、最新の国際情勢やグローバルヘルス情報を学ぶ（２時間)。
事後学習(内容･時間)	課題により学習内容を振り返り、国際看護についての自己の考えを深め、表現する（２時間)。
フィードバックの方法	授業ワークシートに対する応答を遠隔講義内、また個別メール対応にて行います。
備考	**オフィスアワー**　Teams上で随時質問を受付けます。

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅰ （リスクマネジメント）	片山　康予 前田　勇子 卯川　久美	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31102

科目の概要

医療は患者中心に提供されるものであり、安全性が100%保障されなければならない。しかし、医療・看護が人間によって行われる限りエラーをゼロにすることは非常に困難なことである。近年の医療は専門化・細分化・高度化・複雑化しており、プロフェッショナルとしての倫理観や責任感を備えていても、個々人の注意だけでは医療事故を防ぐには限界があり、徹底したチーム医療と施設としての医療事故予防システムの構築が重要である。本授業では、医療を安全に提供する為の体制や対処システムについて多角的に学ぶとともに、安全に臨地実習に取り組むための注意点などについて講義する。

到 達 目 標

●医療安全とリスクマネジメントの概念を述べることができる。
●看護における安全対策、看護業務上の危険と防止対策について述べることができる。
●臨地実習時におけるリスクと安全について理解し、自らの防止対策について説明することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	医療安全と看護の理念
第２回	事故発生のメカニズム
第３回	事故分析（具体的な分析手法の紹介）
第４回	医療機関における医療安全への取り組み
第５回	チームで取り組む安全対策
第６回	臨地実習とリスクマネジメント
第７回　AL 4	医療を安全に提供するためのシステム①：基本的な考え方
第８回　AL 4	医療を安全に提供するためのシステム②：職務と管理体系
第９回　AL 4	医療を安全に提供するためのシステム③：看護提供システムの種類と特徴
第10回　AL 4	医療を安全に提供するためのシステム④：医療チーム活動における連携
第11回　AL 4	患者のニーズに応える看護実践①：看護の専門化
第12回　AL 4	患者のニーズに応える看護実践②：認定看護師の活動の実際
第13回　AL 4	看護職員の職務管理①：現任教育
第14回　AL 4	看護職員の職務管理②：看護職員の労働安全衛生
第15回	看護学実習における医療安全・感染管理上のリスクと対応策

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)医療安全』松下由美子他編（メディカ出版）、『系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践[1] 看護管理』上泉和子他（医学書院）					
参考文献	適宜紹介する。					
事前学習(内容･時間)	教科書を授業計画に沿って読んでおくこと（１時間)。					
事後学習(内容･時間)	授業内容を復習すること（１時間)。					
フィードバックの方法	レポートにはコメントを入れて返却します。					
備考	日頃から自分の生活の周辺の安全に関心を持ちましょう。			**オフィスアワー**	随時、Teamsのチャット機能で受け付ける。	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅱ （看護管理）	大川眞紀子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42103

科目の概要

対象者に質の高い継続した看護を提供するために、対象者を取り巻く保健医療福祉分野のさまざまな変化について知ることは重要である。看護管理では歴史的な経緯を踏まえ、看護実践者として組織の運営管理やマネジメントについて講義する。また、看護活動に必要な保健医療福祉に関わる多職種間との連携・協働や看護組織における管理の実際について説明する。

到 達 目 標

●看護・医療の質向上のための組織運営やマネジメント及びリーダーシップに関して説明することができる。
●看護管理の実際「ケアのマネジメント」「組織のマネジメント」「セルフマネジメント」ついて理解し、考えを述べることができる。
●保健医療福祉に関わる多職種との連携・協働について理解し、看護の役割について考察することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	良い看護を提供するために
第２回　AL 4	看護管理学とは　なぜ「看護は大変な仕事」「でもやりがいがある」
第３回	マネジメントと看護におけるマネジメント
第４回　AL 3	看護者に求められるマネジメント能力　リーダーシップ・メンバーシップ　コミュニケーション セルフマネジメント　キャリア開発
第５回	看護を取り巻く諸制度
第６回	組織のマネジメント（１）
第７回　AL 4	組織のマネジメント（２）
第８回	ケアのマネジメント（１）
第９回	ケアのマネジメント（２）
第10回　AL 4	ケアのマネジメント（３）
第11回　AL 3	多職種チームのマネジメント（社会背景、課題を踏まえて多職種との連係のあり方を考える）
第12回	リソースナース
第13回	看護管理と災害看護（１）
第14回　AL 3	看護管理と災害看護（２）
第15回　AL 4	これからの看護管理を展望する（準備学習として自分の考えをまとめておく）社会人としての心構え

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　小テスト 20%　成果物 20%						
教科書	『系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践[1] 看護管理』上泉和子（医学書院）						
参考文献	随時紹介						
事前学習(内容･時間)	該当部分のテキストを読んでおくこと（２時間)。						
事後学習(内容･時間)	授業内容を自己ノートにまとめる。不明な力所は次回まで整理し、質問する（２時間)。						
フィードバックの方法	前回の復習や課題は授業で解説します。						
備考	グループワークには自己の考えをもって参加する。 厚生労働省のホームページに目を通す習慣をつける。			**オフィスアワー**	授業前後に質問を受け付ける。		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）	
	○	○	○	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域リハビリテーション論	三好　弘之	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSP32101

科目の概要

わが国では、2025年問題（後期高齢者の増加）に向けて、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。さらに、2040年問題や8050問題も浮上し、高齢者だけでなく、一人ひとりの地域住民に向けた地域包括ケアシステムの構築が重要とされている。それらを踏まえて「地域包括ケアシステム」とは何かについて講義する。また、在宅生活に重要な介護保険や障害者福祉サービス等の社会資源・制度・問題点を教授する。より具体的に高齢者や子ども、障害者への支援体制や問題点を把握するために様々な現場の医療や福祉従事者の生の声を聴き、今後、地域で期待されている看護師の役割・多職種連携のあり方について理解できるよう講義する。

到 達 目 標

●地域リハビリテーションの基本知識について、歴史・思想・実践のあり方の基本知識について述べることが出来る。
●高齢者や障害者が地域で生活するための支援システムについて理解し、各専門職種との連携の場、連携方法を述べることが出来る。
●看護職に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性について述べることが出来る。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	講師自己紹介、「地域」とは何か、「地域リハビリテーション」とは何かについて考える。
第２回　AL 3	地域リハビリテーションに対する基本的な考え方　グループワーク「地域での支え合いについて・住民歴書とは何か・住民歴書を作成してみる」
第３回	地域リハビリテーションにおける歴史・思想・実践のあり方について考える。
第４回	地域リハビリテーションの主要な概念（ノーマライゼーション、ＩＣＦ、ストレングス、エンパワメント、リカバリーなど）
第５回	介護保険と地域リハビリテーション（高齢者）「在宅生活の高齢者をイメージする」
第６回　AL 6	地域リハビリテーションの実際　自助グループについて当事者たちの体験談に耳を傾ける。
第７回　AL 6	地域包括支援センターにおける具体的事例による検討（高齢者）
第８回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族への支援について
第９回　AL 3	地域リハビリテーションにおける具体的事例による検討（身体障害者・知的障害者・発達障害者等）
第10回　AL 6	地域リハビリテーションの実際　地域で活躍している医療・福祉従事者（社会福祉士など）たちの体験談に耳を傾ける。
第11回　AL 3	具体的事例による検討（精神障害者）「精神障害者の生活をイメージする」
第12回	連携とネットワークづくり、地域包括ケアシステムについて
第13回　AL 6	地域リハビリテーションの実際　家族会活動など当事者の家族たちの体験談に耳を傾ける。
第14回　AL 3	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族支援「私ができること・私たちができること」
第15回	地域リハビリテーションの今後の課題と総括

成績評価方法	定期試験（レポート）70%　成果物 30%					
教科書	無し（授業の開始前に資料を配布します）。					
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 成人看護学(5)リハビリテーション看護』奥宮暁子等編（メディカ出版）、『地域包括ケアと地域医療連携』二木立著（勁草書房）、『障害者リハビリテーション 障害の社会モデルその射程と限界』川越敏司編（生活書院）、『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論(1)地域療養を支えるケア』櫻井尚子等編（メディカ出版）					
事前学習(内容･時間)	前講義の配布資料を確認しておくこと（２時間）。					
事後学習(内容･時間)	授業の終了時に次回の課題を伝えます（２時間）。					
フィードバックの方法	授業終了後、課題について作成し提出していただいた小レポートについては、次回の授業で要点を伝えます。					
備考				**オフィスアワー**	授業終了後30分	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
移植コーディネーション論	高原　史郎	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42104

科目の概要

臓器移植の実施には多くの職種が関わり、提供者・受者および家族への精神的ケアや、救急医療・終末期医療に関わる医学的・社会的な多種多様な要因が相互に影響している。提供現場では、家族が親しい人の死を受け止めるための精神的援助やグリーフ・ケアなど、医学的な対応だけでなく精神的な対応も求められる。この科目では様々な医学分野の講義を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療を総合的に理解できることを目指した学習をする。

到 達 目 標

●様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療の知識を身に付け、述べることができる。
●臓器移植及び終末期医療に対する自分なりの見解を持ち現場の対応に関する技術について把握し、述べることができる。
●救急医療の診断・治療についての基本的な考え方を論ずることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	総論　我が国の脳死移植の現状
第２回	心臓移植・肺移植
第３回	肝臓移植
第４回	腎臓移植・膵臓移植
第５回	ドナー・コーディネーターの役割
第６回	レシピエントコーディネーターの役割
第７回	院内コーディネーターの役割
第８回　AL 2	臓器移植Ⅰ　国家試験対策と解説
第９回	救急医学Ⅰ
第10回	救急医学Ⅱ
第11回	臨床心理士の役割
第12回	臓器移植Ⅱ　国家試験対策と解説
第13回	臓器移植Ⅲ　国家試験対策と解説
第14回	臓器移植Ⅳ　国家試験対策と解説
第15回　AL 6	臓器移植Ⅴ　国家試験対策と解説

成績評価方法	定期試験（筆記）50%　定期試験（レポート）30%　小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容･時間)	レジメ、講義資料を２回予習すること（２時間)。					
事後学習(内容･時間)	講義中に行った小テストについて復習すること（２時間)。					
フィードバックの方法	小テストはテスト後に授業内で解説します。					
備考				**オフィスアワー**	Teamsにて随時受付	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究の方法	日高・尾ノ井・中川 上山・北島・房間 平野・國松	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31204

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について教授する。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教示すると共に、その理解を深めることを目指す。

到 達 目 標

●看護研究の意義と研究方法（文献研究・実験研究・量的研究・質的研究）を理解し、説明できる。
●適切な論文クリティークができ、看護の現場からのクリニカルクエスチョンを言語化することができる。
●仮説を導き出し、仮説に基づき、変数化すると共に質問紙を設計できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	イントロダクション、看護研究とは何か　論文のスタイル、研究の種類とその違い
第２回	研究の実施手順、研究計画書とは何か
第３回	量的研究1
第４回	量的研究2
第５回	質的研究1
第６回	質的研究2
第７回	研究倫理1
第８回	量的研究のクリティーク
第９回	質的研究のクリティーク
第10回	質問紙設計1
第11回　AL 3	質問紙設計2
第12回　AL 3	クリティーク演習
第13回　AL 3	クリティーク演習
第14回　AL 3	リサーチクエスチョン演習
第15回　AL 3	調査研究の実際

成績評価方法	成果物 100%（期末レポート 70%、演習成果物 30%）						
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他（医学書院）						
参考文献	『よくわかる看護研究の進め方・まとめ方－量的研究のエキスパートをめざして』横山美江編著（医歯薬出版)、『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方－看護研究のエキスパートをめざして』グレッグ美鈴他編著（医歯薬出版）						
事前学習(内容･時間)	第１回および各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（30分)。						
事後学習(内容･時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分)。						
フィードバックの方法	課題提出後に、全体で講評します。						
備考	講義中の私語、スマートフォンの使用等は厳禁とする。				**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	△	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の探究 (看護の統合)	看護学部 専任教員	講義・演習	4年次 後期	必修	2	60	KSP41201

科目の概要

4年間の学習を振り返り広い視野を持ちながら、自己の看護における関心や課題となるテーマを抽出し文献検索・文献検討を行い研究目的達成のための実現可能な研究計画書を作成できるように教授する。

到 達 目 標

●看護に関する研究テーマを設定できる。
●文献検索・文献検討を通して批判的思考を習得することができる。
●研究目的達成のための研究計画書を作成することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション
第２回　AL 2 ～ 第30回	ゼミナール形式にて行い、「研究計画書」を作成し提出する。

成績評価方法	成果物 100%						
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他（医学書院）						
参考文献	適宜紹介します。						
事前学習(内容･時間)	講義「看護研究の方法」を復習してください（１時間)。						
事後学習(内容･時間)	将来的に、看護研究が実践可能な「研究計画書」を作成する姿勢で取り組み加筆修正を行ってください（１時間)。						
フィードバックの方法	「研究計画書」の作成に関する質問や疑問に対しては随時指導します。						
備考	４年間の看護教育の総仕上げの授業科目なので、主体的に行動し自己研鑽を怠らないようにしましょう。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　主体的行動力	2　表現力	3　社会貢献力・コラボレーション力	4　課題発見力・課題解決能力	5　コミュニケーション力	6　専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	○	○	○	○	

Ⅳ　　専門分野（臨地実習科目）

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅰ （対象理解）	北島･平野･梅川 瀬山･澤田	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

基礎看護学実習Ⅰでは、看護実践場面の見学や対象者とのコミュニケーションを経験することにより、看護の提供の仕組みと看護の機能や役割、対象者の療養生活の様子や対象者の思いを学び、臨地実習を通して看護への興味や関心を高めるとともに、看護職者として必要な倫理的態度を身につけるための学習を支援する。

到 達 目 標

●看護の提供の仕組み、看護の機能や役割について説明することができる。
●対象者の療養生活の様子、対象者の思いやニーズについて説明することができる。
●看護職者としての倫理観に基づく学習姿勢で対象者と関わることができる。
●看護に対する興味・関心をもって主体的に学習することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅰ（１週間） １年次　2021年８月23日（月）～ ８月27日（金）、９月６日（月） 2021年８月30日（月）～ ９月３日（金）、９月６日（月） オリエンテーション２日間を別設定 ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設は法人名を省略) 大野記念病院、協立病院、多根総合病院、星ヶ丘医療センター、八尾市立病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する。						
教科書	実習開始時に提示する。						
参考文献	実習開始時に提示する。						
事前学習(内容･時間)	別紙課題を提示します（10時間)。						
事後学習(内容･時間)	実習で学んだことを論理的にまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる（８時間)。						
フィードバックの方法	実習記録は毎日指導する。最終レポートは面談で学んだことや今後の課題を確認し指導する。						
備考	入学して初めての実習です。何よりも大事なのは、患者さんがどのような思いをもっていらっしゃるのかを理解しようとする態度です。前期の基礎看護学の授業では、そのために必要なコミュニケーション能力を養い、また知識と技術を学びます。学内授業での学びが実習に直結しますので、毎日の授業にしっかり取り組んでください。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	△	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ （看護過程）	平野･北島･梅川 瀬山･澤田	実習	2年次 後期	必修	2	90	KSP21401

科目の概要

基礎看護学実習Ⅱでは、対象者を受け持ち、コミュニケーションやフィジカルアセスメント、診療記録等から情報収集・アセスメントを行い、看護上の問題を明らかにし、その問題解決の思考プロセスが展開できるよう看護実践を通して指導する。

到 達 目 標

●情報収集から解釈・分析までのアセスメントができる。
●看護上の問題の明確化および看護計画立案ができる。
●看護計画の実施・評価ができる。
●受持ち対象者との看護実践を振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅱ（２週間） ２年次　前半グループ　2022年２月14日（月）～ ２月25日（金） 後半グループ　2021年２月28日（月）～ ３月12日（金） オリエンテーション２日間、実習のまとめ１日間を別設定 ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大野記念病院、協立病院、多根総合病院、星ヶ丘医療センター、八尾市立病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
事前学習(内容･時間)	実習開始前は、既習学習の知識の振り返りと援助技術の習得。実習中は毎日、受持ち患者に必要な知識と技術の学習（40時間)。
事後学習(内容･時間)	実践した看護のまとめと自己の課題を明確にする（８時間)。
フィードバックの方法	実習記録は、毎日指導する。全体関連図は、実習中のカンファレンスでディスカッションし修正をする。最終レポートは面談で学んだことや今後の課題を確認し、指導する。
備考	この実習で看護過程の展開（問題解決のプロセス）をしっかり学んでください。３年後期からの各看護学の実習で活用していきます。
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅰ （急性期・回復期）	中川・房間 國松・浅井	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	3	135	KSP31401

科目の概要

急性または救急疾患あるいは手術を受ける成人期の患者に対し、治療による心身への侵襲に伴う変化と回復過程をふまえ、急性期から回復期における全人的な看護援助（回復促進のための看護、患者およびその家族の社会生活への復帰に向けた看護）が展開できるよう指導する。

到 達 目 標

●患者や家族を総合的に理解し、急性または救急疾患の患者あるいは手術を受ける患者が心身を整えるための援助を実施できる。
●急性または救急疾患や手術等の侵襲に対する生体反応を踏まえ、回復促進に向けた援助を科学的根拠のもとで実施できる。
●身体機能やボディイメージの変化を踏まえ、患者およびその家族が社会生活へ復帰するための援助を実施できる。
●急性期から回復期における看護の役割や継続について説明できる。
●看護実践を振り返り、自己の看護観について述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅰ（３週間） ３年次　後期 ４年次　前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 尼崎総合医療センター、医誠会病院、大阪暁明館病院、北野病院、神戸マリナーズ病院、大和病院、多根総合病院、ベリタス病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　成人看護学実習Ⅰ実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度後期～2022年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容･時間)	成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること（３時間）。					
事後学習(内容･時間)	実習で受け持った患者の病態や実習中に理解できなかったことを振り返り学習すること（３時間）。					
フィードバックの方法	実習記録にコメントを入れて返却します。					
備考	急性期は展開が早いため主体的に課題解決し、チーム医療の一員として実習に臨むこと。基礎看護学実習で学習したことや看護技術を復習しておくこと。		**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅱ （慢性期・終末期）	中川・房間 國松・浅井	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

生活習慣病をベースとする慢性疾患患者は、療養を継続しながら生活を維持していくため“自己コントロール”を行う必要がある。生涯にわたり生活調整を必要とする成人期にある患者およびその家族に対して、セルフケア能力を高める援助およびＱＯＬの維持・向上を目指した看護を実践できるように指導する。

到 達 目 標

●慢性的な健康障害の状態に応じた看護が実践できる。
●患者および家族がライフスタイルを再構成するための援助ができる。
●患者の療養生活継続への援助を説明できる。
●看護実践を通して、慢性期看護について述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅱ（３週間） ３年次　後期 ４年次　前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 尼崎総合医療センター、医誠会病院、大阪暁明館病院、北野病院、大和病院、神戸マリナーズ病院、ベリタス病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　成人看護学実習Ⅱ実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する。					
参考文献	実習開始時に提示する。					
事前学習(内容･時間)	成人看護学Ⅲ・Ⅳの講義および演習内容を復習し、翌日の看護に関する学習を行うこと（３時間)。					
事後学習(内容･時間)	毎日、実習を振り返り実施した看護の評価を行うこと（３時間)。					
フィードバックの方法	記録用紙にコメントして、返却する。					
備考	主体的に取り組み、看護とは何かを中範囲理論を用いて考えながら課題解決し、チーム医療の一員として実習する。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学実習	山本　裕子 高橋みどり	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	4	180	KSP31403

科目の概要

元気な高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションや触れ合いを通して、日常生活の過ごし方や家族や社会とのつながりなどを知ることにより高齢者の多様性について理解するとともに、様々な療養場所での生活援助を通して高齢者を総合的にアセスメントし健康障害のレベルに応じた個別性のある看護過程の展開ができるように教授する。

到 達 目 標

●元気な高齢者が地域でどのような生活や活動をしているのかを説明することができる。
●高齢者への看護援助を通して、高齢者の多様性を理解し自立・自律を尊重した個別性のある看護過程の展開を実践することができる。
●家族を含む他職種の役割を理解し、看護職に期待される役割と連携の仕方を説明することができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 老年看護学実習（４週間） ３年次　後期 ４年次　前期 ○実習施設：下記の１と２のいずれかを組み合わせて行う。（実習施設の法人名は省略） １．フィールド実習：大阪市内高齢者施設、ATCエイジレスセンター ２．施設実習：介護老人保健施設（ポート愛ランド。老健、ポート愛ランド。老健ムーチョ、摂津老健ひかり他） その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度後期～2022年度前期 老年看護学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度後期～2022年度前期 老年看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
事前学習(内容･時間)	実習前に事前課題を出します（10時間）。
事後学習(内容･時間)	実習を振り返り自己の課題を見つけ取り組んでください（適宜）。
フィードバックの方法	記録物にコメントを入れるとともに、その都度口頭にて指導を行います。
備考	看護過程の展開方法を復習するとともに事前課題をしっかりと勉強し実習に臨んでください。
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	松尾ひとみ	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

到 達 目 標

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
	未定のため別途配布します

成績評価方法							
教科書							
参考文献							
事前学習(内容･時間)							
事後学習(内容･時間)							
フィードバックの方法							
備考					オフィスアワー		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	上山　直美 東尾　公子	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

病院施設や助産所等を実習施設として、周産期の母児に対する看護の実際を実習講義する。具体的には、周産期の母子と家族への看護実践活動から、妊婦、産婦、褥婦とそのパートナー、新生児および家族への支援に必要な能力を養うとともに、セルフケアの視点に基づいて看護展開が行えるように教授する。

到 達 目 標

●周産期の母子およびそのパートナーや家族に対する看護過程の展開ができ、ＳＯＡＰ方式で看護計画を評価できる。
●ライフサイクル各期の女性の健康問題を理解し、援助法を考え、説明することが出来る。
●生命誕生、親としての存在について考えを深めるとともに、ディスカッション及び記述することが出来る。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 母性看護学実習（２週間） ３年次　後期 ４年次　前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、大阪府助産師会、大阪母子医療センター、北野病院、恵生会病院、 済生会茨木病院、吹田徳州会病院、第二協立病院、ベルランド病院、八尾市立病院、洛和会音羽病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　母性看護学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　母性看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
事前学習(内容･時間)	実習に際する事前学習（夏休み課題や既習科目の復習　１日２時間程度が望ましい)。
事後学習(内容･時間)	受け持ち対象者の看護過程の展開（１日２時間程度が望ましい)。
フィードバックの方法	夏休み実習前学習はチェックリストをつけて到達度を自他で確認できるように設定します。実習中は適時、看護過程記録の相談を受け指導を行います。
備考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	精神看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神障害をもつ人とのかかわりを通して、その人の抱えている問題を生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象とかかわることを教授する。

到 達 目 標

●対象の人となりを生育史や生活背景、家族背景とのつながりから説明できる。
●対象が日常生活を送る上で、身体・行動・対人関係などの面でどのような問題を抱えているのか、また、それはその人にとってどのような生きにくさの体験なのかを説明できる。
●自らのかかわりの意味を考えながら、対象の日常生活に参加し、患者とかかわることができる。
●かかわりのなかで生じる自分の気持ちを振り返り、患者－看護師の治療的関係の視点からやりとりの意味を考察し、述べることができる。
●治療的環境をつくり出す一員として自分が存在していることを意識して行動することができる。
●精神障害をもつ人々をとりまく状況において、精神保健医療福祉の現状と課題を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 精神看護学実習（２週間） ３年次　後期 ４年次　前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。 １．病院実習：八尾こころのホスピタル他 ２．地域精神保健医療施設実習：デイケア、作業所他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度後期～2022年度前期 精神看護学実習 実習要項」による

成績評価方法	別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　精神看護学実習 実習要項」に記載する。						
教科書	実習開始時に提示する。						
参考文献	実習開始時に提示する。						
事前学習(内容･時間)	実習要項に記載している事前学習（３時間)。						
事後学習(内容･時間)	受け持ち患者の理解・かかわりに必要な内容を学習し、指導を受けた内容の振り返りをすること（１時間／日)。						
フィードバックの方法	実習記録にコメントを付して返却する。実習終了後に評価面接を行う。						
備考	精神看護においては、自己理解・対象理解のプロセスが重要ですので、サポート資源として教員・指導者を活用してください。			**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照		
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)	
	○	○	○	○	○	○	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論実習	在宅看護論 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31407

科目の概要

家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を教授する。また、在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が分かり、他職種との連携・協働について理解できるよう指導する。

到 達 目 標

●家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を説明できる。
●在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が説明できる。
●在宅療養を支える他職種との連携・協働の実際について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 1．在宅看護実習（２週間） ３年次　後期 ４年次　前期 ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1．訪問看護ステーション実習：多根訪問看護ステーション、つばい訪問看護ステーション、阪和訪問看護ステーション　他 2．居宅介護支援事業所実習：暁ケアプランセンター、多根総合病院居宅介護支援事業所　他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度後期～2022年度前期 在宅看護論実習 実習要項」による。

成 績 評 価 方 法	別途配布する「2021年度後期～2022年度前期　在宅看護論実習 実習要項」に記載する。
教　　科　　書	実習開始時に提示する。
参　考　文　献	実習開始時に提示する。
事前学習(内容･時間)	オリエンテーション時指示のあった事前課題の作成を行う。
事後学習(内容･時間)	臨地実習開始に伴い実習内容により随時課題に取り組む。
フィードバックの方法	実習中、臨地にて改題指導を行う。
備　　考	**オフィスアワー**　オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	看護系教員	実習	4年次 前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

既習の知識・技術を統合して複数の対象への看護を実践するとともに、医療機関における看護管理の実際を見学し、医療チームの一員として、安全で質の高い看護サービスを提供するための実践的能力を養うための指導を行う。加えて、それらを通して看護専門職としての自己の課題を明らかにできるように指導する。

到 達 目 標

●複数の対象者の状態を把握し、適切な看護援助ができる。
●看護組織における管理について述べることができる。
●看護実践の振り返りを通して、自己の課題を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 総合実習（２週間） ４年次　2021年７月５日（月）～ ８月６日（金） その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 総合実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度 総合実習 実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容･時間)	「看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」、「看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント)」で学んだ内容を復習する。事前課題（６時間)。		
事後学習(内容･時間)	総合実習での体験をふまえ、看護専門職者としての自己の課題を明らかにする（２時間)。		
フィードバックの方法	実習記録のコメントは実習中にフィードバックする。		
備考	看護学科における最終の看護学実習である。これまでに学んだ看護専門分野の内容を総括し、看護の本質を考えながら実習に臨むこと。また、次年度には自分自身が臨床の場にいることを想定し、臨床の場で看護師として具体的にどうような思考・言動をとるべきかを考えながら実習すること。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

助産学専攻科

2021年度　授業計画（SYLLABUS）

目　　次

助産学専攻科

修了要件 …… 152

教育課程 …… 153

実務家教員一覧 …… 154

授業科目（授業要項と授業内容）、凡例 …… 155

Ⅰ　基礎助産学 …… 157

Ⅱ　助産診断・技術学 …… 161

Ⅲ　地域母子保健論 …… 167

Ⅳ　助産管理 …… 169

Ⅴ　助産学実習 …… 171

Ⅵ　助産学実践関連 …… 175

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性とともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的･創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

(1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
(2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
(3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
(4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健･医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
(5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
(6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

アドミッションポリシー

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

１．感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人
２．協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人
３．助産師として地域社会に貢献する意思を持った人
４．幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持っている人

カリキュラムポリシー

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育んでいる。

〈助産学基礎領域〉

(1) ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
(2) マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び
(3) 専門職としての責務と倫理の学び

〈助産学関連領域〉

(1)都市型の健康問題･社会問題について､地域に根ざした助産師としての取り組みができる｢アーバンヘルス」の学び

(2) 乳幼児や家族を対象とした継続ケアが展開できる「アタッチメント・ヨガ、ベビーマッサージ」の学び

(3) アート＝技を駆使し、悲しみに向き合う家族に寄り添う援助者としての働きができる学び

〈助産学実践領域〉

(1) 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び

(2) リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び

(3) 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

ディプロマポリシー

助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践を修得し、専門職者として以下の能力が認められること。

１．グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力

２．他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力

３．専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、１単位は①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学習を要する教育内容をもって構成されています。（大学設置基準第21条）

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の３分の２以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は５分の４以上の出席がなければ単位取得資格が得られません。「StudentGuide Book 2020」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょう。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2021年４月１日

宝塚大学
助産学専攻科

2021(令和3)年度　学年暦

宝塚大学　助産学専攻科
【大阪梅田キャンパス】

	日	月	火	水	木	金	土	備　　考
2021年4月					1	2	3	4/3　入学式 4/1～5　新入生ガイダンス期間
	(4)	5	6	7	8	9	10	4/2　前期履修届提出締切日 4/6　前期授業開始
	(11)	12	13	14	15	16	17	4/13～4/15 履修登録修正期間
	(18)	19	20	21	22	23	24	4/24 全助教学生交流会
	(25)	26	27	28	(29)	30		4/29 平常授業実施
5月							1	
	2	(3)	(4)	(5)	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	5/23　創立記念日
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						
6月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	6/21～24　前期定期試験
	27	28	29	30				
7月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（7/5～10/29）
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	(22)	(23)	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
8月	(1)	2	3	4	5	6	7	
	8	(9)	10	11	(12)	(13)	(14)	
	(15)	(16)	17	18	19	20	21	夏季休業（8/12～16）
	(22)	23	24	25	26	27	28	
	(29)	30	31					
9月				1	2	3	4	
	(5)	6	7	8	9	10	11	
	(12)	13	14	15	16	17	18	9/18～20　宝翔祭期間（予定） うち1日宝翔祭（予定）
	(19)	(20)	21	22	(23)	24	25	9/22　9月卒業者学位記授与式(予定)
	(26)	27	28	29	30			

	日	月	火	水	木	金	土	備　　考
10月						(1)	(2)	
	(3)	4	5	6	7	8	9	
	(10)	11	12	13	14	15	16	
	(17)	18	19	20	21	22	23	
	(24)	25	26	27	28	29	30	
	(31)							
11月		1	2	(3)	4	5	6	11/3　平常授業実施 助産学実習Ⅱ（11/1～11/26）
	(7)	8	9	10	11	12	13	
	(14)	15	16	17	18	19	20	
	(21)	22	(23)	24	25	26	27	11/23　平常授業実施
	(28)	29	30					地域母子保健実習（11/29～12/10）
12月				1	2	3	4	
	(5)	6	7	8	9	10	11	
	(12)	13	14	15	16	17	18	
	(19)	20	21	22	23	24	25	
	(26)	27	(28)	(29)	(30)	(31)		年末年始休業（12/28～1/5）
2022年1月							(1)	
	(2)	(3)	(4)	(5)	6	7	8	
	(9)	(10)	11	12	13	14	15	
	(16)	17	18	19	20	21	22	
	(23)	24	25	26	27	28	29	
	(30)	31						
2月			1	2	3	4	5	
	(6)	7	8	9	10	(11)	12	
	(13)	14	15	16	17	18	19	助産師国家試験
	(20)	21	22	(23)	24	25	26	
	(27)	28						
3月			1	2	3	4	5	
	(6)	7	8	9	10	11	12	3/12　学位記授与式(予定)
	(13)	14	15	16	17	18	19	
	(20)	(21)	22	23	24	25	26	
	(27)	28	29	30	31			

曜日別の授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期		15	15	15	15	15	15
後期		15	15	15	15	15	15

… 授業日
… 定期試験

(印) … 祝日(平常授業実施日)
(印) … 日曜・祝日(休業日)
( ) … 大学施設閉館日

助産学専攻科の修了要件

本専攻科を修了するためには、１年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科

基礎助産学	6単位	以上
助産診断・技術学	11単位	以上
助産学実習	12単位	以上
助産学実践関連	4単位	以上
計	33単位	以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の６つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルス特論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバーを付番しています。科目ナンバーは以下の規則によって付番されています。

科目領域		レベル		科目形式			科目番号（連番）
JSP=専門分野	＋	1=1年次レベル	＋	1=必修 2=選択必修	＋	1=講義 2=講義･演習 3=演習 4=実習	＋ 01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に載せています。

1　協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
2　ディスカッション、ディベート
3　グループワーク
4　プレゼンテーション
5　実習、フィールドワーク
6　その他（上記１～５に当てはまらないアクティブラーニング）

助産学専攻科　教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎助産学	助産学概論	JSP11101	1前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態Ⅰ	JSP11102	1前期	2		30	
	周産期の生理と病態Ⅱ	JSP11103	1前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1前期	1		15	
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1前期	1		15	必修11単位
	助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1前期	2		30	
	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1前期	1		15	
	助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1前期	1		15	
	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	2		60	
	助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	1		30	
地域母子保健論	地域母子保健論	JSP11105	1前期	1		15	
助産管理	助産管理学	JSP11106	1後期	2		30	
助産学実習	助産学実習Ⅰ	JSP11401	1通年	3		135	必修12単位
	助産学実習Ⅱ	JSP11402	1通年	6		270	
	助産学実習Ⅲ	JSP11403	1通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1後期	1		45	
助産学実践関連	助産学研究	JSP11107	1後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルス特論	JSP11108	1後期	1		15	
	アートとグリーフケア	JSP12201	1後期		1	15	選択必修2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1後期		1	30	
修了要件単位数							33単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

実務家教員一覧

担当講師名	専任／非常勤	2021授業科目	科目ナンバー	配当年次	必修	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
南田　智子	専任	助産学概論	JSP11101	1前期	必修	1	30	総合病院では助産師としての臨床経験や、地域母子保健活動では母子訪問や養育支援訪問の経験がある。また看護師としては、看護部長として安全管理ならびに感染管理をマネジメントしてきた経験がある	複雑化する母子や家族をどのようにとらえて支援していくのか。実務経験を活かして健康の社会決定要因を踏まえたアセスメントや支援のあり方を教授する。
		助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1前期	必修	2	30		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		
		助産管理学	JSP11106	1後期	必修	2	30		
		助産学研究	JSP11107	1後期	必修	1	30		
小神野　雅子	専任	助産学概論	JSP11101	1前期	必修	1	30	総合病院で助産師としての臨床経験、病棟係長の経験がある。また健康福祉センターの地域母子保健担当保健師の経験もある。	臨床での実務経験を活かし、講義科目では臨床症例を紹介しながら実践的な講義を行う。演習科目では経験知を交えて、より臨床で求められる内容の指導を行っていく。
		助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		
		助産管理学	JSP11106	1後期	必修	2	30		
		アートとグリーフケア	JSP12201	1後期	必修	1	15		
		アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1後期	選択	1	30		
		アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1後期	選択	1	30		
中尾　幹子	専任	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1前期	必修	1	15	総合病院で助産師として臨床経験および地域での母子訪問活動経験がある。	臨床や地域母子保健活動での実務経験を活かしながら、最新のデータや法制度についても提示し教授する。
		助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		
		地域母子保健論	JSP11105	1前期	必修	1	15		
阪田　あみ	専任	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1前期	必修	2	60	助産師としての臨床経験、性教育、看護系予備校講師の経験がある。	助産師の実習指導者の経験を活かし分娩介助技術を教授する。
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1前期	必修	1	30		

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡　例

2021年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

１．授業科目は以下の分野に分かれています。

Ⅰ．基礎助産学
Ⅱ．助産診断・技術学
Ⅲ．地域母子保健論
Ⅳ．助産管理
Ⅴ．助産学実習
Ⅵ．助産学実践関連

２．授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の２種類に分かれています。

Ⅰ　基　礎　助　産　学

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	南田　智子 小神野雅子	講義	1年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を概説し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について教授する。助産の変遷や国際比較、母子保健の動向や生命倫理についての学びを通し、自己の助産観、倫理観を養うことを目的とする。

到 達 目 標

●助産の意義と基本概念を理解し、説明できる。
●助産の変遷を学び、母子保健の動向や今日の助産師活動を説明できる。
●助産師教育・助産師業務の国際比較を学び、課題を述べることができる。
●助産師として職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	助産の概念　助産の定義・意義・対象　助産の変遷①
第２回	助産の変遷②　助産の将来
第３回　AL 4	助産の社会文化的側面：産育風習について
第４回	助産師の専門性と責任
第５回	助産学を支える理論
第６回	助産師教育の変遷（日本および諸外国）
第７回	助産の国際比較（助産師教育と助産師業務）
第８回　AL 2	女性の健康と人権
第９回	母子保健の動向と諸制度
第10回　AL 2	倫理とは
第11回　AL 2	生殖補助医療をめぐる問い
第12回　AL 2	AIDと代理出産をめぐって―高度生殖補助医療の問題
第13回　AL 2	人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題
第14回　AL 2	出生前診断と「いのちの選別」をめぐる問い
第15回	私の助産師観

成績評価方法	定期試験（レポート）80%　成果物 20%		
教科書	『助産学講座１ 基礎助産学[1] 助産学概論』我部山キヨ子、武谷雄二編（医学書院）		
参考文献	適宜、提示します。		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義内容を復習すること（１時間)。		
フィードバックの方法	講義内でのプレゼンテーションにはコメントを返します。質問などには、講義内で対応します。		
備考	助産の歴史や、助産師の役割･責任について学び、助産師としての基本的な姿勢を培います。専門職者としての意識をもち、授業に臨みましょう。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携･協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅰ	藤田圭衣子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な病態生理を理解し、生理的経過をアセスメントするための基礎知識を教授する。助産師として正常な妊産褥婦、新生児の経過診断ができるよう、臨床での具体的な事例や検査データーなどを示しながら講義する。

到 達 目 標

●妊娠期の母体と胎児の生理的変化を理解し、説明できる。
●分娩の３要素、分娩機転、分娩期の母体と胎児の生理的変化を理解し説明できる。
●産褥婦と新生児の生理的変化を理解し、説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	妊娠期の生理と病態①
第２回	妊娠期の生理と病態②
第３回	妊娠期の生理と病態③
第４回	妊娠期の生理と病態④
第５回	分娩期の生理と病態①
第６回	分娩期の生理と病態②
第７回	分娩期の生理と病態③
第８回	分娩期の生理と病態④
第９回	産褥期の生理と病態①
第10回	産褥期の生理と病態②
第11回	産褥期の生理と病態③
第12回	妊娠期の栄養①
第13回　AL 3	妊娠期の栄養②
第14回	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

成績評価方法	定期試験（筆記）100％		
教科書	『最新産科学　正常編』荒木勤（文光堂）、『病気がみえる vol.10 産科（第３版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA）、『助産学講座２ 基礎助産学[2] 母子の基礎科学』我部山キヨ子編（医学書院）、『助産学講座３ 基礎助産学[3] 母子の健康科学』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（２時間）。		
事後学習(内容･時間)	講義資料を見直して、復習すること（２時間）。		
フィードバックの方法	質問などには講義内に対応します。試験結果は閲覧可能です。間違ったところは見直しをしてください。		
備考	助産実践の基礎となる病態生理です。しっかり取り組みましょう。	**オフィスアワー**	講義終了後30分

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅱ	堀　謙輔	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

助産師として自ら母体や胎児をアセスメントし、ケアを行うために必要な知識、すなわち、妊娠期・分娩期・産褥期における母体と胎児の異常な経過と分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症について、その概要、診断法、治療法についての産婦人科診療ガイドラインを中心とした最新の医学的根拠や講師の臨床経験を織り交ぜて講義する。

到 達 目 標

●妊娠期の異常とハイリスク妊娠について説明できる。
●分娩期の正常からの逸脱状態を診断でき、異常分娩の際の処置や対応を説明できる。
●産褥期ならびに新生児期の異常について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	妊娠期の異常①
第２回	妊娠期の異常②
第３回	妊娠期の異常③
第４回	妊娠期の異常④
第５回	分娩期の異常①
第６回	分娩期の異常②
第７回	分娩期の異常③
第８回	分娩期の異常④
第９回	産褥期の異常①
第10回	産褥期の異常②
第11回	産褥期の異常③
第12回	無痛分娩の基礎
第13回	無痛分娩の管理
第14回	産褥期の栄養
第15回	ハイリスク新生児の生理と病態

成績評価方法	定期試験（筆記）100％		
教科書	『最新産科学　正常編』『最新産科学　異常編』荒木勤（文光堂）、『病気がみえる vol.10 産科（第３版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA）、『助産学講座２ 基礎助産学[2] 母子の基礎科学』我部山キヨ子編（医学書院）、『助産学講座３ 基礎助産学[3] 母子の健康科学』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）、 『産婦人科診療ガイドライン産科編2020』（日本産科婦人科学会）		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当ページを読んでくること（２時間）。		
事後学習(内容･時間)	各自講義内容を復習すること（２時間）。		
フィードバックの方法	質問事項については、授業内で解説します。講義中に、基礎知識の振り返りや忌憚のない意見を求めて、質問することがあります。		
備考		**オフィスアワー**	講義終了後30分
ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	生島　博之	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

・女性を取り巻く心理社会状況について、科学的根拠を重視しながら以下の視点から解説する。
・女性のライフサイクルと心理社会的諸問題
・周産期にみられる心理社会的諸問題と科学的根拠のある援助技法

到 達 目 標

●それぞれのライフステージで起こりやすいメンタルヘルスの諸問題を具体的に挙げ、効果的な援助技法を説明できる。
●周産期女性のメンタルヘルスを維持・増進させる客観的援助技法を身につける。
●母親・父親・子どもと社会のあり方についての問題点を指摘できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	思春期・青年期女性の発達と心理・社会的問題
第２回	妊娠・出産をめぐる諸問題
第３回	妊娠・出産後の女性のメンタルヘルス
第４回	更年期・老年期女性の発達と心理・社会的課題
第５回	家族関係の発達と課題①－母子関係の形成と課題－
第６回	家族関係の発達と課題②－父子関係・夫婦関係と子どもの発達－
第７回	家族と社会－拡大家族から核家族へ（家族の機能不全・病理）－
第８回	母親・父親・子どもと社会

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	『助産学講座４　基礎助産学[4] 母子の心理・社会学』我部山キヨ子・菅原ますみ編（医学書院）		
参考文献	毎回の授業の中で、関連する図書や論文を紹介しますので事後学習として読んでください。		
事前学習(内容･時間)	次回の授業のテーマを確認し、教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておくこと（２時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義内容を復習し、自主的な発展学習をおこなうこと（２時間)。		
フィードバックの方法	質問などについては、講義内で解説します。		
備考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。 質問などについては、講義内で解説します。	オフィスアワー	授業前後30分

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	△

Ⅱ　助産診断・技術学

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

助産診断、マタニティ診断について教授する。本科目は、妊娠の生理とフィジカルアセスメントの視点を学ぶことにより、妊娠期の助産診断が出来る能力を養うことが目的である。また、妊婦への身体的ケア、心理的ケアの具体的な方法を教授する。科目内での講義をもとに、妊娠期の事例を展開し、助産診断、助産計画の実際が理解できるよう指導する。

到達目標

●妊婦の身体・心理・社会的状態について診断し、必要な援助の助産計画を立案できる。
●妊婦と家族への支援内容や援助技術について説明できる。
●妊娠期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個別性に応じた支援を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	助産診断とマタニティ診断
第2回	妊娠期の助産診断
第3回	妊娠期の援助技術
第4回 AL 2	妊娠初期の助産診断
第5回 AL 2	妊娠初期の助産計画
第6回 AL 2	妊娠中期の助産診断と助産計画
第7回 AL 2	妊娠後期の助産診断と助産計画
第8回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%		
教科書	『助産学講座5　助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院)、『助産学講座6　助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期』我部山キヨ子編（医学書院)、『実践マタニティ診断（第5版)』日本助産診断・実践研究会（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（第4版)』北川眞理子編（南江堂）		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（2時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義内容を復習し提示された課題に取り組む（2時間)。		
フィードバックの方法	妊娠各期の助産過程は各自で記述したものにコメントを返します。		
備考	事例を用いて、妊娠期の助産過程を展開します。 実習に直結する内容です。気を引き締めて取り組みましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携･協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅱ	南田　智子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

正常分娩およびハイリスク分娩の生理とフィジカルアセスメントの視点から、分娩期における助産診断および助産計画立案の思考過程と、産婦およびその家族に対する身体的・心理的ケアの具体的な内容や方法について教授する。

到 達 目 標

●分娩各期の助産診断、異常分娩時の助産診断の思考を取得できる。
●分娩各期および異常分娩時の助産計画が立案できる。
●産婦と家族への支援内容や援助方法について述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	分娩の生理と心理社会的変化
第２回	分娩期の助産診断・フィジカルアセスメント
第３回	分娩介助と産婦の支援、分娩監視装置の判読
第４回　AL 2	正常分娩の助産診断①
第５回　AL 2	正常分娩の助産診断②
第６回　AL 2	正常分娩の助産診断③
第７回　AL 2	正常分娩の助産診断④
第８回	ハイリスク・異常分娩および産科的医療処置
第９回　AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画①
第10回　AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画②
第11回　AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画③
第12回　AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画④
第13回　AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画⑤
第14回　AL 2	異常分娩の助産診断・助産計画⑥
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%		
教科書	『助産学講座７ 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院）、 『実践マタニティ診断（第５版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（第４版）』北川眞理子編（南江堂）		
事前学習(内容･時間)	該当する教科書の内容を読み、要点をまとめておく（２時間）。		
事後学習(内容･時間)	既習の講義内容については、復習ノートを作成する（２時間）。		
フィードバックの方法	レポートはコメントをつけて授業中に返却します。		
備考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	中尾　幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11203

科目の概要

褥婦の生理とフィジカルアセスメントの視点から、産褥期における助産診断および助産計画立案の思考過程を講義する。セルフケア能力に応じた支援および逸脱への予防的支援、母乳育児のための支援、親役割獲得や家庭・社会生活復帰のための支援など具体的な内容や支援方法を教授する。

到 達 目 標

●助産診断の視点に沿って情報収集・情報分類を行い、情報を解釈・分析してアセスメントできる。
●事例課題について逸脱への予防的支援、親役割獲得のための支援、家庭・社会生活復帰のための支援を立案できる。
●産褥期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援及び異常発生時の対応について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	産褥期の助産診断の視点
第２回　AL 2	産褥期の正常経過事例での助産診断
第３回　AL 2	産褥期の助産計画
第４回	母乳育児のための支援
第５回	親役割獲得のための支援
第６回	家庭・社会生活復帰のための支援
第７回　AL 2	ハイリスク状態における助産過程の展開
第８回　AL 2	心理・社会的問題をもつ事例での助産過程の展開

成績評価方法	定期試験（筆記）70%　成果物 30%		
教科書	『助産学講座７ 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院）、 『実践マタニティ診断（第５版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（第４版）』北川眞理子編（南江堂）、『よくわかる母乳育児』水野克己他（へるす出版）		
事前学習(内容･時間)	該当する教科書の内容をよく読んでおくこと（２時間）。		
事後学習(内容･時間)	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと（２時間）。		
フィードバックの方法	レポート類はコメントをつけて返却します。		
備考	助産実践のための基礎的能力を身につけられるよう積極的に学びましょう。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅳ	中尾　幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の適応過程ならびに生理的変化とフィジカルアセスメントの視点から、正常新生児の基本的な助産診断、助産計画の思考過程を講義する。また、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、かかり易い疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関するケアの具体的な内容や方法を教授する。

到 達 目 標

●新生児期の助産診断、助産計画が立案できる。
●母児一貫したケアの重要性を認識し、支援内容について述べることができる。
●新生児に関わる際の倫理的な態度、留意点について指摘できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	新生児の生理学的適応過程
第２回　AL 5	新生児のフィジカルアセスメント
第３回	出生時・出生後の早期新生児ケア
第４回	家庭生活へのフォローアップおよび乳幼児の健康診査
第５回　AL 2	新生児の助産診断①
第６回　AL 2	新生児の助産診断②
第７回　AL 2	新生児の助産診断③
第８回　AL 2	新生児の助産診断④

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%		
教科書	『助産学講座８ 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期』横尾京子編（医学書院）、 『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）		
参考文献	『新生児・周産期 ナースの疾患別ケアハンドブック』戸苅 創（メディカ出版）		
事前学習(内容･時間)	該当する教科書の内容を読み、要点をまとめておく（２時間)。		
事後学習(内容･時間)	既習の講義内容については、復習ノートを作成する（２時間)。		
フィードバックの方法	レポートはコメントをつけて授業中に返却します。		
備考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅰ	南田・小神野 中尾・阪田	演習	1年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産師に求められる実践応力として、周産期（妊娠期～産褥１か月）の妊産褥婦および胎児・新生児の健康診断・健康生活診断に必要な基礎的診断技術や援助技術を教授する。

到 達 目 標

●妊婦健康診査に必要な診断技術を修得し、妊婦に必要な保健指導を実践できる。
●安全、安楽な分娩介助技術を修得する。
●新生児期、産褥期に必要な診断技術を修得し、母乳育児支援に必要な技術を修得する。
●新生児蘇生法（Ａコース）に必要な知識、技術を修得する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	妊婦の健康診査と保健指導　①
第２回　AL 4	妊婦の健康診査と保健指導　②
第３回　AL 4	妊婦の健康診査と保健指導　③
第４回	分娩介助技術　①
第５回	分娩介助技術　②
第６回	妊婦の診断援助技術：レオポルド触診法、骨盤外計測、着帯
第７回	産婦の診断援助技術：内診、CTG装着、骨盤ベルト装着
第８回	産婦の援助技術①：分娩促進援助
第９回	産婦の援助技術②：分娩促進援助
第10回	産婦の診断技術：退行性変化の観察
第11回	新生児の診断技術：出生直後の観察、身体計測
第12回	新生児の援助技術：沐浴
第13回	母乳育児支援①
第14回	母乳育児支援②
第15回　AL 5	分娩介助技術③：会陰縫合術
第16回　AL 4	分娩介助技術④
第17回　AL 4	分娩介助技術⑤
第18回　AL 4	分娩介助技術⑥
第19回　AL 4	分娩介助技術⑦
第20回　AL 4	分娩介助技術⑧
第21回	分娩介助技術チェック①
第22回	分娩介助技術チェック②
第23回	分娩介助技術チェック③
第24回	分娩介助技術チェック④
第25回	新生児蘇生法　①
第26回	新生児蘇生法　②
第27回	新生児蘇生法　③
第28回	新生児蘇生法　④
第29回	超音波診断技術　①
第30回	超音波診断技術　②

成績評価方法	小テスト 50%　定期試験（実技）50%		
教科書	『助産学講座６・７・８』(医学書院)、『母乳育児支援スタンダード（第２版)』ＮＰＯ法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（医学書院)、『新生児蘇生法テキスト』細野茂春監修（メジカルビュー社）		
参考文献	『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子（医学書院）		
事前学習(内容･時間)	既習の基礎看護技術を各自復習しておくこと（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	各診断技術、援助技術、分娩介助技術などは繰り返し練習して身に付けること（１時間)。		
フィードバックの方法	技術演習の際は、講義内で適宜、評価コメントを返します。		
備考	保健指導のロールプレイ、助産技術に関する技術テストを実施します。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	南田・小神野 中尾・阪田	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における健康問題と援助の必要性について教授する。健康教育の在り方および必要性について解説し、実際に両親学級の計画から実施までを行えるよう指導する。また性と生殖にかかわる専門家として、家族計画を実践するために必要な知識と技術を教授する。

到 達 目 標

●ライフサイクル各期における女性の健康問題と援助について説明できる。
●健康教育の計画、立案、実施、評価のプロセスを実践できる。
●家族計画指導に必要な知識と技術を身につけ、ロールプレイで実施する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	援助としての相談・教育活動と健康教育
第２回	女性の健康問題と援助〈思春期の健康問題〉
第３回	女性の健康問題と援助〈成熟期の健康問題〉
第４回　AL 2	女性の健康問題と援助〈不妊と生殖補助医療〉
第５回	女性の健康問題と援助〈更年期、老年期の健康問題〉
第６回	家族計画指導について
第７回　AL 4	受胎調節に必要な知識と技術①
第８回　AL 4	受胎調節に必要な知識と技術②
第９回	両親学級について
第10回　AL 3	健康教育の企画①
第11回　AL 3	健康教育の企画②
第12回　AL 3	健康教育の企画③
第13回　AL 3	健康教育の企画④
第14回　AL 5	健康教育の実際①
第15回　AL 5	健康教育の実際②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	『助産学講座５ 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）、 『受胎調節指導用テキスト』北村邦夫監修（一般社団法人日本家族計画協会）		
参考文献	適宜、提示する。		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	各自担当の保健指導案、媒体の作成（１時間)。		
フィードバックの方法	保健指導案は随時担当教員が確認し、コメントを返します。		
備考	受胎調節指導はロールプレイの実施、両親学級は学内での実施を予定しています。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

Ⅲ　地域母子保健論

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	中尾　幹子	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11105

科目の概要

地域社会で生活する母親・子ども・父親や家族が置かれている社会的背景や現状、統計的水準、法制度および母子保健の課題について講義する。子どもの成長・発達に応じた母子や家族への支援および地域社会で活動する他職種や組織との連携・協働について教授する。

到 達 目 標

●母子保健に関する統計資料を分析し、母子保健の現状と動向を考察し説明できる。
●母子保健行政の仕組みや母子保健施策、地域で生活する母子と家族への支援システムについて説明できる。
●地域で生活する母子と家族を支援する助産師の役割､他職種や関係機関との連携･協働について考察し述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション、地域の概念と地域母子保健の意義
第２回	母子保健の現状と動向
第３回	地域母子保健行政の体系
第４回	地区診断と地域母子保健活動の実際
第５回　AL 2	地域母子保健活動の展開①
第６回　AL 2	地域母子保健活動の展開②
第７回	国際母子保健①
第８回	国際母子保健②

成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記）70%　定期試験（レポート）30%		
教　　科　　書	『助産学講座９　地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子編（医学書院）		
参　考　文　献	『わが国の母子保健　令和２年』公益社団法人母子衛生研究会（母子保健事業団）		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（２時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義内容を復習すること（２時間)。		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します。定期試験の結果は閲覧可能です。		
備　　考	多面的な視点から母子保健活動の実際や課題を明らかにできるよう、積極的に学んでいきましょう。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

Ⅳ　助　産　管　理

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	南田　智子 小神野雅子	講義	1年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識および、産科病棟・院内助産システム・助産院など実践場所ごとの管理の特徴や課題、リスクマネージメントの方法などを教授する。医療事故については具体的な事例を挙げ、リスクマネージメントのあり方についてより身近な問題として各自が考えられよう講義する。

到 達 目 標

●助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を述べることができる。
●助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力について説明できる。
●開業助産院や院内助産の開設と運営方法について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	授業ガイダンス　看護管理・助産管理の基本　助産管理の概念
第２回	助産と医療経済　助産業務と関連法規　助産師の法的責任と義務
第３回	周産期の医療事故とリスクマネージメント①
第４回	周産期の医療事故とリスクマネージメント②
第５回	病院における助産業務管理過程　助産業務管理方法
第６回	病院における助産業務管理
第７回	周産期管理システム（新生児集中治療室）
第８回	周産期管理システム（母体搬送システム　オープンシステム）
第９回	院内助産システムについて
第10回	災害時の助産管理　助産師活動
第11回	助産師として考える倫理
第12回	望ましい助産ケアと助産管理
第13回	開業助産院における助産管理①
第14回	開業助産所における助産管理②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）100％		
教科書	『助産学講座10　助産管理』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ』福井トシ子（日本看護協会出版会）		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（２時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義内容の復習をすること（２時間)。		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します。定期試験の結果は閲覧可能です。間違った部分を復習してください。		
備考	助産管理と聞いても、イメージしにくいかと思いますが、助産師としては理解しておくべき内容ばかりです。楽しく管理を学びましょう。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	△

V　助　産　学　実　習

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅰ	南田・小神野 中尾・阪田	実習	1年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行えるよう指導する。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実際の見学を通し、施設における助産管理の実際や助産業務の範囲について理解できるよう指導する。

到 達 目 標

●妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
●妊娠各期の対象に必要な保健指導案を作成し、実施できる。
●病棟、外来における助産業務管理・運用を見学し、助産管理の実際や助産業務管理について説明できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅰ実習（２週間） 2021年７月12日（月）～ ９月17日（金）のうち２週間 ○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 関西労災病院 恵生会病院 第二協立病院　他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度　助産学実習　実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容･時間)	関連する講義・演習内容を復習する（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（１時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問･相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	学内演習の成果を発揮して、保健指導を実施しましょう。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	南田・小神野 中尾・阪田	実習	1年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期にある女性とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行えるよう指導します。本実習では10例程度の正常分娩の直接介助を行います。分娩直接介助・間接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得できるよう指導します。

到 達 目 標

●分娩期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
●産婦、新生児への身体的及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。(分娩介助を含む)
●分娩経過中の胎児の健康状態を判断し必要な援助を実施することができる。
●正常経過の産婦に対して、分娩介助手順に従って、安全・安楽に分娩介助が実施できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅱ（６週間） 2021年７月12日（月）～ 11月26日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 関西労災病院　恵生会病院　第二協立病院 阪南中央病院　八尾市立病院　他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度　助産学実習　実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容･時間)	必要な援助技術について練習すること（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（１時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	長期間および不規則な実習形態になります。体調管理をして臨んでください。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	南田・小神野 中尾・阪田	実習	1年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

１名の対象者を妊娠中から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産褥１か月健診等を通して、アセスメントできるよう指導すると共に、対象者の個別性を考慮した継続的な支援を行えるよう導く。

到 達 目 標

●妊娠期から産褥・新生児期（乳児期）までを継続して受け持ち助産過程を展開し、助産診断能力、助産実践能力を修得する。
●受け持ち妊産褥婦と家族に必要な保健指導を実施できる。
●継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を説明できる。
●受け持ち母子の人権を尊重し、擁護できる。
●継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、自身の助産師観を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅲ（２週間） 2021年７月12日（月）～ 10月29日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 関西労災病院　恵生会病院　第二協立病院　他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度　助産学実習　実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容･時間)	関連する講義・演習内容を復習すること（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（１時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問･相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	受け持たせていただく対象者に、より良い妊娠分娩産褥期を過ごしてもらえるように知識と技術を統合して取り組みましょう。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健実習	南田・小神野 中尾・阪田	実習	1年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての褥婦、新生児の訪問指導や地域組織活動、地域子育て支援の実際を学ぶ実習科目である。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、地域的な視点からの母子保健活動の基礎を理解できるよう指導する。

到 達 目 標

●大阪市の各地域における母子保健上の課題について、情報収集を行い考察し、説明できる。
●産前産後ケアセンターでの取り組みや利用者の実態を知り、包括的な母子支援について自身の考えを述べることができる。
●助産院における助産師活動の実際を学び、地域における助産師の役割について述べる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
AL 5	○実習期間：下記のいずれかで行う。 地域母子保健実習（１週間） 2021年11月29日（月）～ 12月17日（金） ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪市内保健センター 大阪府助産師会産前産後ケアセンター 助産院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2021年度 助産学実習 実習要項」による。

成績評価方法	別途配布する「2021年度　助産学実習　実習要項」に記載する。		
教科書	実習開始時に提示する。		
参考文献	実習開始時に提示する。		
事前学習(内容･時間)	関連する講義内容を復習。担当地域の情報収集をする（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	実習記録をまとめ、自己評価する（１時間)。		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。		
備考	病院実習とは違う視点で、助産師の役割や母子保健について学べる実習です。目的を明確に持って、実習に参加しましょう。積極的に意見交換をして、学びを深められるようにしてください。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

Ⅵ　助産学実践関連

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	南田　智子	講義	1年次 後期	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産学における研究の意義や重要性が理解でき、研究的視点に立ったエビデンスに基づくケアの利益について、父親・母親・新生児を含めた家族や助産師そして社会の観点から考え、研究計画の立案、および論文作成に必要な思考過程を教授する。

到 達 目 標

●研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して理論的推論を発達させ、研究活動が展開できる。
●事例研究として対象に実施した助産ケアを振り返り、エビデンスに基づくケアの利益について分析・考察できる。
●事例研究の成果を発表し、活発的な質疑応答を行うことができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	イントロダクション：助産学研究とは
第２回	研究のアプローチ：質的研究・量的研究・事例研究・文献検討
第３回	倫理的配慮、文献検索
第４回	文献クリティーク①
第５回　AL 3	文献クリティーク②
第６回　AL 5	文献検索・文献検討①
第７回　AL 5	文献検索・文献検討②
第８回	研究計画書の立案
第９回　AL 2	事例研究の分析・展開①
第10回　AL 2	事例研究の分析・展開②
第11回　AL 2	事例研究の分析・展開③
第12回　AL 2	事例研究の分析・展開④
第13回　AL 2	事例研究の分析・展開⑤
第14回　AL 4	研究発表①
第15回　AL 4	研究発表②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	適宜資料を配布します。		
参考文献	『わかりやすいケーススタディーの進め方』松本孚（照林社）、 『看護における研究』南裕子（日本看護協会出版社）		
事前学習(内容･時間)	講義時に紹介する文献を次回講義までに読んでおくこと（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義終了時に出す課題についてレポートを作成する（１時間)。		
フィードバックの方法	課題は個別的に指導し返却します。		
備考	意見交換時には、積極的に発言し、授業に参加してください。 指導教員と相談しながら計画的に進めてください。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携･協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アーバンヘルス特論	日高　庸晴	講義	1年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・HIV／AIDSといった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到 達 目 標

●差別やスティグマに直面しがちな健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って説明できる。
●実証研究によって示されるエビデンスに加えて、アクションリサーチなどの介入研究によって示される知見を通じて、考察を述べることができる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	イントロダクション
第２回　AL 2	わが国の都市部におけるHIV感染リスク行動の現状
第３回　AL 2	HIV／STI感染予防のための健康教育の実際
第４回　AL 2	性的指向・性自認・性別表現と健康課題1
第５回　AL 2	性的指向・性自認・性別表現と健康課題2
第６回　AL 2	子どもの虐待
第７回　AL 2	性暴力被害の現状と支援
第８回　AL 2	都市部の若者における薬物使用の現状

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	『もっと知りたい！話したい！セクシュアルマイノリティ　ありのままのきみがいい　１巻』日高庸晴（汐文社）		
参考文献	適宜紹介します。		
事前学習(内容･時間)	第１回イントロダクション･講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（２時間）。		
事後学習(内容･時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（２時間）。		
フィードバックの方法	質問やコメントに対しては講義内でシェアし、解説します。		
備考	講義中の私語・携帯電話の使用等は厳禁とします。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	小神野雅子 坂下　裕子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

女性の健康問題や周産期医療に携わる助産師にとって、グリーフケアは避けては通れないものです。助産師として、対象者のグリーフに寄り添えるよう、講義内ではグリーフケアの基本的考え方、母親や家族へのグリーフケアのあり方を解説し、母親自ら行うグリーフワークや医療者自身のグリーフケアについても説明します。また、グリーフケアについて考えを深められるよう、自己の思いを言語化したり、他者の考えを聞くことを大切にしながら講義をします。

到 達 目 標

●深刻な喪失に伴うさまざまな反応に関する「知識」について説明できる。
●母親の心の揺れに寄り添うために必要な「技能」について解説できる。
●答えのない問いや、解決のつかない問題に対する「考え方」を類別できる。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	助産師とグリーフケア
第２回	グリーフとは何か　広義のグリーフケアから
第３回	周産期のグリーフ「公認されない悲嘆」「あいまいな喪失」など
第４回	言語的グリーフケア-1　日本語のはたらき
第５回　AL 6	言語的グリーフケア-2　グリーフケアカードの作成
第６回	非言語的グリーフケア-1　グリーフへの寄り添い方
第７回　AL 6	非言語的グリーフケア-2　産着の作成
第８回	ピアサポート-1　「わかちあい」の運営方法
第９回　AL 2	ピアサポート-2　「わかちあい」の事例検討
第10回　AL 2	体験者の思いを推察する　手記集を通して
第11回　AL 6	グリーフワークプログラム「りんごの木」の作成
第12回	子どものグリーフ　幼いきょうだい児へのグリーフケア
第13回	ケアする人のためのケアについて
第14回　AL 3	「グリーフカフェ」の実践
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）70%　成果物 30%		
教科書	『家族にとってのグリーフケア』坂下ひろこ編著（彩流社）		
参考文献	『NICUとこころのケア 家族のこころによりそって』橋本洋子（メディカ出版）他、適宜提示します。		
事前学習(内容･時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	各回に次回までの課題を提示するので各自取り組むこと（１時間)。		
フィードバックの方法	講義内の発表や質問には適宜対応します。提出物については返却時にコメントをします。		
備考	グリーフケアはとても難しいものですが、大切なものでもあります。一緒に考えていきましょう。	**オフィスアワー**	講義終了後30分

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携･協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から子育て初期段階の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識と共にカウンセリングの基礎も学び、実践的な技能を教授する。科目終了時には、アタッチメントヨガforマタニティ＆ベビーのインストラクター資格の取得に必要な知識とスキル、技能を習得し、資格を取得することが可能となる。

到 達 目 標

●アタッチメントヨガに必要な発達心理学の基礎を理解し、説明できる。
●アタッチメントヨガに必要なカウンセリングの基礎について述べることができる。
●アタッチメントヨガのインストラクター資格取得に必要なスキルを修得する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション
第２回	アタッチメント理論
第３回	マタニティ　アタッチメント
第４回	ベビー　アタッチメント
第５回	アタッチメントヨガ　理論
第６回　AL 3	アタッチメントヨガ　実技　マタニティ①
第７回　AL 3	アタッチメントヨガ　実技　マタニティ②
第８回　AL 2	カウンセリング　＆　対人援助
第９回　AL 3	アタッチメントヨガ　実技　ベビー①
第10回　AL 3	アタッチメントヨガ　実技　ベビー②
第11回	教室運営
第12回	ヨガ　概論
第13回　AL 3	企画作りワーク
第14回　AL 4	インストラクション演習
第15回	まとめと振り返り

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　定期試験（実技）20%		
教科書	『アタッチメント・ヨガテキスト』『アタッチメント・ヨガ概論』アタッチメント育児協会		
参考文献	なし		
事前学習(内容･時間)	アタッチメントベビーマッサージの発達心理学の内容を復習してください。ストレッチをして講義に望みましょう（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	講義内容の復習、実技の自己練習をしてください（１時間)。		
フィードバックの方法	質問については講義時間内に解説します。		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。 ヨガをして、自分の心と身体に向き合う時間を楽しんでください。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ ベビーマッサージ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12203

科目の概要

アタッチメント理論について理解し､ベビーマッサージが母親と子どもの非言語的コミュニケーションツールとして母子相関係の形成に相互的に役立つこと、またインストラクターの資格を取得するためのベビーマッサージの意義、効用、基本的な手技について教授する。

到 達 目 標

●発達心理学について説明できる。
●根拠に基づいたベビーマッサージの理論を指摘できる。
●アタッチメント・ベビーマッサージのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。

授 業 内 容

授業回数・AL	授　業　計　画
第１回	オリエンテーション
第２回	アタッチメント育児①
第３回	アタッチメント育児②
第４回	育児に役立つ発達心理学①
第５回	育児に役立つ発達心理学②
第６回　AL 3	「アタッチメント・発達心理」ワーク
第７回	自己心理学
第８回　AL 3	コフートワーク　振り返りとワークの意義
第９回	育児現場における自己対象体験カウンセリング
第10回	ベビーマッサージ理論
第11回　AL 5	アタッチメントベビーマッサージ　インストラクション①
第12回　AL 5	アタッチメントベビーマッサージ　インストラクション②
第13回　AL 4	インストラクション演習①
第14回　AL 4	インストラクション演習②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）80%　成果物 20%		
教科書	「アタッチメント・ベビーマッサージ」テキスト		
参考文献	なし		
事前学習(内容･時間)	該当するテキストの内容を読んでおく（１時間)。		
事後学習(内容･時間)	習得した講義内容については、復習ノートを作成する（１時間)。		
フィードバックの方法	インストラクションについては実施後に評価コメントをします。質問については授業内で解説を行います。		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。	**オフィスアワー**	オフィスアワー一覧表参照

ディプロマ･ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1　グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2　他職種と連携･協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3　専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	△	○

2021年度　シラバス（授業計画）

編集・発行　宝塚大学　大阪梅田キャンパス
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目13番16号
TEL　06-6376-0853
FAX　06-6373-4829

発　行　日　2021年４月１日